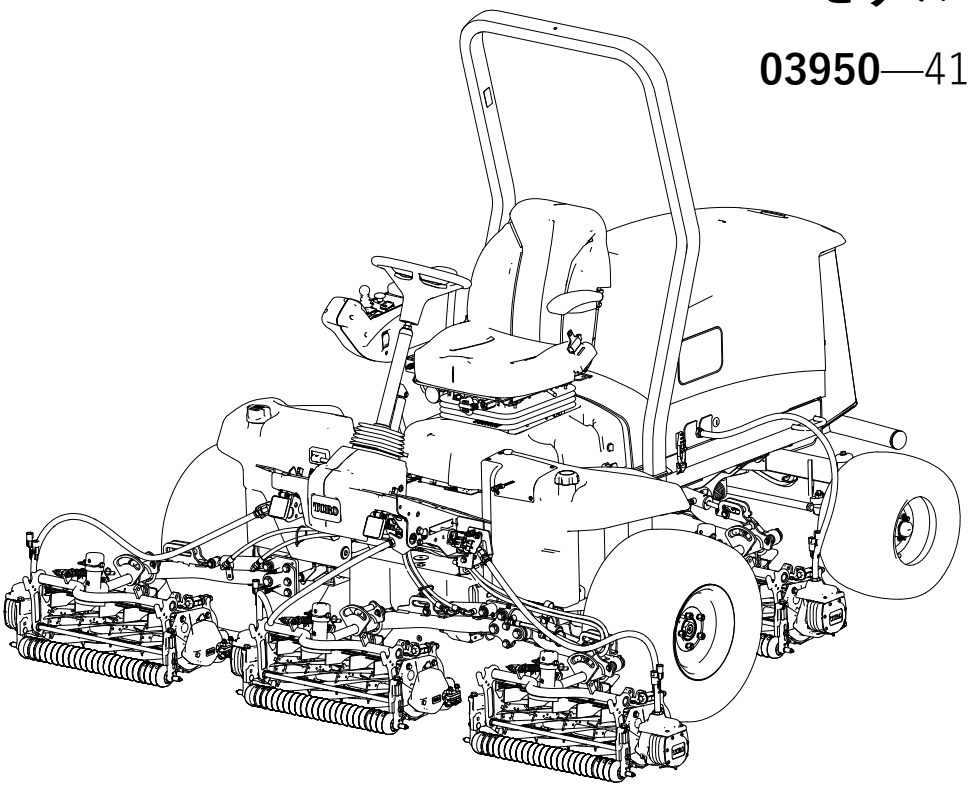
# オペレーターズマニュアル

# Reelmaster® 5010-Hトラクションユニット

## モデル—シリアル番号範囲

**03950**—418200000 およびそれ以上



3484-778A

原本の翻訳 (JA)

*3484-778*

# 免責事項と規制情報

この製品は、関連するEU規制に適合しています。詳細については、DOC シート（規格適合証明書）をご覧ください。

カリフォルニア州の森林地帯・潅木地帯・草地などでこの機械を使用する場合には、エンジンに同州公共資源法第4442章に規定される正常に機能するスパークアレスタが装着されていること、エンジンに対して森林等の火災防止措置をほどこされていることが義務づけられており、これを満たさない機械は、第4442章または4443章違犯となります。

エンジンの保守整備のため、および米国環境保護局（EPA）並びにカリフォルニア州排ガス規制に関連してエンジンマニュアルを同梱しております。エンジンマニュアルはエンジンのメーカーから入手することができます。

このマシンにテレマティクスデバイスが装備されている場合、Toro認定代理店にお問い合わてデバイスをアクティベートしてください。

**⚠ 警告**

カリフォルニア州
第 65 号決議

カリフォルニア州では、この製品に搭載されているティーゼルエンジンの排気ガスおよびその構成成分には発癌性や先天性異常の原因となる物質が含まれているとされております。

バッテリーの電極部や端子などの部分には鉛や鉛含有物質が含まれており、カリフォルニア州では、これらの物質が癌や先天性異常の原因となるとされております。取扱い後は手を洗ってください。

米国カリフォルニア州では、この製品を使用した場合、ガンや先天性異常などを誘発する物質に触れる可能性があるとされております。

# 目次


免責事項と規制情報 ..... 2
章 1: はじめに ..... 1–1
使用目的 ..... 1–1
わからない時は ..... 1–1
取り扱い説明書の表記について ..... 1–2
安全警告の分類 ..... 1–2
章 2: 安全 ..... 2–1
安全に関する一般的な注意 ..... 2–1
運転前の安全確認 ..... 2–1
燃料についての安全事項 ..... 2–2
運転中の安全確認 ..... 2–2
横転保護バー（ROPS）についての安全確認 ..... 2–3
斜面での安全確保 ..... 2–3
運転終了後の安全確認 ..... 2–4
保守作業時の安全確保 ..... 2–4
エンジンの安全事項 ..... 2–5
電気系統に関する安全確保 ..... 2–5



© 2025—The Toro® Company


8111 Lyndale Ave So
Bloomington, MN 55044

連絡先： www.Toro.com
Printed in the USA


禁無断転載

冷却系統に関する安全確保 ..... 2–5
油圧系統に関する安全確保 ..... 2–6
刈り込みブレードについての安全事項 ..... 2–6
格納保管時の安全確保 ..... 2–6
安全および説明用デカール ..... 2–7
章 3: 組み立て ..... 3–1
1 マシンの準備を行う ..... 3–1
2 コントロールアームの位置を調整する ..... 3–1
3 カッティングユニットを取り付ける ..... 3–2
マシンの準備を行う ..... 3–2
カッティングユニットの準備 ..... 3–3
ターフ補正スプリングの位置調整を行う ..... 3–4
前カッティングユニットを昇降アームに取り付ける ..... 3–5
後カッティングユニットを昇降アームに取り付ける ..... 3–6
後カッティングユニットを昇降アームに取り付ける ..... 3–6
斜面を刈り込む場合は、カッティングユニットのピボットをロックする。 ..... 3–7
カッティングユニットの昇降アームにチェーンを取り付ける ..... 3–7
リールモータを取り付ける。 ..... 3–7
4 仕上げキットを取り付ける ..... 3–8
5 テレマティクス デバイスの設置 ..... 3–12
6 カッティングユニットのキックスタンドの使い方 ..... 3–14
7 48 V 切断ジャンパを取り付けてシードベースを基に戻す ..... 3–15
8 フードにCE用のロックを取り付ける ..... 3–16
9 CE用デカルを貼り付ける ..... 3–17
CE デカルを貼り付ける ..... 3–17
製造年デカルを貼り付ける ..... 3–17
CE 用警告デカルを貼り付ける ..... 3–18
章 4: 製品の概要 ..... 4–1
制御装置類 ..... 4–1
キースイッチ ..... 4–2
カッティングユニット操作レバー ..... 4–2
駐車ブレーキスイッチ ..... 4–2
クルーズコントロールスイッチ ..... 4–3
エンジン速度スイッチ ..... 4–3
PTOスイッチ ..... 4–3
ヘッドライトスイッチ ..... 4–4
インフォセンターディスプレイ ..... 4–4
チルト調整ペダル ..... 4–5
走行ペダル ..... 4–5
電源ソケット ..... 4–6
座席コントロール ..... 4–7
カッティングユニットへの給電を遮断する ..... 4–9
仕様 ..... 4–10
アタッチメントとアクセサリ ..... 4–10
章 5: 運転操作 ..... 5–1
操作前 ..... 5–1
毎日の整備作業を実施する ..... 5–1
燃料 ..... 5–1
インタロックスイッチの動作を点検する ..... 5–3
インフォセンターディスプレイの概要 ..... 5–5
油圧ダイナミクスブレーキによる制動距離のチェック ..... 5–14
後退速度について ..... 5–14
表示される走行速度について ..... 5–15
パワーマッチ™システムの概要 ..... 5–15

動作中 ..... 5–16
マシンの運転特性について ..... 5–16
マシンの運転操作 ..... 5–16
走行ペダルについて ..... 5–17
仮想ペダルストップ (VPS) 機能について ..... 5–17
CRUISE CONTROL（クルーズコントロール） ..... 5–18
アクセルモードについて ..... 5–19
ウォームアップモードについて ..... 5–20
Toroスマートパワーの概要™ ..... 5–20
エンジンの始動手順 ..... 5–20
エンジンの停止手順 ..... 5–20
ターフ補正スプリングを調整する ..... 5–22
昇降アームのカウンタバランスを調整する ..... 5–22
昇降アームの旋回位置を調整する ..... 5–23
リール速度の調整 ..... 5–24
インジケーターランプの概要 ..... 5–26
刈り込み ..... 5–26
運転のヒント ..... 5–27
操作後 ..... 5–28
ロープ掛けポイントの位置 ..... 5–28
トレーラへの積み込み ..... 5–29
緊急時の牽引移動 ..... 5–30
章 6: 保守 ..... 6–1
推奨定期整備一覧表 ..... 6–1
始業点検表 ..... 6–4
メンテナンス前の手順 ..... 6–6
整備作業にかかる前に ..... 6–6
フードを開ける ..... 6–6
フードを閉じる ..... 6–7
スクリーンを開く ..... 6–7
スクリーンを閉じる ..... 6–8
座席を倒す ..... 6–8
座席をもとに戻す。 ..... 6–8
ジェネレータ冷却用エアシュラウドの取り外し ..... 6–9
ジェネレータ冷却用エアシュラウドの取り付け ..... 6–9
ジャッキアップポイントの位置 ..... 6–10
潤滑 ..... 6–11
ベアリングとブッシュのグリスアップ ..... 6–11
グリス注入位置 ..... 6–12
エンジンメンテナンス ..... 6–14
エアクリーナを点検する ..... 6–14
エアフィルタの整備時期インジケータのリセット ..... 6–15
エアクリーナの整備 ..... 6–15
エンジンオイルの仕様 ..... 6–16
エンジンオイルの量を点検する ..... 6–16
エンジンオイルとフィルタの交換 ..... 6–18
燃料システムのメンテナンス ..... 6–19
燃料の保管 ..... 6–19
燃料/水セパレータの整備 ..... 6–20
燃料フィルタの整備 ..... 6–21
燃料タンクの内部清掃 ..... 6–22
燃料ラインとその接続の点検 ..... 6–22
燃料系統からのエア抜き ..... 6–23
燃料供給チューブのスクリーンの清掃 ..... 6–23

燃料系統からのエア抜き ..... 6–26
電気系統の保守 ..... 6–27
電気コードの点検 ..... 6–27
バッテリーの接続を外す ..... 6–27
バッテリーを接続する ..... 6–28
バッテリーを充電する ..... 6–28
バッテリーの整備 ..... 6–29
12 V ヒューズブロックのヒューズの交換 ..... 6–29
カッティングユニットの 48 V ヒューズの交換 ..... 6–29
リール回転許可ヒューズの交換 ..... 6–31
主電源ヒューズの交換 ..... 6–31
ドライブシステムのメンテナンス ..... 6–32
タイヤ空気圧を点検する ..... 6–32
ホイールナットのトルク締めを行う ..... 6–32
アクスルハブナットの締め付け ..... 6–32
後輪のアライメント点検 ..... 6–32
後輪のトーインの調整 ..... 6–33
冷却システムのメンテナンス ..... 6–34
冷却液の仕様 ..... 6–34
冷却液の量の点検 ..... 6–35
冷却系統のホースの点検 ..... 6–35
エンジンの冷却系統の清掃 ..... 6–35
ベルトのメンテナンス ..... 6–37
オルタネータベルトのテンション調整 ..... 6–37
油圧システムのメンテナンス ..... 6–37
油圧作動液の仕様 ..... 6–37
油圧オイルの量を点検する ..... 6–38
油圧ラインとホースの点検 ..... 6–39
チャージフィルタの交換 ..... 6–39
オイル漏れの有無を確認 ..... 6–40
油圧オイルの交換 ..... 6–40
カッティングユニットの保守 ..... 6–41
リールとベッドナイフの摺り合わせを点検する ..... 6–41
ブレードの停止時間のチェック ..... 6–42
カッティングユニットのバックラップ ..... 6–42
シャーシの整備 ..... 6–44
シートベルトの点検 ..... 6–44
洗浄 ..... 6–44
機体の洗浄 ..... 6–44
章 7: 格納保管 ..... 7–1
マシンの保管 ..... 7–1
バッテリーの保管 ..... 7–1
カリフォルニア州プロポジション65に関する警告情報

# はじめに

## 使用目的

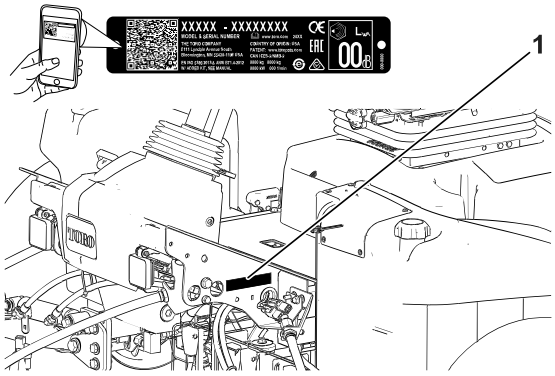
この機械は回転刃を使用するリール式乗用芝刈り機であり、そのような業務に従事するプロのオペレータが運転操作することを前提として製造されています。この製品は、適切な管理を受けている芝生の刈り込みに使用することを主たる目的とする機械です。この機械は本来の目的から外れた使用をすると運転者本人や周囲の人間に危険な場合があります。

この説明書を読んで製品の運転方法や整備方法を十分に理解し、他人に迷惑の掛からない、適切で安全な方法でご使用ください。この製品を適切かつ安全に使用するのはお客様の責任です。

## わからない時は

製品の安全や取り扱い講習、アクセサリなどに関する情報、代理店についての情報の入手、お買い上げ製品の登録などをネットで行っていただくことができます。www.Toro.comwww.Toro.com

整備について、また純正Toro部品についてなど、分からないことはお気軽に弊社代理店またはToroカスタマーサービスにおたずねください。お問い合わせの際には、必ず製品のモデル番号とシリアル番号をお知らせください。これらの番号は製品のシリアルプレート①に記載されています。いまのうちに番号をメモしておきましょう。




**重要**

**シリアル番号デカルについている QR コード（無い場合もあります）をモバイル機器でスキャンすると、製品保証、パーツその他の製品情報にアクセスできます。**

| | | | |
|---|---|---|---|
| **モデル番号** | | **シリアル番号** | |

# 取り扱い説明書の表記について

この説明書では、危険についての注意を促すための警告記号を使用しております。これらは死亡事故を含む重大な人身事故を防止するための注意ですから、必ずお守りください。



G405934

この他に2つの言葉で注意を促しています。**重要** は製品の構造などについての注意点を、**注**はその他の注意点を表しています。

# 安全警告の分類

危険警告記号は、このマニュアルと実機上とに表示され、事故防止のために守るべき重要な注意事項を示します。

危険警告記号に続いて、**危険**、**警告**、または**注意**という文字が表示され、危険についての具体的な内容が示されます。

**危険**

**「危険」は人の生命に関わる重大な潜在的危険を意味し、遵守しないと死亡事故や重大な人身事故が*起こります*。**

---

**警告**

**「警告」は人の生命に関わる潜在的危険を意味し、遵守ないと死亡事故や重大な人身事故が*起こる恐れがあります*。**

---

**注意**

**「注意」は安全に関わる潜在的危険を意味し、遵守ないとけがをする*可能性があります*。**

---

# 安全に関する一般的な注意

- この機械は手足を切断したり物をはね飛ばしたりする能力があります。
- エンジンを始動する前に必ずこのオペレーターズマニュアルをお読みになり、内容をよく理解してください。
- この機械を運転する時は常に十分な注意を払ってください。運転中は運転操作に集中してください；注意散漫は事故の大きな原因となります。
- 機械の可動部の近くには絶対に手足を近づけないでください。
- ガードなどの安全保護機器が正しく機能していない時は、運転しないでください。
- 作業場所に、無用の大人、子供、ペットなどを近づけないでください。子供に運転させないでください。
- エンジンを停止させ、キーを抜き取り、各部の動作が完全に停止したのを確認してから運転位置を離れる。調整、整備、洗浄、格納などは、機体が十分に冷えてから行ってください。

間違った使い方や整備不良は人身事故などの原因となります。事故を防止するため、以下に示す安全上の注意や安全注意標識のついている遵守事項は必ずお守りください⚠。**注意**、**警告**、および**危険** の文字は、人身の安全に関わる注意事項を示しています。これらの注意を怠ると死亡事故などの重大な人身事故が発生する恐れがあります。

# 運転前の安全確認

- 子供やトレーニングを受けていない大人には、絶対に運転や整備をさせないでください。地域によっては機械のオペレータに年齢制限を設けていることがありますのでご注意ください。オーナーは、オペレータ全員にトレーニングを受講させる責任があります。
- 安全な運転操作、各部の操ン方法や安全標識などに十分慣れておきましょう。
- 運転席を離れる前に、次のことを行ってください：
  - マシンを平らな場所に駐車する
  - カッティングユニットを停止させ、下降させる。
  - 駐車ブレーキを掛ける。
  - エンジンを止め、キーを抜き取る。
  - 全ての動きが停止するのを待つ。
  - 調整、整備、洗浄、格納などは、機体が十分に冷えてから行ってください。
- エンジンの緊急停止方法に慣れておきましょう。
- ガードなどの安全保護機器が正しく機能していない時は、運転しないでください。
- 使用前に必ず、カッティングユニットの点検を行ってください。

- これから機械で作業する場所をよく確認し、機械に巻き込まれそうなものはすべて取り除きましょう。
- この製品は電磁場を発生させます。埋め込み型の電子医療機器を装着している方は、本製品を使用する前に専門家に相談してください。

# 燃料についての安全事項

- 燃料の取り扱いに際しては安全に特にご注意ください。燃料は引火性が高く、気化すると爆発する可能性があります。
- 燃料取り扱い前に、引火の原因になり得るタバコ、パイプなど、すべての火気を始末してください。
- 燃料の保管は必ず認可された容器で行ってください。
- エンジン回転中などエンジンが高温の時には、燃料タンクのふたを開けたり給油したりしないでください。
- 締め切った場所では燃料の補給や抜き取りをしないでください。
- ガス湯沸かし器のパイロット火やストーブなど裸火や火花を発するものがある近くでは、機械や燃料容器を保管･格納しないでください。
- 燃料がこぼれたら、エンジンを始動せずにマシンを別の場所に動かし、気化した燃料ガスが十分に拡散するまで引火の原因となるものを近づけないでください。

# 運転中の安全確認

- オーナーやオペレータは自分自身や他の安全に責任があり、オペレータやユーザーの注意によって物損事故や人身事故を防止することができます。
- 作業にふさわしい服装をし、安全めがね、長ズボン、頑丈で滑りにくい安全な靴、および聴覚保護具を着用してください。長い髪は束ねてください。ゆるい装飾品やだぶついた服は身に着けないでください。
- 疲れている時、病気の時、アルコールや薬物を摂取した時は運転しないでください。
- この機械を運転する時は常に十分な注意を払ってください。運転中は運転操作に集中してください；注意散漫は事故の大きな原因となります。
- エンジンを掛ける前に、全部の駆動装置がニュートラルであること、駐車ブレーキが掛かっていることを確認し、運転席に着席してください。
- 人を乗せないでください。また、作業中は周囲から人、特に子供を十分に遠ざけてください。
- 運転は、穴や障害物を確認できる十分な照明のもとで行ってください。
- ぬれた芝の刈り込みは避けてください。接地力が落ちてスリップする危険が高くなります。
- カッティングユニットに手足を近づけないでください。
- バックするときには、足元と後方の安全に十分な注意を払ってください。
- 見通しの悪い曲がり角や、茂み、立ち木などの障害物の近くでは安全に十分注意してください。
- 刈り込み中以外は必ずカッティングユニットを止めておいてください。
- 旋回するときや道路や歩道を横切るときなどは、減速し周囲に十分な注意を払ってください。常に道を譲る心掛けを。

- エンジンは換気の十分確保された場所で運転してください。排気ガスには致死性ガスである一酸化炭素が含まれています。
- エンジンの掛かっているマシンからは離れないでください。
- 運転席を離れる前に：
  - 平らな場所に駐車する。
  - カッティングユニットを停止させ、下降させる。
  - 駐車ブレーキを掛ける。
  - エンジンを止め、キーを抜き取る。
  - 全ての動きが停止するのを待つ。
  - 調整、整備、洗浄、格納などは、機体が十分に冷えてから行ってください。
- 機械の運転は十分な視界の確保ができる適切な天候条件のもとで行ってください。落雷の危険がある時には運転しないでください。
- クルーズコントロール（が装備されている場合）は、マシンが一定の速度で連続走行できる、広く、平坦で障害物のない場所でのみ使用してください。

# 横転保護バー（ROPS）についての安全確認

- POPS 構成物は一切機体から外さないでください。
- 必ずシートベルトを着用し、緊急時にはシートベルトを迅速に外せるよう練習しておいてください。
- 運転時には必ずシートベルトを着用してください。
- 頭上の障害物に注意し、これらに衝突しないように注意してください。
- ROPS自体に損傷がないか、また、取り付け金具がゆるんでいないか、定期的に十分に点検を行い、万一の際に確実に役立つようにしておいてください。
- ROPS が破損した場合はすべて新しいものに交換してください。修理したり改造しての使用はしないでください。

# 斜面での安全確保

- 斜面はスリップや転倒などを起こしやすく、これらは重大な人身事故につながります。斜面での安全運転はオペレータの責任です。どんな斜面であっても、通常以上に十分な注意が必要です。
- 斜面については、実地の測定を含めてオペレータ自身が調査を行い、安全に作業ができるかどうかを判断してください。この調査においては、常識を十分に働かせてください。
- 以下に挙げる、斜面で運転する場合の安全上の注意を必ず読んで内容をしっかり理解してください。実際に運転する前に、現場の状態をよく観察し、その日その場所でこのマシンで安全に作業ができるかどうかを判断してください。同じ斜面上であっても、地表面の条件が変われば運転条件が変わります。
  - 斜面での発進・停止・旋回は避けてください。急に方向を変えたり急な加速やブレーキ操作をしないでください。旋回は速度を落としてゆっくりと行ってください。
  - 走行、ステアリング、安定性などに疑問がある場合には運転しないでください。

# 斜面での安全確保 （続き）

- 隠れた穴、わだち、盛り上がり、石などの見えない障害は、取り除く、目印を付けるなどして警戒してください。深い芝生に隠れて障害物が見えないことがあります。不整地では機体が転倒する可能性があります。
- ぬれ芝、急斜面など滑りやすい場所で運転すると滑って制御できなくなる危険があります。
- 段差、溝、盛り土、水などの近では安全に十二分の注意を払ってください。万一車輪が段差や溝に落ちたり、地面が崩れたりすると、機体が瞬時に転倒し、非常に危険です。必ず安全距離を確保してください。
- 斜面に入る前に、安全の判断をしてください。乗用の刈り込み機械で斜面を刈り込むことに危険が感じられる場合は歩行型の機械をお使いください。
- 斜面では可能なかぎりカッティングユニットを地表面まで下げておいてください。斜面上でカッティングユニットを上昇させると機体が不安定になる恐れがあります。

# 運転終了後の安全確認

- 平らな場所に駐車する。
- カッティングユニットを解除して床面に降下させる
- 駐車ブレーキを掛ける。
- エンジンを止め、キーを抜き取る。
- 全ての動きが停止するのを待つ。
- 調整、整備、洗浄、格納などは、機体が十分に冷えてから行う。
- 火災防止のために、カッティングユニット、駆動部、マフラー、冷却スクリーン、エンジンルームに刈りかすごみが溜まっていないことを確認する。オイルや燃料がこぼれた場合はふき取る。
- 移動走行時など、刈り込みなどの作業をしていない時には、アタッチメントの駆動を解除しておいてください。
- 必要に応じてシートベルトの清掃と整備を行ってください。
- ガス湯沸かし器のパイロット火やストーブなど裸火や火花を発するものがある近くでは、機械や燃料容器を保管･格納しないでください。

# 保守作業時の安全確保

- 運転席を離れる前に：
  - 平らな場所に駐車する。
  - カッティングユニットを停止させ、下降させる。
  - 駐車ブレーキを掛ける。
  - エンジンを止め、キーを抜き取る。
  - 全ての動きが停止するのを待つ。
  - 調整、整備、洗浄、格納などは、機体が十分に冷えてから行ってください。

- 作業にふさわしい服装をし、安全めがね、長ズボン、頑丈で滑りにくい安全な靴を着用してください。手足、衣服、装飾品、頭部（長髪）を可動部に近づけないでください。
- 保守作業は、各部が十分冷えてから行ってください。
- 可能な限り、エンジンを回転させながらの整備はしないでください。可動部に近づかない。
- エンジンは換気の十分確保された場所で運転してください。排気ガスには致死性ガスである一酸化炭素が含まれています。
- 機体の下で作業する場合には、必ずジャッキスタンドで機体を確実に支えてください。
- 機器類を取り外すとき、スプリングなどの力が掛かっている場合があります。取り外しには十分注意してください。
- マシン各部が良好な状態にあり、ボルトナット類が十分にしまっているか常に点検してください。
- 読めなくなったステッカーは貼り替えてください。
- 機械の性能を完全に引き出し、かつ安全にお使いいただくために、交換部品は Toro 純正品をお使いください。他社の部品を御使用になると危険な場合があり、製品保証を受けられなくなる場合がありますのでおやめください。

# エンジンの安全事項

- エンジンオイルの点検や補充は､エンジンを止めて行ってください。
- エンジンのガバナの設定を変えたり、エンジンの回転数を上げすぎたりしないでください。

# 電気系統に関する安全確保

- マシンの整備や修理を行う前に、バッテリーの接続を外してください。バッテリーの接続を外すときにはマイナスケーブルを先に外し、次にプラスケーブルを外してください。接続するときにはプラスを先に接続し、次にマイナスを接続してください。
- バッテリーの充電は、火花や火気のない換気の良い場所で行ってください。バッテリーと充電器の接続や切り離しを行うときは、充電器をコンセントから抜いておいてください。また、安全な服装を心がけ、工具は確実に絶縁されたものを使ってください。

# 冷却系統に関する安全確保

- 冷却液を飲み込むと中毒を起こす；冷却液は子供やペットが触れない場所に保管すること。
- 高温高圧の冷却液を浴びたり、高温のラジエター部分に触れたりすると大火傷をする恐れがある。
  - エンジン停止後、少なくとも15分間程度待って、エンジンが冷えてからキャップを開けること。
  - キャップを開けるときはウェスなどを使い、高温の水蒸気を逃がしながらゆっくりと開けること。

# 油圧系統に関する安全確保

- 万一、油圧オイルが体内に入ったら、直ちに専門医の治療を受けてください。万一、油圧オイルが体内に入った場合には、この種の労働災害に経験のある施設で数時間以内に外科手術を受ける必要があります。
- 油圧装置を作動させる前に、全部のラインコネクタが適切に接続されていること、およびラインやホースの状態が良好であることを確認すること。
- 油圧のピンホールリークやノズルからは作動油が高圧で噴出しているので、絶対に手などを近づけない。
- リークの点検には新聞紙やボール紙を使う。
- 油圧関係の整備を行う時は、内部の圧力を確実に解放する。

# 刈り込みブレードについての安全事項

- 磨耗したり破損したりしたリール刃や下刃は使用中に割れて破片が飛び出す場合があり、これが起こるとオペレータや周囲の人間に多大の危険を及ぼし、最悪の場合には死亡事故となる。
- リール刃や下刃が磨耗や破損していないか定期的に点検すること。
- 刃を点検する時には安全に十分注意してください。必ず手袋を着用してください。リールと下刃は研磨するか交換するかのみ行い、たたいて修復したり溶接したりしないでください。
- 複数のカッティングユニットを持つ機械では、1つのリールを回転させると他のカッティングユニットのリールも回転する場合がありますから注意してください。

# 格納保管時の安全確保

- 運転席を離れる前に：
  - 平らな場所に駐車する。
  - カッティングユニットを停止させ、下降させる。
  - 駐車ブレーキを掛ける。
  - エンジンを止め、キーを抜き取る。
  - 全ての動きが停止するのを待つ。
  - 調整、整備、洗浄、格納などは、機体が十分に冷えてから行ってください。
- ガス湯沸かし器のパイロット火やストーブなど裸火や火花を発するものがある近くでは、機械や燃料容器を保管･格納しないでください。

# 安全および説明用デカール

危険な部分の近くには、見やすい位置に安全ラベルや指示ラベルを貼付しています。破損したりはがれたりした場合は新しいラベルを貼付してください。

## バッテリーに関する注意標識

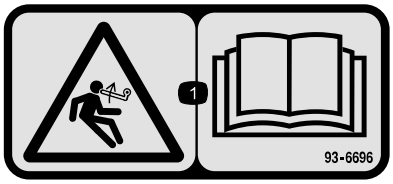
全てがついていない場合もあります。




s_batterysymbols2

(1) 爆発の危険
(2) 火気厳禁、禁煙厳守のこと
(3) 劇薬につき火傷の危険あり
(4) 保護メガネ等着用のこと。
(5) *オペレーターズマニュアル*を読むこと。
(6) バッテリーに人を近づけないこと。
(7) 保護メガネ等着用のこと：爆発性ガスにつき失明等の危険あり。
(8) バッテリー液で失明や火傷の危険あり。
(9) 液が目に入ったら直ちに真水で洗眼し医師の手当てを受けること。
(10) 鉛含有：普通ゴミとして投棄禁止。

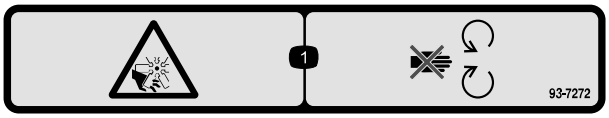
## デカル パーツ番号： 93-6696




s_decal93-6696

(1) 負荷が掛かっている危険：*オペレーターズマニュアル*を読むこと。

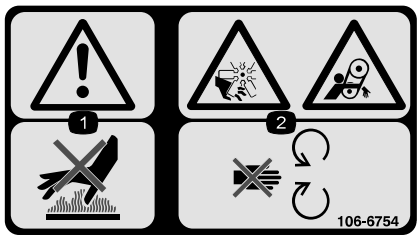
## デカル パーツ番号： 93-7272




s_decal93-7272

(1) ファンによる手足切断の危険：可動部に近づかないこと

## デカル パーツ番号： 106-6754




s_decal106-6754

(1) 警告：高温部に触れないこと。
(2) ファンによる手足の切断など、ベルトによる巻き込み事故の危険：可動部に近づかないこと。

## デカル パーツ番号： 106-6755




s_decal106-6755

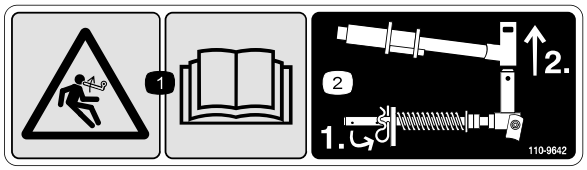
1 冷却液の噴出に注意。

2 爆発の危険：オペレーターズマニュアルを読むこと。

3 警告：高温部に触れないこと。

4 警告：オペレーターズマニュアルを読むこと。

## デカル パーツ番号： 110-9642

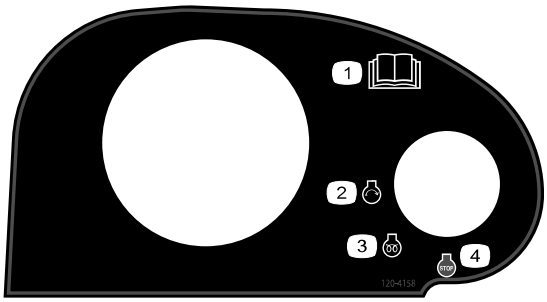



s_decal110-9642

1 負荷が掛かっている危険：オペレーターズマニュアルを読むこと。

2 ロッド･ブラケットに一番近い穴にコッター･ピンを移し、昇降アームとヨークをを外す

## デカル パーツ番号： 120-4158




s_decal120-4158

1 オペレーターズマニュアルを読むこと。

2 エンジン： 始動

3 エンジン： 予熱

4 エンジン： 停止

## デカル パーツ番号： 127-2470




s_decal127-2470

# デカル パーツ番号： 133-2930




s_decal133-2930

(1) 警告：講習を受けてから運転すること。

(2) 警告： 聴覚保護具を着用のこと。

(3) 異物が飛び出す危険：作業場所に人を近づけないこと。

(4) 転倒の危険： 旋回する時は速度を落とすこと；高速で急旋回しないこと；下り坂では必ずカッティングユニットを下げておくこと；シートベルトを着用すること。

(5) 警告：斜面に駐車しないこと；平らな場所で、駐車ブレーキを掛け、カッティングユニットを下降させ、エンジンを停止させ、マシンから離れる場合にはキーを抜き取ること。

(6) 警告： *オペレーターズマニュアル*を読むこと；このマシンを牽引しないこと。

## デカル パーツ番号： 133-2931

CEマシン




s_decal133-2931

**注:** この機械は、業界で推奨される最大傾斜角度を用いた前後方向および左右方向の標準安定試験に合格しており、使用を認められる法面の最大角度がデカルに記載されています。斜面で運転する場合の条件や注意点について、また、特殊な天候や場所条件のもとでこの機械を使用することができるかどうかを判断する方法について、*オペレーターズマニュアル*で確認してください。同じ斜面上であっても、地表面の条件が変われば運転条件が変わります。斜面では可能なかぎりカッティングユニットを地表面まで下げておいてください。斜面上でカッティングユニットを上昇させると機体が不安定になる恐れがあります。

1. 警告： *オペレーターズマニュアル*を読むこと。必ず講習を受けてから運転すること。
2. 警告： 聴覚保護具を着用のこと。
3. 異物が飛び出す危険：人を近づけないこと。
4. 転倒の危険： 15° 以上の斜面は横切らない。また、15° 以上の斜面は下らないこと。必ずシートベルトを着用して運転すること。
5. 警告：斜面に駐車しないこと；平らな場所で、駐車ブレーキを掛け、カッティングユニットを下降させ、エンジンを停止させ、マシンから離れる場合にはキーを抜き取ること。
6. 警告： *オペレーターズマニュアル*を読むこと；このマシンを牽引しないこと。

## デカル パーツ番号： 133-8062




s_decal133-8062

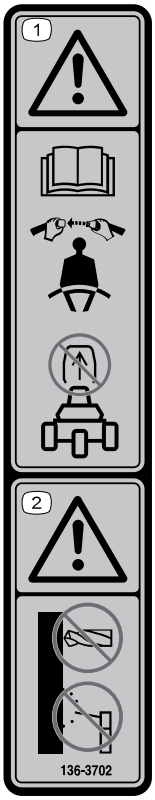
# デカル パーツ番号： 136-2159




s_decal136-2159

1. 運転席を下に下げる
2. 運転席を前にずらす
3. シートを倒す

# デカル パーツ番号： 136-3702




s_decal136-3702

1. 警告：オペレーターズマニュアルを読むこと；シートベルトを着用すること。ROPS を外さないこと。
2. 警告：ROPS を改造しないこと。

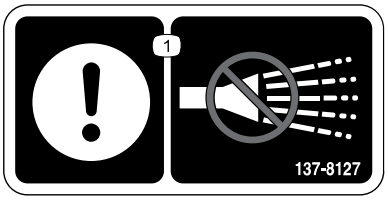
# デカル パーツ番号： 136-3732




s_decal136-3732

1. 急性毒性
2. 呼吸困難の危険
3. 引火性ガス
4. 金属や皮膚への腐食作用
5. 環境毒性

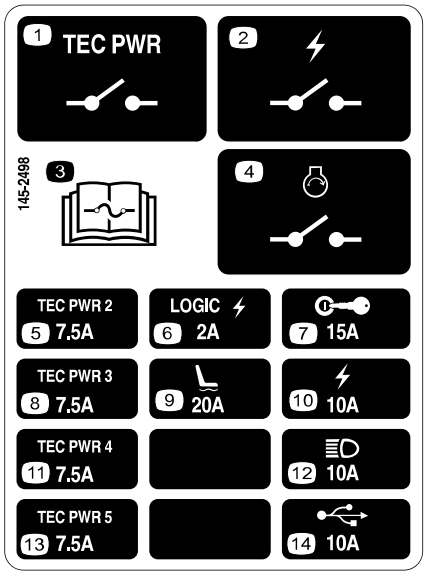
# デカル パーツ番号： 137-8127




s_decal137-8127

1. 注意：高圧洗浄器を使用しないこと。

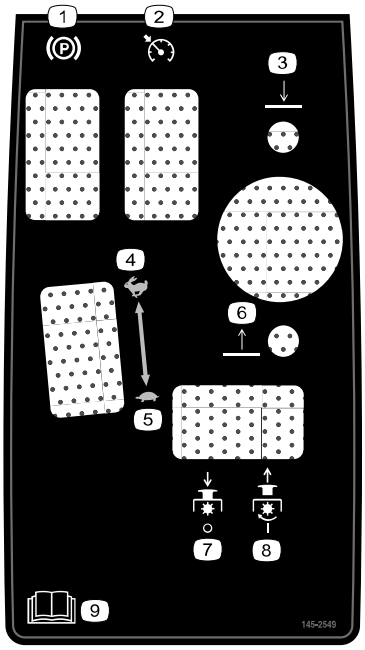
# デカル パーツ番号： 145-2498




s_decal145-2498

1. TECパワーリレー
2. 電源リレー
3. ヒューズに関する情報はオペレーターズマニュアルを参照のこと。
4. エンジンスタートリレー
5. TECパワーコントローラー
6. 電源ロジック
7. 始動キー
8. TECパワーコントローラー
9. エアライドシート
10. 電力
11. TECパワーコントローラー
12. ヘッドライト
13. TECパワーコントローラー
14. USB電源

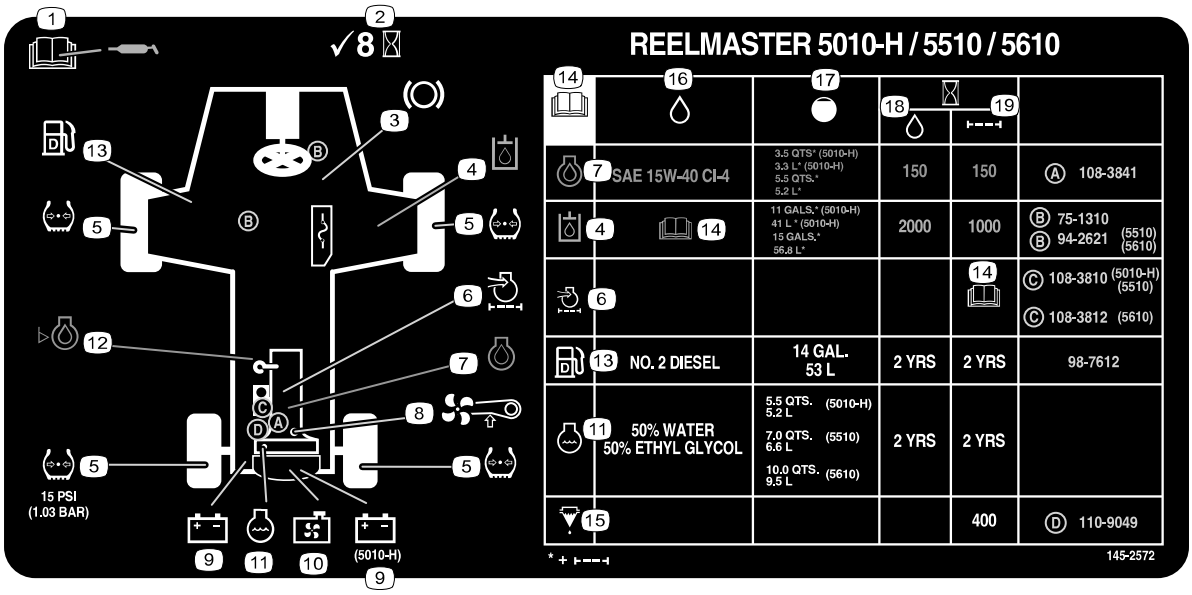
# デカル パーツ番号： 145-2549




s_decal145-2549

1. 駐車ブレーキ
2. クルーズコントロール
3. カッティングユニット下降
4. 高速
5. 低速
6. カッティングユニット上昇
7. PTO — OFF
8. PTO — ON
9. オペレーターズマニュアルを読むこと。

# デカル パーツ番号： 145-2572




s_decal145-2572

1. 潤滑に関する情報はオペレーターズマニュアルを参照のこと。
2. 8 運転時間ごとに点検
3. ブレーキの機能
4. 油圧作動液
5. タイヤ空気圧
6. エンジンエアフィルタ
7. エンジンオイル
8. ファンベルト
9. バッテリー
10. ラジエタースクリーン
11. エンジンの冷却液
12. エンジンオイルの量
13. 燃料
14. オペレーターズマニュアルを読むこと。
15. 燃料･水セパレータ
16. 油脂類等
17. 容量
18. オイル等交換間隔（時間）
19. フィルタ交換間隔（時間）

# デカル パーツ番号： 147-0287




s_decal147-0287

1 2.82-3.16 N·m (25-28 in-lb) にトルク締めする。

# デカル パーツ番号： 163-2635




s_decal163-2635

1 オペレーターズマニュアルを読むこと。
2 保護メガネ等着用のこと
3 火気厳禁、禁煙厳守のこと
4 人を近づけないこと
5 劇薬につき火傷の危険あり
6 爆発の危険
7 捨てないこと。

# 組み立て

## 1 マシンの準備を行う

1. 平らな場所に駐車し、カッティングユニットを降下させ、駐車ブレーキを掛ける。
2. エンジンを止め、キーを抜き取り、可動部が完全に停止したのを確認する。
3. 運転前にタイヤ空気圧を点検する

   **注:** タイヤは空気圧を高く設定して出荷しています。ご使用前にタイヤ空気圧を調整。
4. 油圧オイルの量を点検する。
5. マシンのグリスアップを行います。

**重要**

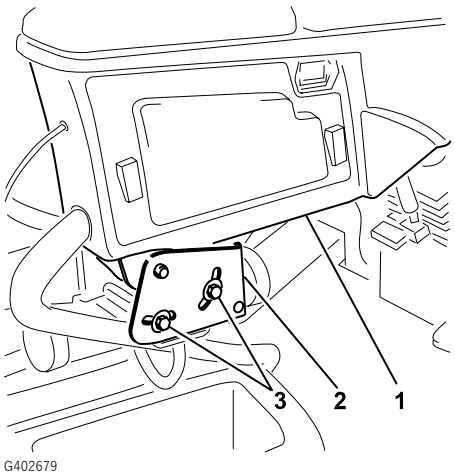
**この作業を怠るとマシンに急激な磨耗が発生しますから注意してください。**

6. フードを開けて冷却水のレベルを確認する。
7. エンジンオイルのレベルを確認し、フードを閉じてラッチを掛ける。

   **注:** エンジンにはオイルを入れて出荷していますが、初回運転の前後に必ずエンジンオイルの量を確認してください。

## 2 コントロールアームの位置を調整する

1. ボルト2本（③；コントロールアーム①を保持ブラケット②に固定している）をゆるめる。
2. コントロールアームを希望の位置に調整し、2本のボルトを締めつける。



G402679

# 3 カッティングユニットを取り付ける

### 必要なパーツ

| | |
|---|---|
| 5 | カッティングユニット |

## マシンの準備を行う

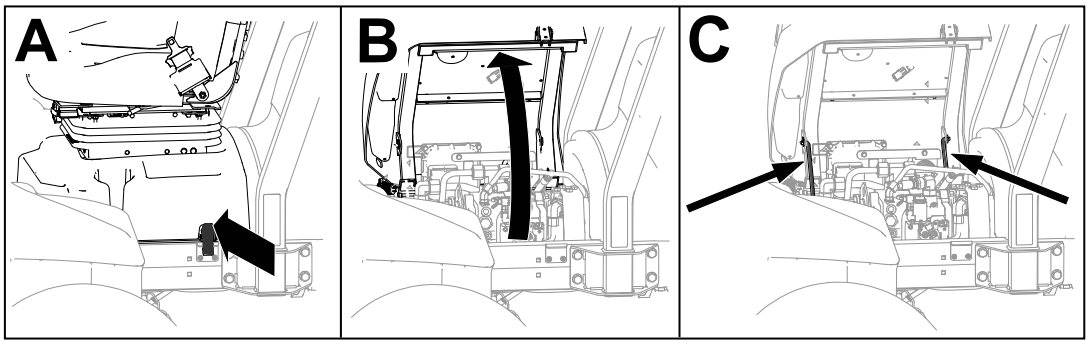
**⚠ 警告 ⚠**

**カッティングユニットの電源を遮断しないと、誰でもいつでもカッティングユニットを始動させることができ、手や足に大怪我を負う危険がある。**

**カッティングユニットの作業を行う前には、必ず電源切断コネクタを取り外すこと。**

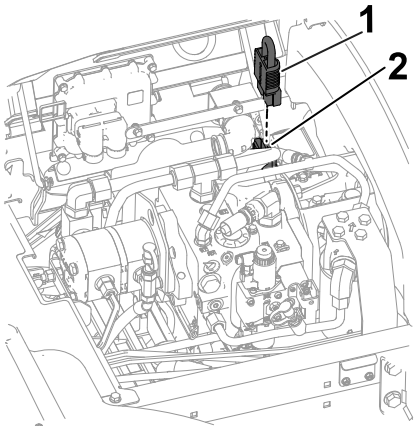
---

1. 運転席のラッチを外しⒶ、席を倒しⒷ、支柱棒でシートベースを支えるⒸ。




G437876

2. 48Vシステムコネクタ①をバッテリ切断ジャンパ②から外す。

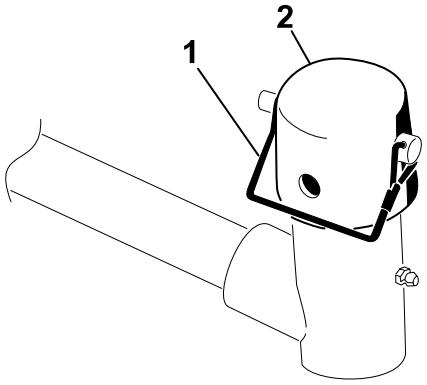



G437957

3. 各カッティングユニットの昇降アームのスナッパピン①（キャップ②をピボットヨークに固定している）を外してキャップを外す。

**重要**

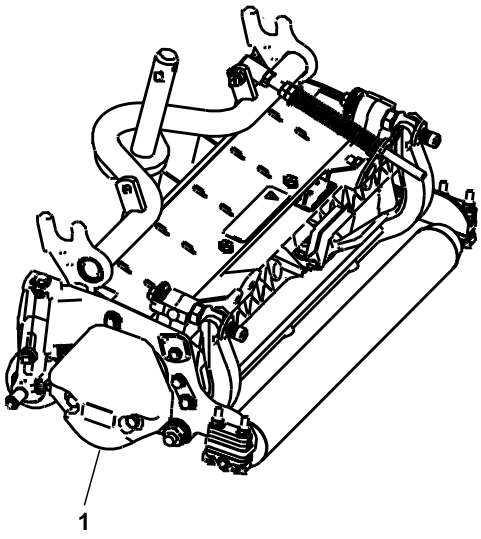
**キャップは後で取り付けるので保管しておくこと。**




G437958

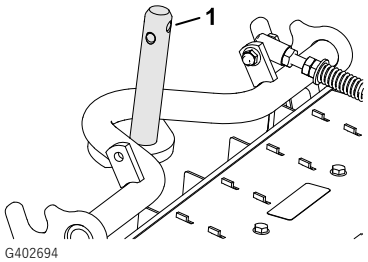
# カッティングユニットの準備

1. カッティングユニットをカートンから取り出す。カッティングユニットの *オペレーターズマニュアル* の説明に従って組み立てと調整を行う。
2. 図に示すように、カウンターウェイト①をカッティングユニットの適切な端に取り付ける。




G402693

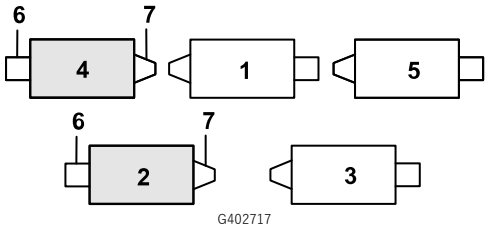
3. キャリアフレームシャフト①にグリースを塗布する。
4. 残りのカッティングユニットにも同作業を行う。




G402694

# ターフ補正スプリングの位置調整を行う

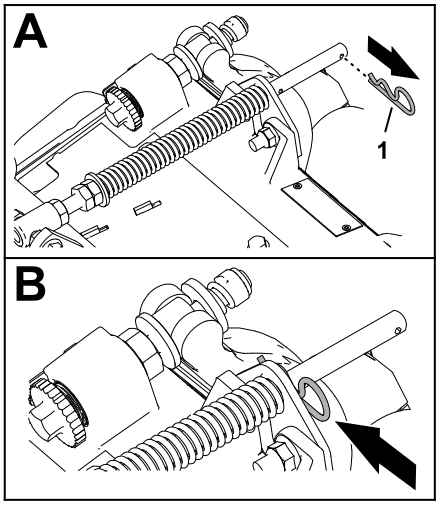
カッティングユニット2番と4番




G402717

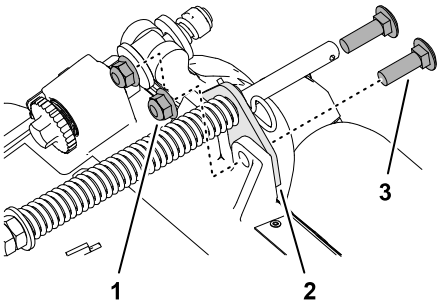
① 1番カッティングユニット
② 2番カッティングユニット
③ 3番カッティングユニット
④ 4番カッティングユニット
⑤ 5番カッティングユニット
⑥ リールモータ
⑦ ウェイト

1. ヘアピン①が補正スプリングロッド後部の穴に取り付けられている場合は、ヘアピンを取り外してブラケットの隣の穴に挿入する。




G402718

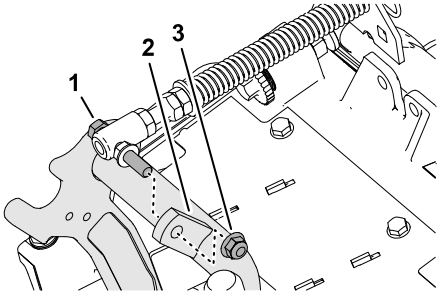
2. 芝補正ブラケット②をカッティングユニットのフレームに固定しているフランジ ロックナット (3/8”) 2個①とキャリッジボルト (3/8 x 1-1/4”) 2本③を取り外す。




G402719

3. ボルトをキャリアフレームの②右側タブに③固定している①フランジロックナット (3/8”) を取り外し、カッティングユニットから補正スプリングを取り外す。

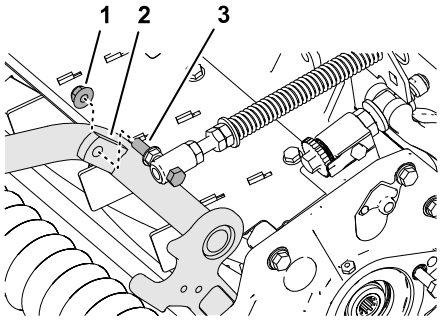
   **注:** ボルトからフランジ付き鋸歯状ナットを取り外さないこと。




G402720

# ターフ補正スプリングの位置調整を行う （続き）

4. ターフ補正スプリングのボルト③を、キャリアフレームの右側タブ②に組み付ける；フランジロックナット（3/8"）①を使用する。

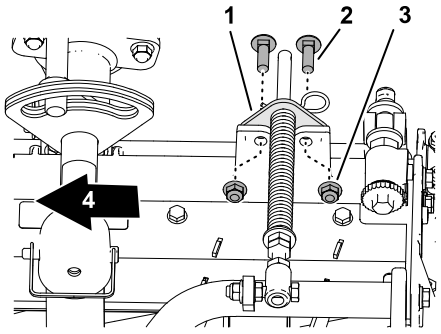


G402721

5. ターフ補正器ブラケットの穴を、カッティングユニットのフレームの穴に合わせる。

   **注:** ホースガイドのサポートループが車両のセンターラインに向かうようになります④。

6. ターフ補正器用ブラケット①をカッティングユニットのフレームに取り付ける；キャリッジボルト（⅜ x 1-¼"）②2 本とフランジロックナット（⅜"）③2 個を使用する。

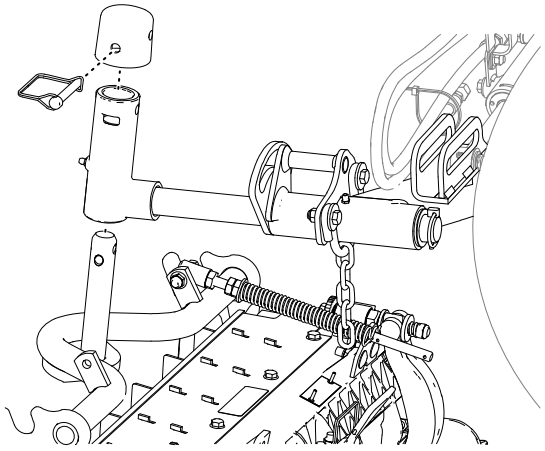


G402722

7. **37 - 45 N·m (4.00 - 4.9kg・m)**のトルクで締め付ける。
8. もう一方のリアカッティング ユニットにも同じ作業を行う。

# 前カッティングユニットを昇降アームに取り付ける

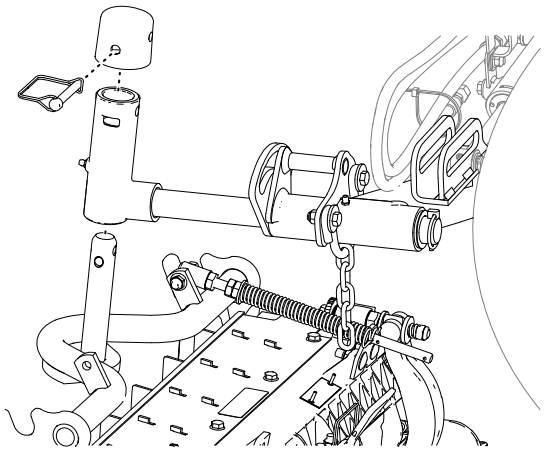
1. 図のように、フロントカッティングユニットを昇降アームに取り付ける。
2. 斜面を刈り込む場合は、カッティングユニットのピボットをロックする。


G402695

# 後カッティングユニットを昇降アームに取り付ける

刈高が 12 mm 以上のカッティングユニット

1. 図のように、リアカッティングユニットをリフトアームに取り付ける。
2. 斜面で草を刈る場合は、カッティングユニットのピボットをロックする。

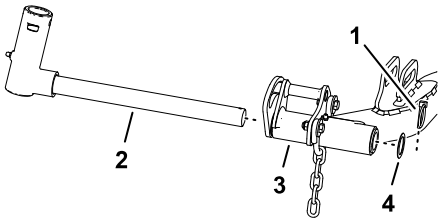


G402695

# 後カッティングユニットを昇降アームに取り付ける

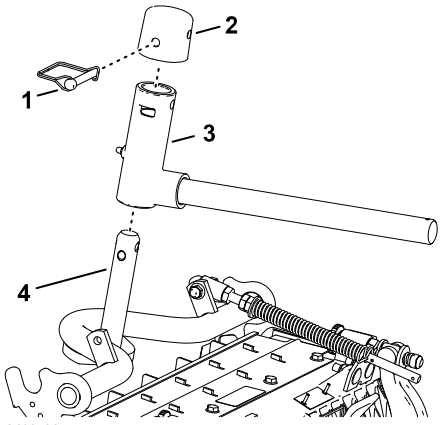
刈高が 12 mm 以下のカッティングユニット

1. リンチピン①とワッシャ④（ピボットヨーク③を昇降アーム②に固定している）を取り外し、昇降アームからシャフトを外す。

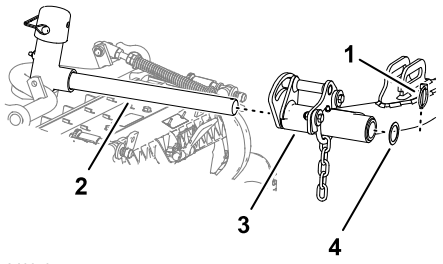



G402723

2. ピボットヨーク③をキャリアフレームのシャフト④に組み付ける。
3. キャップ②をピボットヨークに組み付け、キャリアフレームシャフト、ピボットヨーク、キャップの穴の位置を合わせる。
4. スナッパーピン①を使って、ピボットヨークとキャップをキャリア フレームのシャフトに固定する。
5. 斜面を刈り込む場合は、カッティングユニットのピボットをロックする。
6. カッティングユニットをリフトアームの下にスライドさせる。
7. ピボットヨークを昇降アーム③に挿入し、昇降アームのシャフト②をリンチピン①とワッシャー④で昇降アームに固定する。
8. もう一方のリアカッティング ユニットに対してもこの手順を行う。




G402724



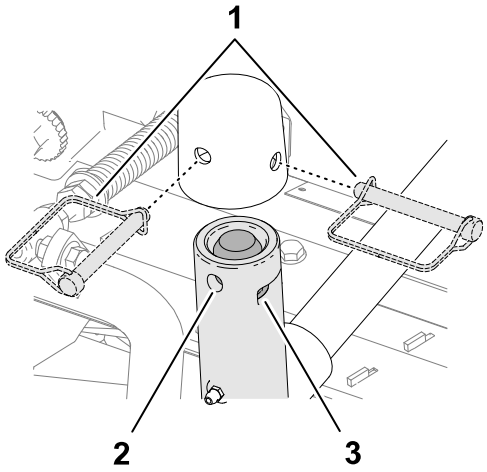

G402725

# 斜面を刈り込む場合は、カッティングユニットのピボットをロックする。

斜面を下りながら刈るときは、カッティングユニットが谷側にズレないように、カッティングユニットのピボットをスナッパーピン①でロックしてください。

**注:** ピボットヨークの穴②は、カッティングユニットをロックするための穴です。

**注:** スロット③はカッティングユニットをステアリングで使用するためのものです。

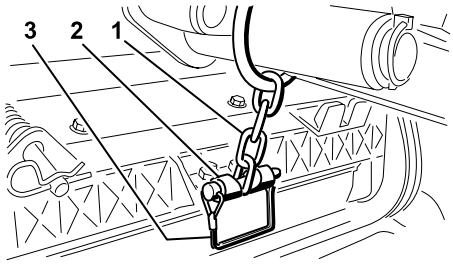


G437965

# カッティングユニットの昇降アームにチェーンを取り付ける

昇降アームのチェーン①をチェーンブラケット②に、スナッパピン③で固定する。

**注:** カッティングユニットのオペレーターズマニュアルに従って、決められたリンクを使用すること。



G402673

# リールモータを取り付ける。

1. リールモーターのスプラインシャフトにグリスを塗布する。
2. リールモータのOリングにオイルを塗りつけ、モータのフランジに取り付ける。
3. モータを右にひねってモータフランジのロックナットをかわしながらモータを取り付ける。

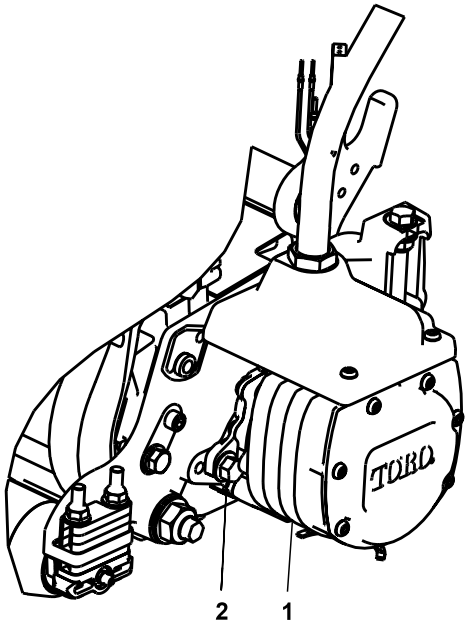
**重要**

**リールモーターのケーブルがねじれたり、曲がったり、挟まれたりする危険がないことを確認する。**

# リールモータを取り付ける。（続き）

4. モータ①を左にひねってフランジをスタッドに嵌め合わせる。

5. 取り付けボルト②を **19 - 25 N·m (2.05 - 2.7kg・m)**のトルクで締め付ける。
6. 残りのカッティングユニットにも同作業を行う。



G402696

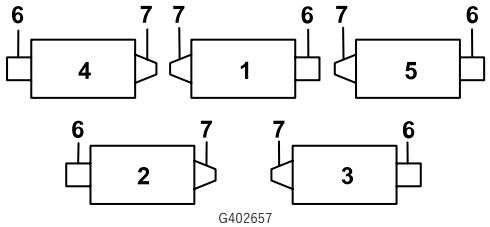
# 4 仕上げキットを取り付ける

## 必要なパーツ

| | |
|---|---|
| 1 | 仕上げキット（別売） |

**重要**

**リールモータのホースをひねったり、折ったり、挟んだりせずに正しく取り付けられるように、カッティングユニットにモータを取り付けてから仕上げキットを取り付けるようにしてください。**



G402657

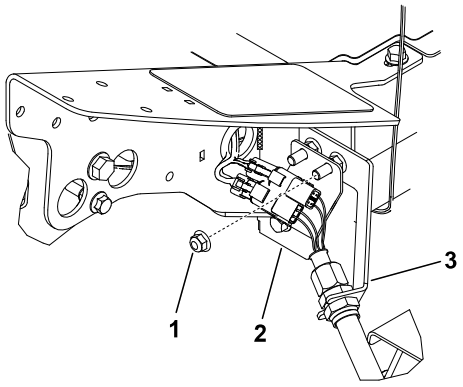
① 前中央カッティングユニット
② 左後カッティングユニット
③ 右後カッティングユニット
④ 左前カッティングユニット
⑤ 右前カッティングユニット
⑥ リールモータの位置
⑦ ウェイト

1. 図のように余分なフランジナットを取り外す。

2. 仕上げキットのホース継手のナットを緩め、ホースをバルクヘッドブラケットのスロットに挿入し、ナットを締める。

   **注:** ナットを締め付ける時、ホースが回転しないように必ずレンチを使ってホースを固定した状態で締め付けてください。

3. コネクタが図のような位置にある状態で、コネクタプレートをバルクヘッド取り付けボルトに挿入する。
4. 先ほど取り外したフランジナットを使って、コネクタプレートを取り付けボルトの1本に固定する。



G402739

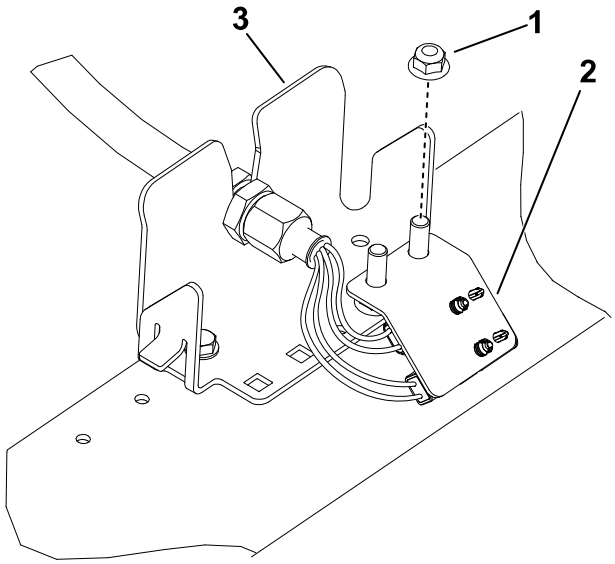
左前カッティングユニット（4番）

1. 余分のフランジナット
2. コネクタプレート
3. バルクヘッド用ブラケット

5. マシンのワイヤハーネスについているプラグを、仕上げキットのコネクタに接続する。
6. 図に示すように、残りの4つのバルクヘッド位置でこの手順を繰り返す。

## 重要

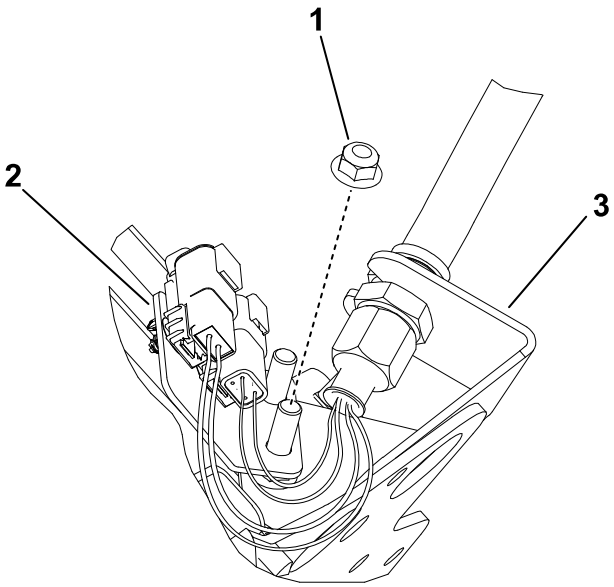
**各ホースが無理なく（ひねらない、折らない）取り付けられるように、残り4ヶ所のコネクタプレートの位置はそれぞれ異なっていますから図を参考に注意して取り付けてください。**



G402741

左後カッティングユニット（2番）

1. 余分のフランジナット
2. コネクタプレート
3. バルクヘッド用ブラケット



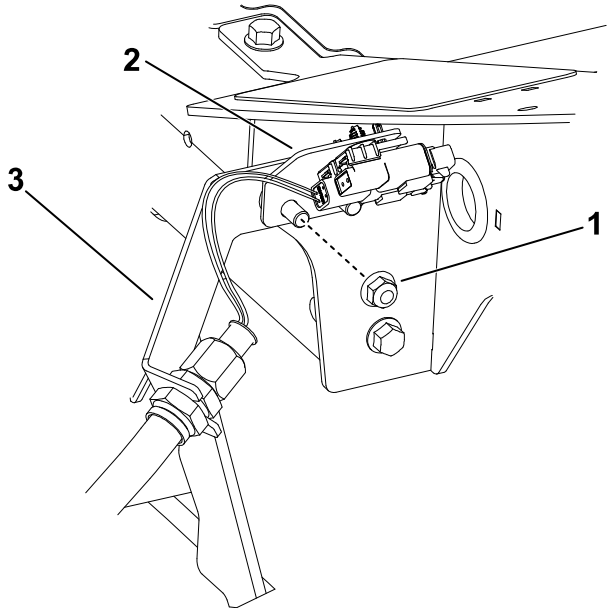
G402742

中前カッティングユニット(#1)（底面から見た図）

1 余分のフランジナット

2 コネクタプレート

3 バルクヘッド用ブラケット



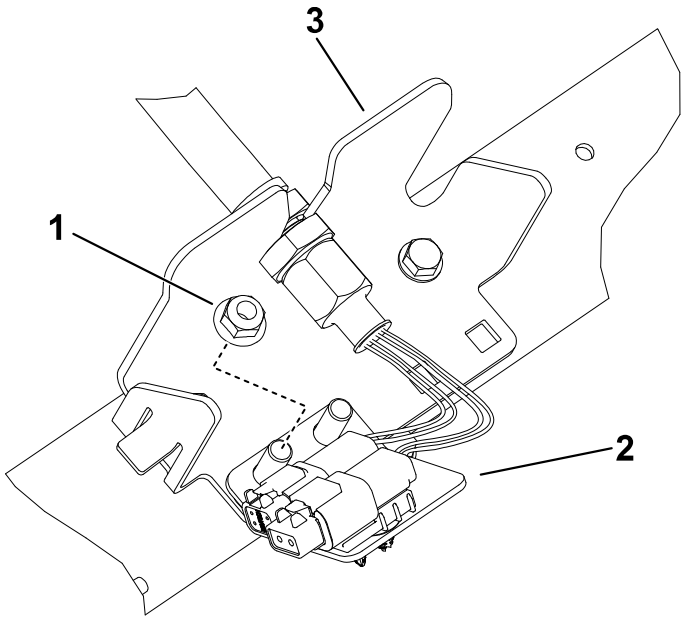
G402743

右前カッティングユニット（5番）

1 余分のフランジナット

2 コネクタプレート

3 バルクヘッド用ブラケット




G402744

右後カッティングユニット（3番）

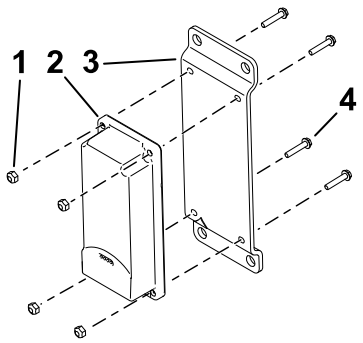
1. 余分のフランジナット
2. コネクタプレート
3. バルクヘッド用ブラケット

# 5 テレマティクス デバイスの設置

## 必要なパーツ

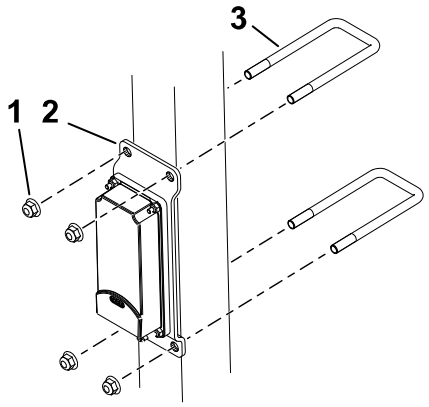
| | |
|---|---|
| 1 | テレマティクスデバイス |
| 1 | デバイスブラケット |
| 1 | テレマティクスワイヤーハーネス |
| 4 | 6 角ボルト (#10 x 1”) |
| 4 | ロックナット（#10） |
| 2 | U ボルト |
| 4 | フランジナット（⅜"） |

1. 六角ボルト (#10 x 1”) ④4本とロックナット (#10)①4個を使って、テレマティクスデバイス②をデバイス ブラケット③に固定する。



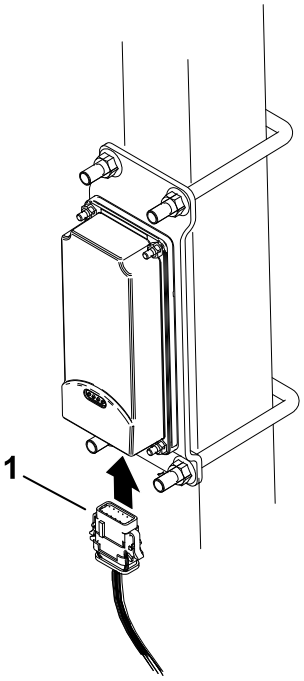
G530740s

2. U ボルト③2本とフランジ ナット (3/8”) ①4個を使って、デバイスブラケット②をロールバーの右上に固定する。



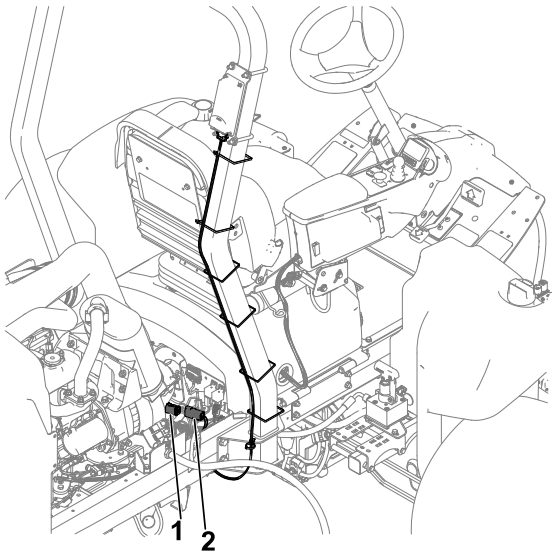
G530741s

3. テレマティクスワイヤー ハーネスのP02①というラベルの付いたコネクタをテレマティクスデバイスに接続する。
4. フードを開ける。




G530739s

5. ワイヤーハーネスをロールバーの下に配線し、 P01②というラベルの付いたワイヤーハーネスコネクタをP56①というラベルの付いたマシンワイヤーハーネスのコネクタに接続する。
6. フードを元に戻してラッチを掛ける。
7. 図示のようにケーブルタイを使ってハーネスをロール バーに固定する。



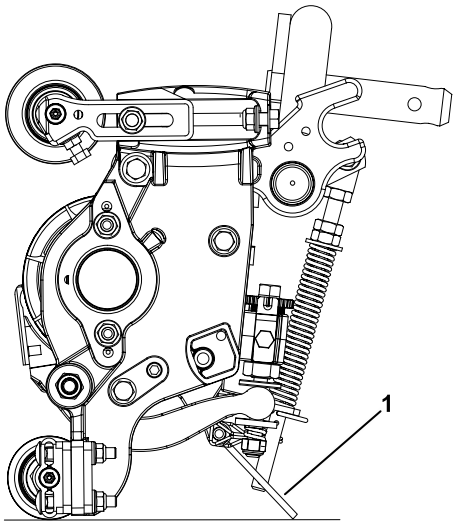

G532512s

# 6 カッティングユニットのキックスタンドの使い方

## 必要なパーツ

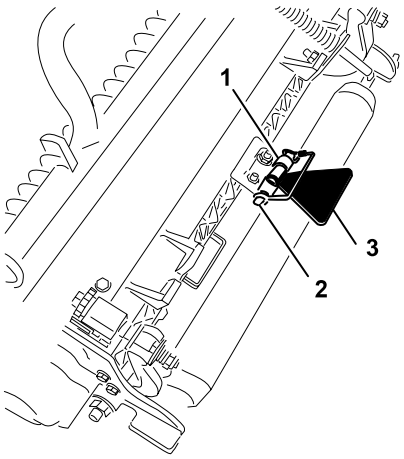
| | |
|---|---|
| 1 | カッティングユニットのキックスタンド |

1. ベッドナイフやリールを見るためにカッティングユニットを立てる場合には、ベッドバー調整ねじのナットが床面に接触しないように、カッティングユニットの後ろ側についているスタンド①で支えてください。



G402676

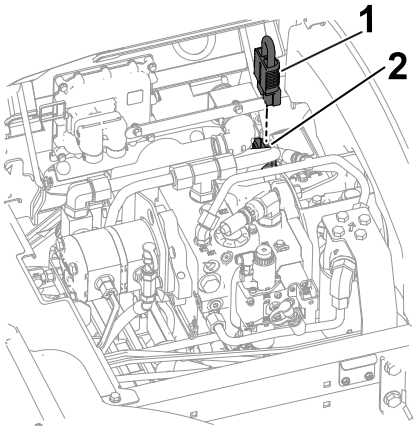
2. スタンド③は、チェーン ブラケット①に、スナッパー ピン②で固定します。



G402677

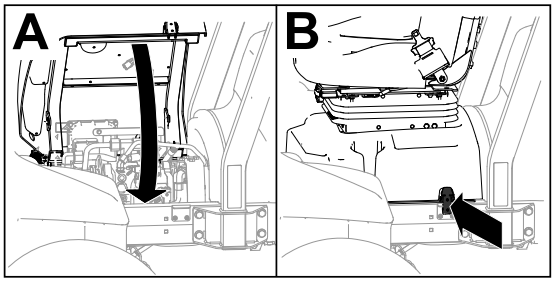
# 7 48 V 切断ジャンパを取り付けてシードベースを基に戻す

1. バッテリー切断ジャンパーの接触面に誘電体グリースを塗布する。
2. 48Vシステムコネクタ①をバッテリ切断ジャンパ②に差し込む。



G437957

3. シートベースを閉じⒶてラッチⒷを掛ける。



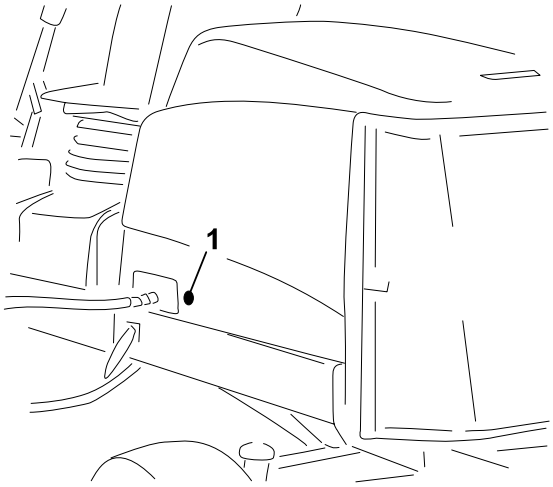
G438020

# 8 フードにCE用のロックを取り付ける

## 必要なパーツ

| | |
|---|---|
| 1 | フードロック |
| 1 | シール |
| 1 | ジャムナット |
| 1 | ワッシャ |

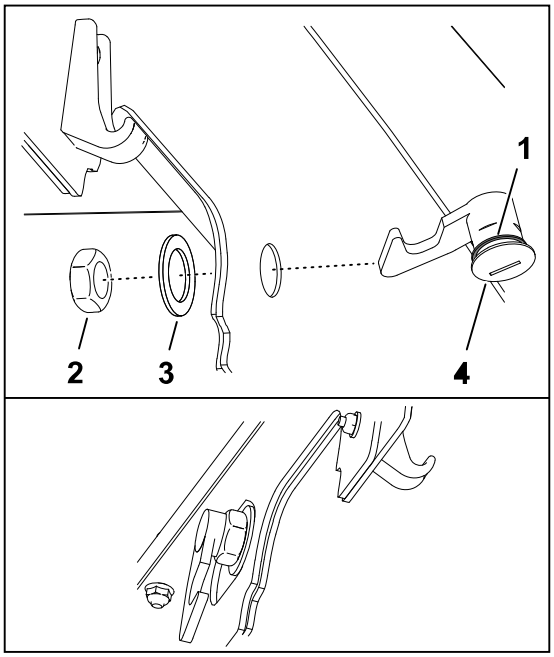
1. フードを上げる。
2. フード左側の穴からゴムグロメット①を取り外す。



G439569

3. シール①がフードロック④に取り付けられていることを確認すること。
4. ロックからナット②を取り外す。
5. フードの外側から、ラッチのフック側をフードの穴に通す。

   **注:** シールはフードの外側にセットしてください。
6. フードの内側で、ワッシャー③とナットを使ってロックをボンネットに固定する。
7. フードを閉め、同梱のフードロックキーを使い、ロック時にロックのフックがフレームキャッチに掛かることをチェックする。



G445763

# 9 CE用デカルを貼り付ける

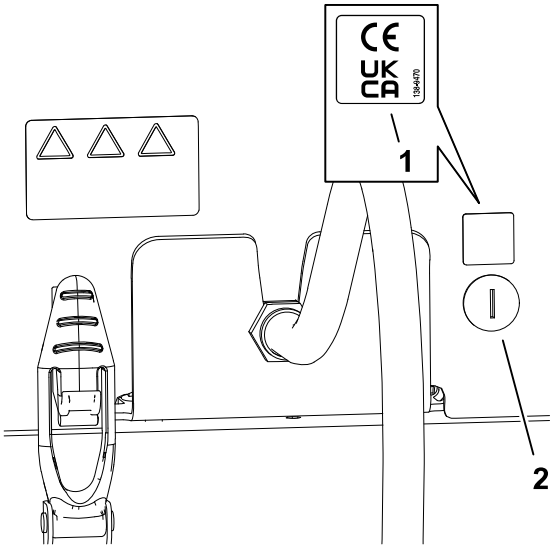
CE 諸国用マシン

**必要なパーツ**

| | |
|---|---|
| 1 | 製造年デカル |
| 1 | CE 用ステッカー |

## CE デカルを貼り付ける

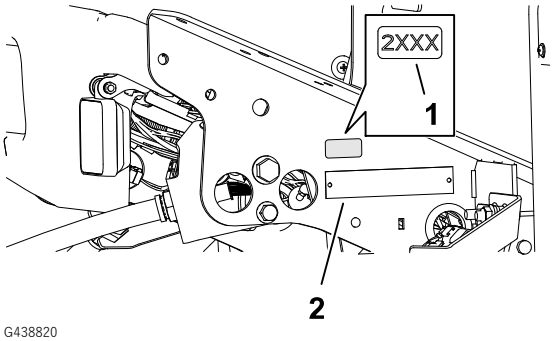
1. 消毒用アルコールと清潔な布を使って、フード ロック②周辺の領域を掃除し、フードを乾燥させる。
2. CEデカール①の裏紙を剥がし、デカールをボンネットに貼り付ける。



G438804

## 製造年デカルを貼り付ける

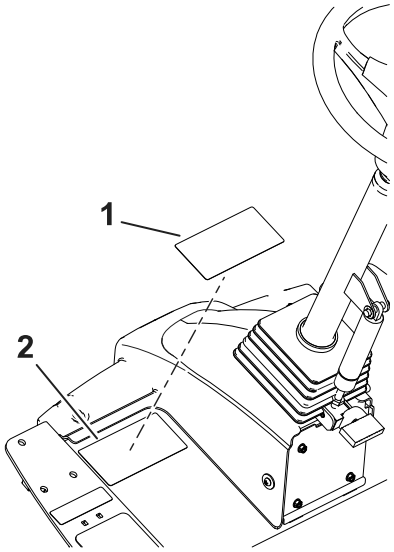
1. 消毒用アルコールときれいなウェスで、シリアル番号プレートを取り付けた場所②の隣の部分をきれいにぬぐって表面を乾燥させる。
2. 製造年デカール①の台紙を剥がし、デカールをフロアブラケットに貼りつける。



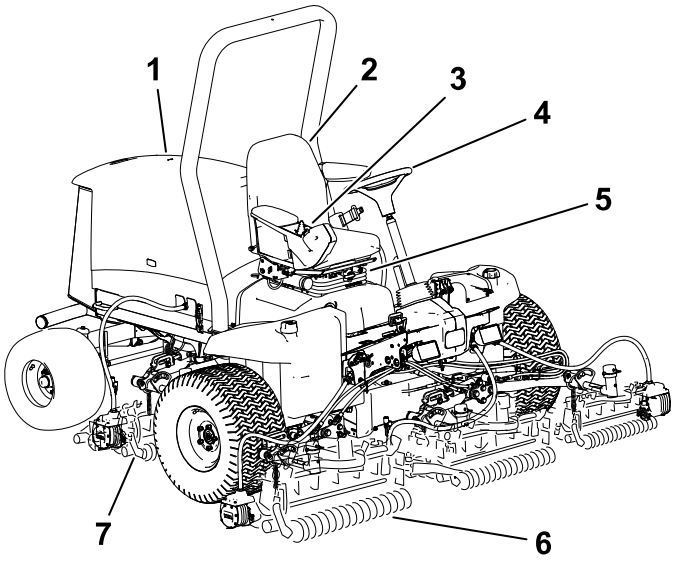
G438820

# CE 用警告デカルを貼り付ける

1. 消毒用アルコールと清潔な布を使って既存のデカルの表面を拭き、デカルを乾燥させる (②)。
2. CE警告デカール①の裏紙を剥がし、既存のデカールの上にCE警告デカールを貼り付ける。



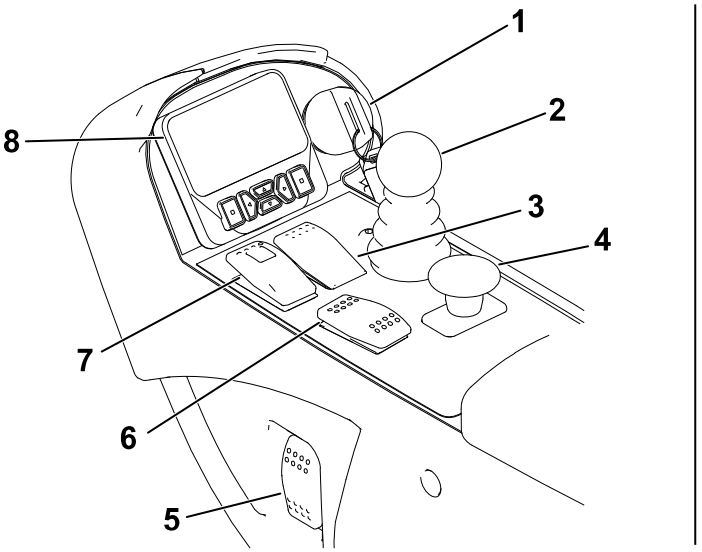
# 製品の概要

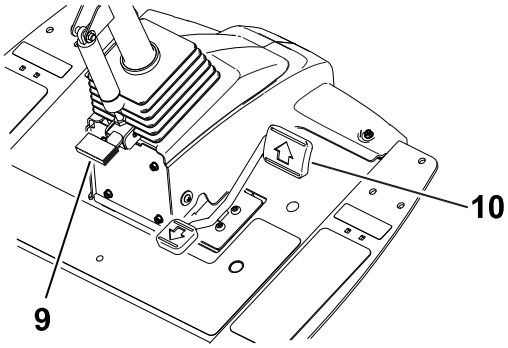



G403839

1. エンジンフード
2. 運転席
3. コントロールアーム
4. ハンドル
5. 座席調整レバー
6. 前カッティングユニット
7. 後カッティングユニット

## 制御装置類

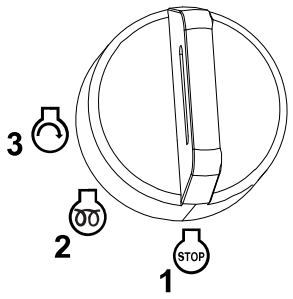



G461340

1. 始動キー
2. ジョイスティック（カッティングユニット操作レバー）
3. クルーズコントロールスイッチ
4. PTO スイッチ
5. ヘッドライトスイッチ
6. エンジン速度スイッチ
7. 駐車ブレーキスイッチ
8. インフォセンターディスプレイ
9. チルト調整ペダル
10. 走行ペダル

# キースイッチ



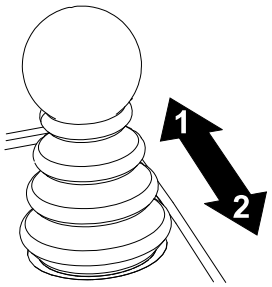

G453721

1 OFF

2 ON/予熱

3 始動

# カッティングユニット操作レバー



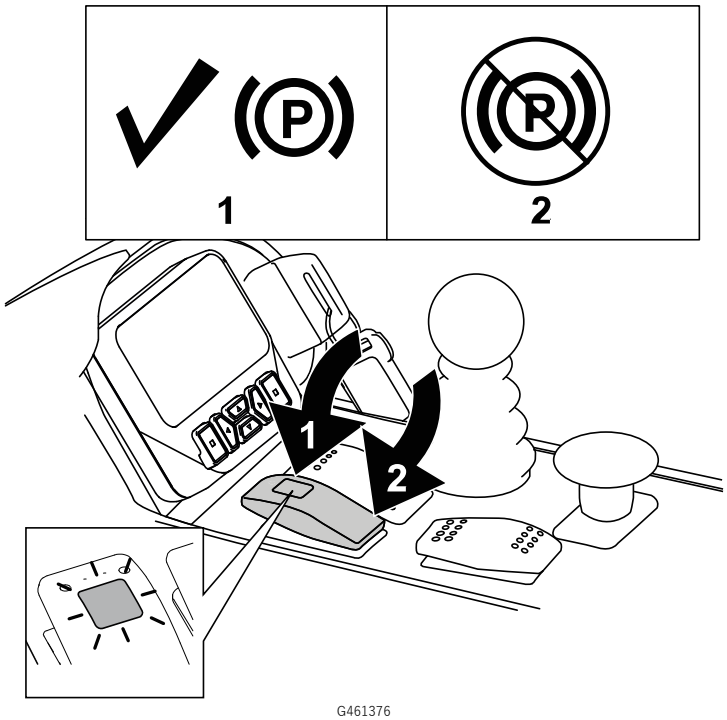

G453725

1 カッティングユニットを下げる - 最初にPTOを作動させてから下げるとユニットが回転を開始します (刈り込みモード)。

2 カッティングユニットを上げる - まずPTOを解除してから上昇させてください。 (移動う走行モード)。

**注:** 刈り込み中、旋回する時にレバーを**軽く**後方に引くと、カッティングユニットが少しだけ上昇します。

# 駐車ブレーキスイッチ




G461376

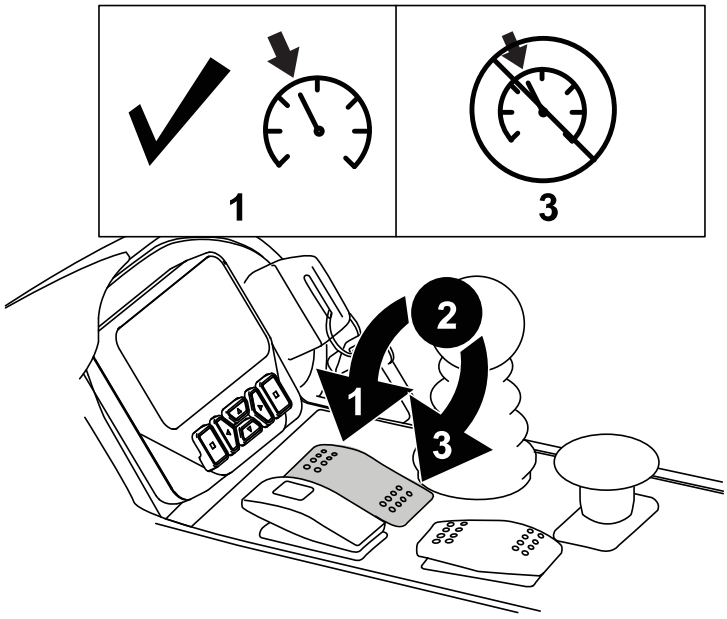
1 駐車ブレーキをかける。

**注:** 駐車ブレーキ スイッチをオンにすると、走行ペダルの位置に関係なく、自動的に減速します。

駐車ブレーキ スイッチの位置に関係なく、マシンが停止またはエンジンが停止するとすぐに駐車ブレーキが作動します。

2 駐車ブレーキを解除する。

# クルーズコントロールスイッチ




G461362

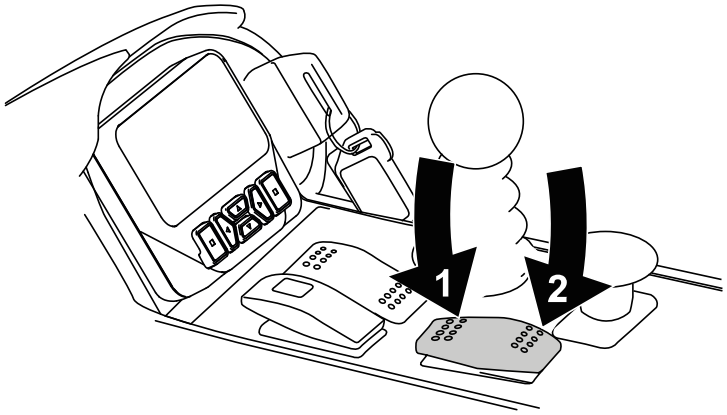
① クルーズ コントロールを有効にするには、スイッチを前方に軽く押す。

**注:** クルーズ速度はディスプレイのボタンで 0.8 km/h 単位で調整します。

② クルーズコントロールを開始するには、スイッチを押して中央位置にする。

③ クルーズ コントロールを終了するには、スイッチを後方に軽く押す。

# エンジン速度スイッチ

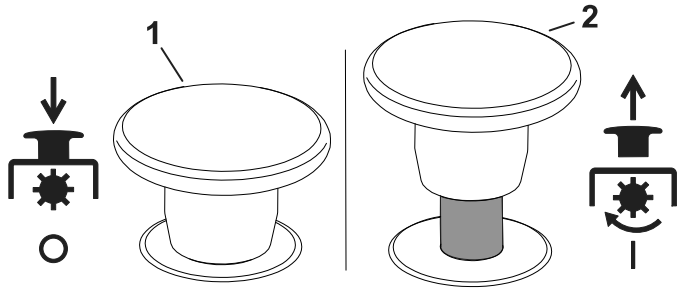



G461359

① スイッチを前方に短くタップすると、エンジン回転数が100 rpmずつ増加する。長押しするとエンジンがハイアイドル状態になる。

② スイッチを後方に短くタップすると、エンジン回転数が100 rpmずつ減少する。長押しするとエンジンがローアイドル状態になる。

# PTOスイッチ



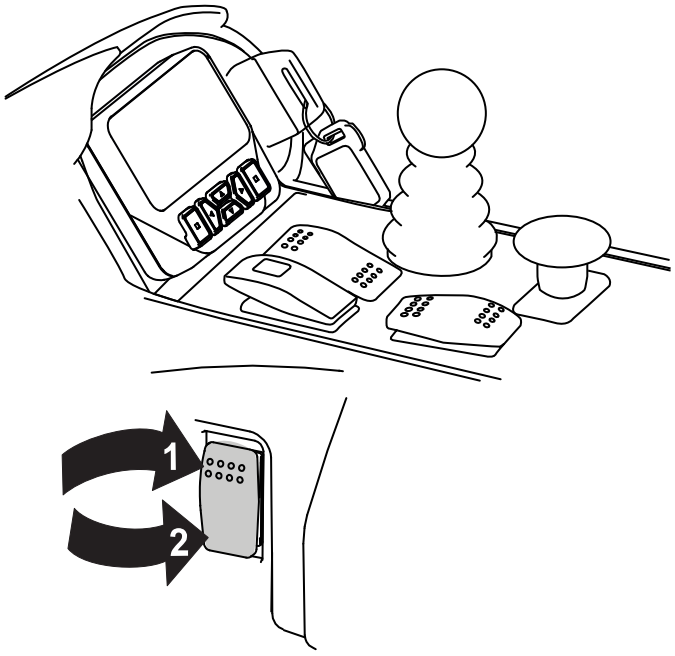

G453441

① PTOを解除するすると、マシンは移動走行モードになり、最高速度が制限されていない場合は最大16 km/hで走行することができます。

② PTOを作動させると、マシンは刈り込みモードになり、最高速度が制限されていない場合は最大13 km/hで走行することができます。

**注:** 各モードでの最大速度の設定は、インフォセンターの「保護メニュー」で行うことができます。

# ヘッドライトスイッチ

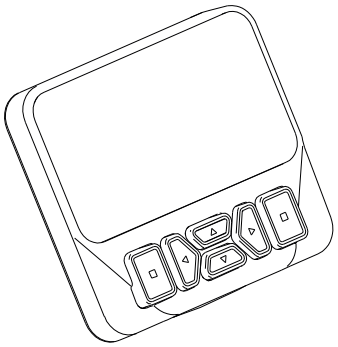



G461393

1 On

2 Off

# インフォセンターディスプレイ

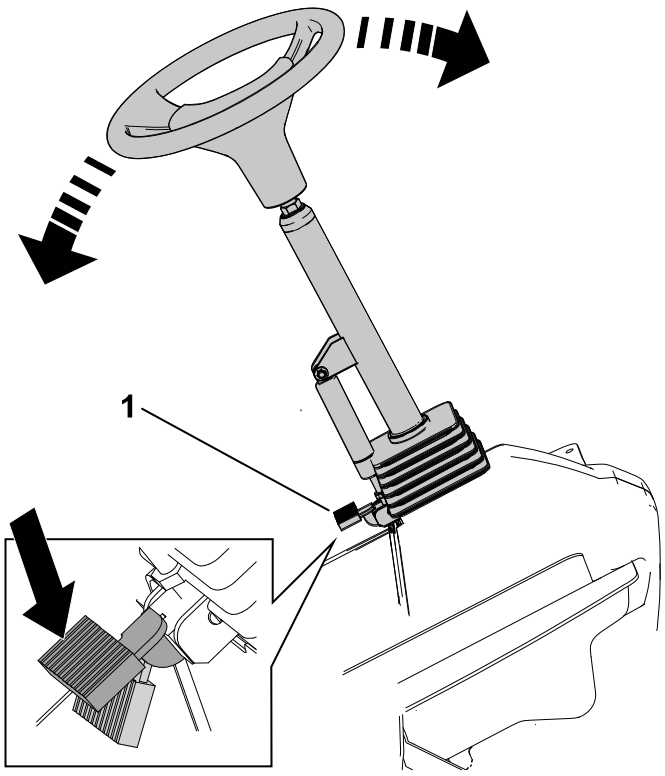


G461392

インフォセンターディスプレイには、マシンの動作ステータス、さまざまな診断、その他の情報など、マシンに関する情報が表示されます。

表示される内容はボタンによって変わります。各ボタンの機能はメニューの内容によって、変わります。

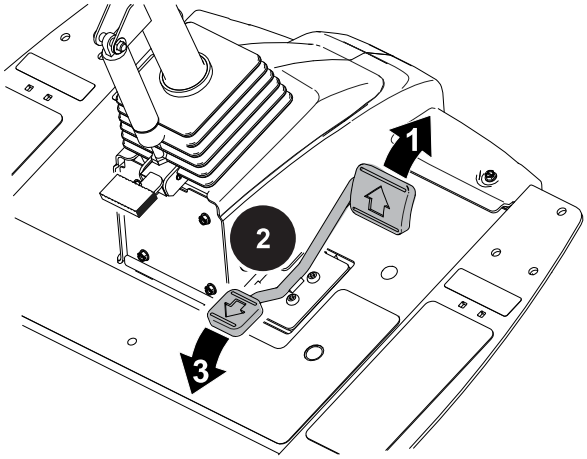
# チルト調整ペダル




G453181

チルト調整ペダル①を踏み、ステアリングタワーを上下に動かしてして快適な運転位置にセットします。

# 走行ペダル




G453193

① 前進する - ペダルの上部を踏む。

**注:** 最大速度を出すには、最大速度を設定した上で、移動走行モードで、ペダルを前進一杯に踏み込みます。

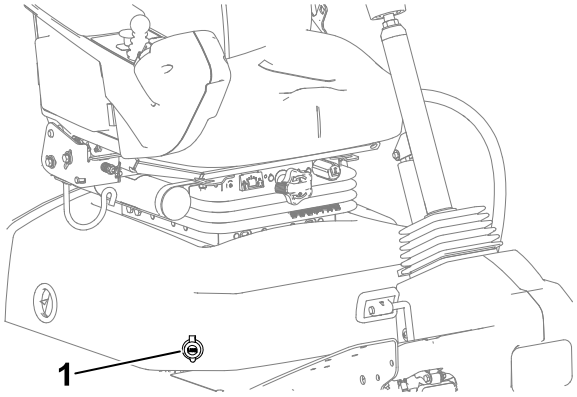
② マシンを停止するには、ペダルへの足の圧力を減らし、ペダルを中央 (中立) 位置に戻す。

**注:** 走行ペダルから足を離すと、マシンはすぐにニュートラルに戻ります。

③ 後退する - ペダルの下部を踏む。

**注:** 走行速度はペダルの踏み込み具合で調整します。

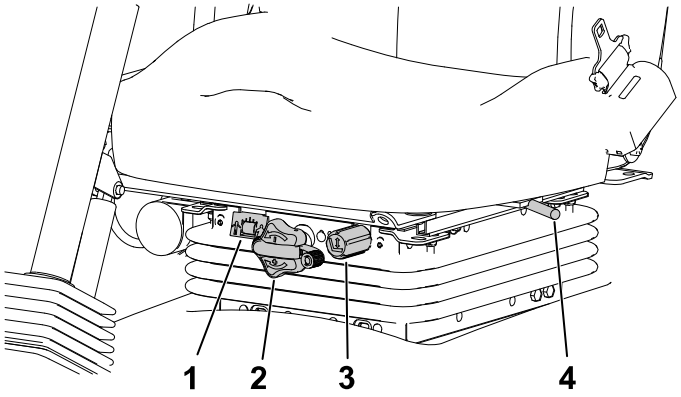
# 電源ソケット



G453945

パワーポイント①は電子機器用の12V電源。

# 座席コントロール

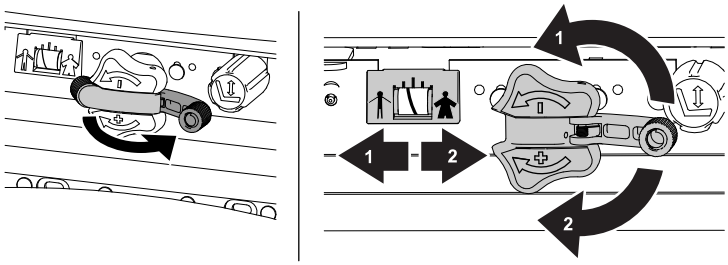



G446491

1. 体重調整ゲージ
2. 体重調整ノブ
3. 高さ調整ノブ
4. 前後調整レバー

## 体重調整ノブ

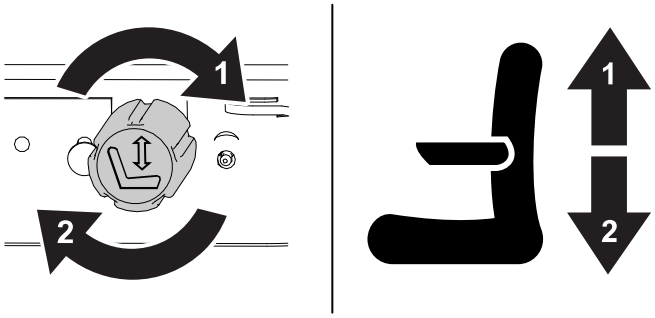
体重計の窓に自分の体重が表示されるまで、体重調整ノブを回します。




G446496

1. 減少
2. 増加

## 身長調整ノブ

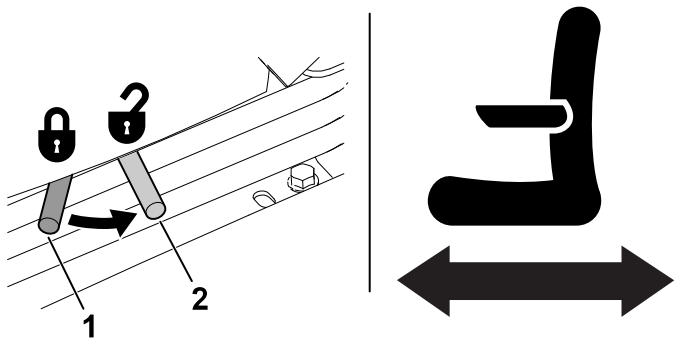



G446494

1. 上昇
2. 下降

# 座席コントロール （続き）

## 前後進レバー



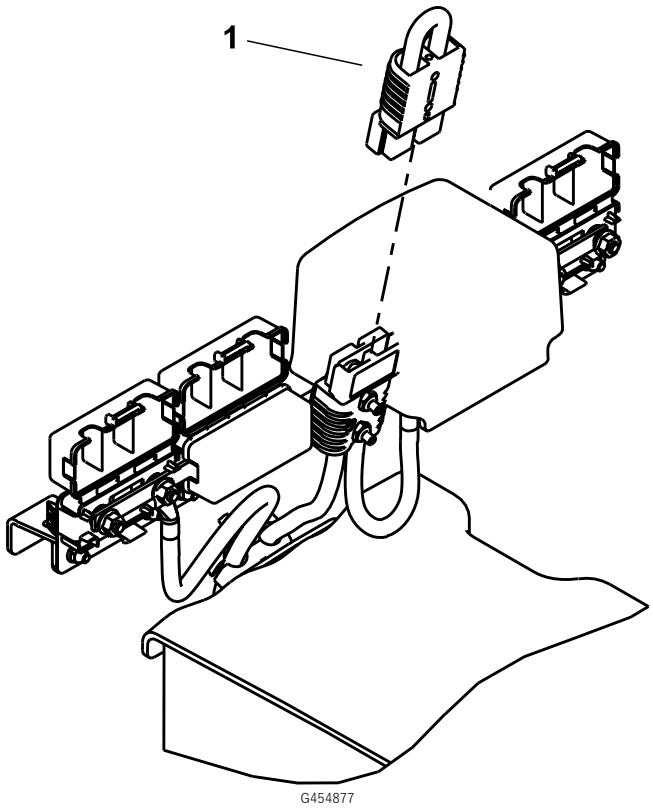

G446495

1 ロック

2 ロック解除

# カッティングユニットへの給電を遮断する

カッティングユニットの取り付け、取り外し、または作業を行う前に、運転席の下にあるカッティング ユニット電源切断コネクタ ①を抜いて、カッティングユニットの電源を切断してください。マシンを使用するときには、コネクタを接続してください。




**⚠ 注意 ⚠**

**カッティングユニットの電源を遮断しないと、誰でもいつでもカッティングユニットを始動させることができ、手や足に大怪我を負う危険がある。**

**カッティングユニットの整備などを行う際には、必ずその前に、カッティングユニット給電遮断コネクタ部で電源を遮断すること。**

# 仕様

**注:** 仕様および設計は予告なく変更される場合があります。

| | |
|---|---|
| 移動走行時の幅: | 228 cm |
| 刈り幅 | 254 cm |
| 長さ | 282 cm |
| 高さ（ROPSを含む） | 160 cm |
| ウェイト* | 1360 kg (2,999 lb) |
| エンジン | クボタ 24.8 hp |
| 燃料タンク容量 | 53 リットル |
| 移動走行速度 | 0-16 km/h |
| 刈込速度 | 0-13 km/h |

*重量には液体と5”、8枚刃のカッティングユニットが含まれる。

# アタッチメントとアクセサリ

承認されたアタッチメントおよびアクセサリToroをマシンと一緒に使用して、その機能を強化および拡張することができます。認定サービス ディーラーまたは認定Toro代理店に問い合わせていただくか、www.Toro.com全ての認定アタッチメントおよびアクセサリのリストを参照してください。

マシンの最適なパフォーマンスと継続的な安全認証を維持するには、純正のToro交換部品とアクセサリのみを使ってください。

# 操作前

## 毎日の整備作業を実施する

毎日の運転前に、「使用ごと/毎日の点検整備」を行ってください。

## 燃料

### 燃料についての仕様

**重要**

**絶対に、ディーゼル燃料の代わりに灯油やガソリンを使わないでください。**

#### ディーゼル燃料

| | |
|---|---|
| 種類 | 気温が -7°C 以上では夏用燃料（2号軽油）を使用しますが、気温が -7°C 以下の季節には冬用燃料（1号軽油または1号と2号の混合）を使用してください。低温下で冬用ディーゼル燃料を使うと、発火点や流動点が下がってエンジンが始動しやすくなるばかりでなく、燃料の成分分離（ワックス状物質の沈殿）によるフィルタの目詰まりを防止できるなどの利点があります。<br><br>気温が -7°　以上の季節には夏用燃料を使用する方が、燃料ポンプの寿命を延ばします。 |
| 硫黄分 | 低濃度 (<500 ppm) または超低濃度 (<15 ppm) |
| 最低セタン価 | 40 |
| 格納保管 | 180日以内に消費できる量の、清潔で新鮮なディーゼル燃料またはバイオディーゼル燃料のみを入手すること。180日を超えて保管された燃料は使用しないこと。 |
| オイルと添加剤 | 燃料にオイルを混合しないこと |

# 燃料（続き）

## バイオディーゼル

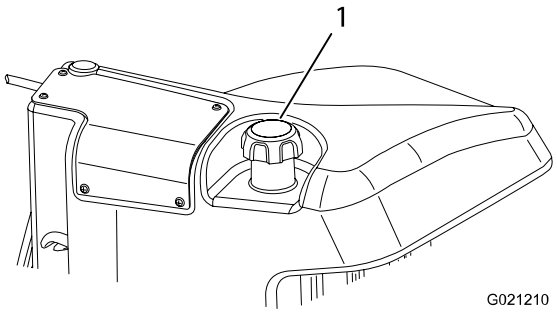
| | |
|---|---|
| 種類 | このマシンは、最大B20のバイオディーゼル混合燃料 (20%バイオディーゼル、80%石油ディーゼル) も使用でる。<br>ただし、混合されている軽油のイオウ含有量は極低レベルである必要があります。<br>寒い季節には、B5 (バイオディーゼル含有量5%) 以下のブレンドを使用すること。 |
| 最低セタン価 | 40 |
| バイオディーゼルに関する注意事項 | バイオディーゼル混合燃料は塗装部を傷める可能性がある。<br>時間経過による劣化がありうるので、シール部分、ホース、ガスケットなど燃料に直接接する部分をまめに点検してください。<br>バイオディーゼル混合燃料に切り替えてからしばらくの間は燃料フィルタが目詰まりを起こす可能性があります。<br>バイオディーゼルの詳細については、Toroの正規代理店に問い合わせ方。 |
| 格納保管 | 180日以内に消費できる量の、清潔で新鮮なディーゼル燃料またはバイオディーゼル燃料のみを入手すること。180日を超えて保管された燃料は使用しないこと。 |
| オイルと添加剤 | 燃料にオイルを混合しないこと |

| | **標準** | **地域** |
|---|---|---|
| バイオディーゼル燃料は以下を満たしている必要がある。 | ASTM D6751 | USA |
| | EN 14214 | EU 諸国 |
| 混合燃料は以下を満たしている必要がある。 | ASTM D975 | USA |
| | EN 590 | EU 諸国 |

## 燃料を補給する

1. 平らな場所に駐車し、カッティングユニットを下降させ、エンジンを停止させてキーを抜き取る。
2. 燃料タンクの補給口付近をよごれのないウェスできれいにぬぐう。
3. 燃料タンクからキャップ①を外す。
4. 補給管の下まで軽油を入れる。
5. 燃料タンクのキャップをしっかりと締める。

   **注:** 可能であれば、作業後に毎回燃料を補給しておくようにしてください。これにより燃料タンク内の結露を少なくすることができます。




G021210

G438846

# インタロックスイッチの動作を点検する

**⚠ 注意 ⚠**

**インタロックスイッチは安全装置であり、これを取り外したり損壊したりすると予期せぬ人身事故が起こり得る。**

- **インタロックスイッチをいたずらしないこと。**
- **作業前にインタロックスイッチの動作を点検し、不具合があれば作業前に交換修理すること。**

**重要**

**インタロック作動試験を1つでも合格できない場合には Toroディストリビュータに連絡してください。**

## マシンの準備を行う

1. ゆっくりとした速度で、広い場所に移動する。
2. カッティングユニットを下降させ、エンジンを停止させて、駐車ブレーキを掛ける。

## 走行ペダルのスタートインタロック試験

1. 運転席に座り、パーキングブレーキをかける。
2. PTO スイッチを切位置にする。
3. 走行ペダルを踏み、キーを始動位置まで回転させる。

**注:** 走行ペダルを踏んでもエンジンが始動しなければ正常。

## PTO 起動インタロックの点検

1. 運転席に座る。
2. PTO スイッチを入位置にする。
3. キーを START 位置に回す。

**注:** PTO スイッチが入位置にある場合はエンジンが始動できないのが正常。

## PTO 作動インタロックの点検

**注:** カッティングユニットの不必要な磨耗を防ぐため、ユニットの回転は数秒以内にとどめてください。

1. 運転席に座る。
2. PTO スイッチを切位置にする。
3. エンジンを掛ける。

# インタロックスイッチの動作を点検する （続き）

4. PTO スイッチを作動位置まで引き上げる。
5. カッティングユニットを下げるとPTOが作動を開始する。
6. 運転席から立ち上がる。

**注:** オペレータが着席していない場合は PTO が作動しないのが正常です。

## 駐車ブレーキおよび走行ペダルの走行インタロック試験

1. 運転席に座る。
2. 駐車ブレーキを掛ける。
3. PTO スイッチを切位置にする。
4. エンジンを掛ける。
5. 走行ペダルを踏み込む。

**注:** 駐車ブレーキが掛かっているときに走行ペダルを踏んでも、マシンは反応しないのが正常です。勧告メッセージがインフォセンター画面に表示される。

## 自動駐車ブレーキの掛かり具合のチェック

1. 運転席に座って、エンジンを始動する。
2. 駐車ブレーキを解除し、シートから立ち上がる。

**注:** 運転席から離れた時に、駐車ブレーキ スイッチの赤いライトが点灯して、駐車ブレーキが作動していることが示されれば正常。

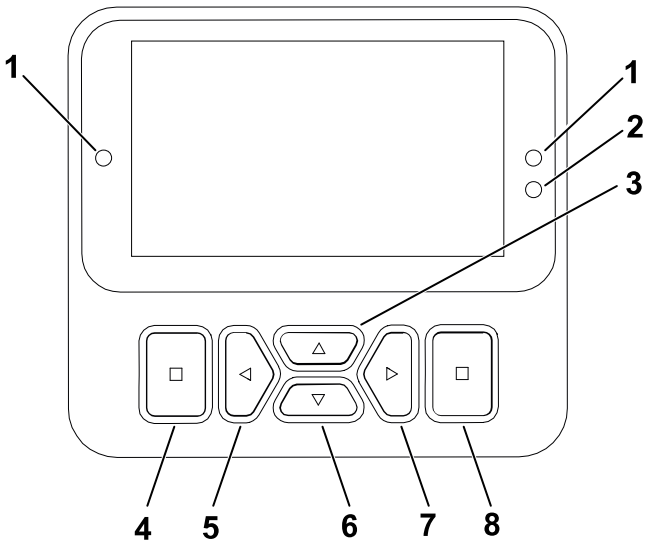
## カッティングユニット下降禁止インタロックの試験

1. 運転席に座って、エンジンを始動する。
2. カッティングユニットが移動走行位置まで上昇していることを確認する。
3. 運転席から立ち上がり、カッティングユニットを下げる。

**注:** 運転席に着席していないときは、カッティングユニットが下がらないのが正常です。

# インフォセンターディスプレイの概要

インフォセンターディスプレイには、マシンの動作ステータス、さまざまな診断、その他の情報など、マシンに関する情報が表示されます。ディスプレイには複数の画面があります。戻るボタンを押してから上下の方向ボタンを使うと、いつでも画面を切り替えることができます。




G471371s

1. インジケータランプ
2. ディスプレイ輝度センサー
3. ナビゲーション ボタン - 上
4. 戻るボタン
5. ナビゲーション ボタン - 減少/左
6. ナビゲーション ボタン - 下
7. ナビゲーション ボタン - 増加/右
8. 入力ボタン

**注:** 各ボタンの機能はメニューの内容によって、変わります。各ボタンについて、その時の機能がアイコンで表示されます。

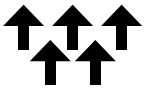
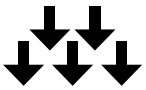
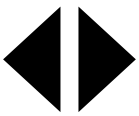
## インフォセンターディスプレイアイコン

| | |
|---|---|
| | 整備時期が来ています。 |
| | 仮想ペダルストップの設定 |
| | グロープラグが作動中。 |
| | 運転席に座ってください |
| | 駐車ブレーキが掛かっています。 |

| | |
|---|---|
| | ウォームアップモード |
| | バッテリー電圧 |
| | 燃料レベル |
| | 燃料残量がわずかです。 |
| | ロック |

# インフォセンターディスプレイの概要 （続き）

| | |
|---|---|
|  | エンジン冷却液温度 |
|  | 走行または走行ペダル |
|  | エンジンを掛けてください。 |
|  | PTOが入。 |
|  | クルーズコントロールが有効です。 |
|  | エンジン |
| PIN | パスコードが入力されました。 |
|  | アクティブ |
|  | 非アクティブ |
|  | メニュー |
|  | 次画面 |

| | |
|---|---|
|  | 障害/警告 |
|  | バックラップ |
|  | カッティングユニットが上位置または上昇中です。 |
|  | カッティングユニットが下位置または下降中です。 |
|  | ジェネレータ |
|  | アワーメータ |
|  | 値を増やす |
|  | 値を減らす |
|  | 上下にスクロール |
|  | 左右にスクロール |
|  | 前画面 |

# インフォセンターディスプレイの概要 （続き）

## メニューの概要

インフォセンター表示メニュー システムにアクセスするには、メイン画面で「戻る」ボタンを押します。ボタンを押すとメインメニューが表示されます。メニューから利用できるオプションの概要については、以下の表をご覧ください。

🔒保護メニューで保護されます — アクセスには PIN の入力が必要です

### メインメニュー

| メニュー項目 | 内容 |
|---|---|
| 不具合 | 不具合メニューには、最近に記録された不具合が表示されます。*サービスマニュアル*に Faults メニューおよびその内容の詳細が解説されています。または Toro ディストリビュータにお問い合わせください。 |
| 整備 | 整備メニューでは、使用時間積算記録などの情報を見ることができます。 |
| 診断機能 | 診断メニューでは、各スイッチ、センサー、制御出力の状態が表示されます。どのコントロール装置がONになっており、どれがOFFになっているかが表示されますから、故障探究を手早く行うことができます。 |
| 設定 | [設定] メニューを使うと、ディスプレイ上の構成変数をカスタマイズおよび変更することができる。 |
| マシンの設定 | [マシン設定] メニューでは、加速度、速度、カウンターバランスのしきい値を調整することができます。 |
| About（マシンについて） | このメニュー項目では、モデル番号、シリアル番号、ソフトウェアのバージョンなどを確認することができます。 |

### 整備

| メニュー項目 | 内容 |
|---|---|
| Hours（運転時間） | マシン、エンジン、リール、およびPTOが使用されていた時間およびマシンが移動走行していた時間と定期整備までの時間が記録されており、これらを確認することができます。 |
| Counts（回数） | マシンに発生した様々な事象の回数を表示します。 |
| 前バックラップ | 前方ユニットのバックラップ時のリール速度を設定します。 |
| 後バックラップ | 後方ユニットのバックラップ時のリール速度を設定します。 |
| 走行ペダル🔒 | 走行ペダルを調整します。 |

# インフォセンターディスプレイの概要 （続き）

## 整備 （続き）

| メニュー項目 | 内容 |
|---|---|
| 牽引ポンプ🔒 | 牽引ポンプを調整します。 |
| 仮想速度センサー🔒 | 仮想速度センサーを調整します。 |

## Diagnostics（診断機能）

| メニュー項目 | 内容 |
|---|---|
| Traction（走行） | 走行ペダルの入出力を示します。 |
| Cutting Units（カッティングユニット） | カッティングユニットを昇降させるための入出力を示します。 |
| PTO | 走行ペダルの入出力を示します。 |
| エンジン | エンジンを始動するための入出力を示します。 |
| ジェネレータ | ジェネレーターの入出力を示します。 |
| CAN統計🔒 | CANの入出力を示します。 |

## Settings（設定）

| メニュー項目 | 内容 |
|---|---|
| PIN を入力 | 許可された人（スーパーインテンデントや整備士）が PIN コードを入力してアクセスできます |
| バックライト | LCD 表示の明るさを調整します。 |
| Language（言語） | ディスプレイで使用される言語を制御する。 |
| フォントサイズ | ディスプレイ上のフォントのサイズを制御します。 |
| Units（単位） | ディスプレイで使用される単位を制御します(インペリアルまたはメートル法)。 |
| 保護設定🔒 | 保護設定の内容を変更することができます。 |

* 「オペレータ向け」のメッセージのみが翻訳表示されます。障害、サービス、および診断の画面は「整備用」です。□? タイトルは選択された言語で表示されますが、本文は英語表示となります。

## マシンの設定

| メニュー項目 | 内容 |
|---|---|
| 前バックラップ | 前方ユニットのバックラップ時のリール速度を設定します。 |
| 後バックラップ | 後方ユニットのバックラップ時のリール速度を設定します。 |

# インフォセンターディスプレイの概要 （続き）

## マシンの設定 （続き）

| メニュー項目 | 内容 |
|---|---|
| Mow Speed（刈込速度）🔒 | 刈り込み時（ローレンジ）の最高速度を設定します。。リールスピードを決定するために使われます。 |
| 移動走行速度🔒 | 移動走行時（ハイレンジ）の最高速度を設定します。 |
| Blade Count（刃数） 🔒 | リール速度を計算するために必要な刃数です |
| Height of cut （刈高） 🔒 | リール速度を決定するために必要な刈高です。 |
| フロントリール速度🔒 | 前リールの回転速度（計算値）を表示します。リール速度は手動で調整することもできます。 |
| リアリール速度🔒 | 後リールの回転速度（計算値）を表示します。リール速度は手動で調整することもできます。 |
| エコモード🔒 | 刈り込み中のエンジン速度を下げて騒音を少なくし、燃費を向上させます。リール速度は変わりませんが、刈り込み速度は遅くなります（速度ストップの設定で調整可能です）。 |
| パワーブースト🔒 | パワーブーストをオンまたはオフにします。 |
| パワーシェッド🔒 | パワーシェッドをオンまたはオフにします。 |
| スマートパワー 🔒 | スマートパワーの ON/OFF。 |
| Acceleration（加速）🔒 | Low, Medium, High の設定により、走行ペダル操作に対する応答速度を選択します。 |
| クリップコントロール🔒 | クリップコントロールの ON と OFF を切り替えます。。 |

## About（マシンについて）

| メニュー項目 | 内容 |
|---|---|
| Model（モデル） | マシンのモデル番号を表示します。 |
| SN（シリアル番号） | マシンのシリアル番号を表示します。 |
| S/W改訂 | 一次コントローラのソフトウェアバージョンを表示します |
| インフォセンターのS/W改訂🔒 | インフォセンターのソフトウェアの改訂番号を表示します。 |
| ジェネレーターS/Wの改訂 🔒 | スタータージェネレーターソフトウェアの改訂を一覧表示する。 |
| カッティングユニット1のS/W改訂🔒 | eリールカッティングユニットのソフトウェア改訂を一覧表示する。 |
| カッティングユニット2のS/W改訂🔒 | |
| カッティングユニット3のS/W改訂🔒 | |
| カッティングユニット4のS/W改訂🔒 | |

# インフォセンターディスプレイの概要 （続き）

## About（マシンについて） （続き）

| メニュー項目 | 内容 |
| --- | --- |
| カッティングユニット5のS/W改訂🔒 | |

# インフォセンターディスプレイの概要 （続き）

## Run 画面へのアクセス方法

1. **メイン メニュー**から、右のナビゲーション ボタンを押して、燃料レベルと冷却水の温度を表示する**メイン実行画面**にアクセスします。
2. 右のナビゲーション ボタンを押して**セカンダリ運転画面**までスクロールすると、冷却水温度と発電機温度、RPMおよび電圧が表示されます。
3. 右のナビゲーション ボタンを押し**eReel情報画面**までスクロールすると、5つの各カッティング ユニットのリール電流と速度が表示されます。
4. 右のナビゲーション ボタンを押して**エネルギーモード画面**までスクロールすると、動作中のコンポーネント、エネルギーフロー、方向が表示されます。

## 保護項目

ディスプレイの**設定**内で調整できる項目があります。これらの設定をロックするには、**保護されたメニュー**を使います。

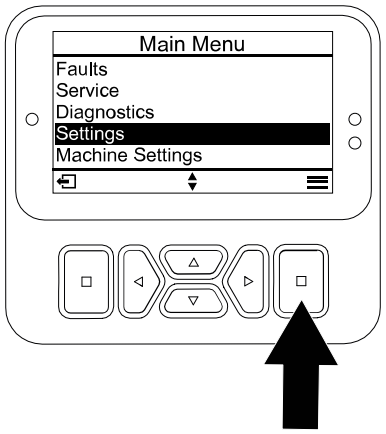
**注:** 納品時のパスワードは、代理店にて設定しています。

### アクセス制限付きメニューへのアクセス

**注:** マシンの工場出荷時のデフォルトの PIN コードは 0000 または 1234です。

PINコードを変更し、コードを忘れた場合は、Toro認定代理店に問い合わせること。

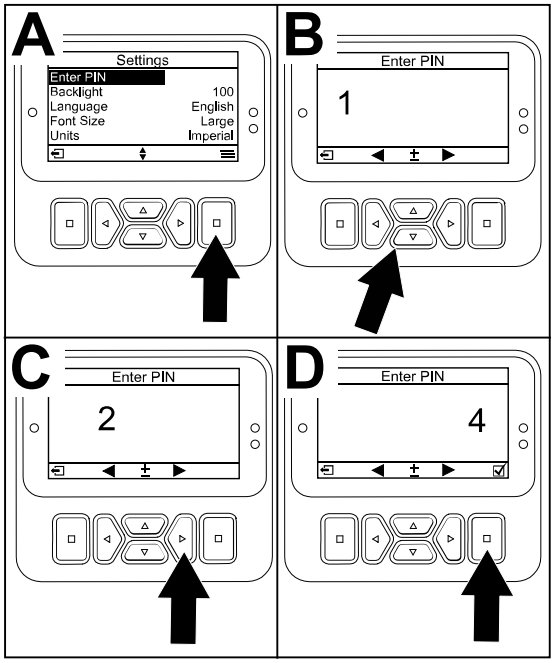
1. メインメニュー から、**メイン メニュー**で下にスクロールして**設定**メニューへ行き、選択ボタンを押します。




G471349s

2. **設定**から、**PIN を入力**にスクロールし、選択ボタンⒶを押します。
3. PINコードの入力方法：最初の桁で、ナビゲーション ボタンⒷを使って数字を入れ、次に右のナビゲーション ボタンⒸを押して次の桁に進みます。この手順を繰り返して最後の桁まで入力します。
4. 選択ボタンⒹを押します。

   **注:** PINコードが受理され、保護メニューのロックが解除されると、 □□□□□□□"PIN□? □ 表示されます。
5. 保護メニューをロックするには、キースイッチをOFF位置に回し、次にON位置まで回す。



G471350s

## 「パスワード保護メニュー」を閲覧・設定変更するには

1. **設定**で、**設定の保護**まで下にスクロールします。
2. PINコードを入力せずに設定を確認・変更するには、セレクトボタンで**プロテクト設定**を ☐ (Off) に変更します。
3. PIN コードを入力しないと**プロテクト設定**を閲覧・設定変更できないようにするには、セレクトボタンで設定を ☑ (On) に変更し、PIN コードを設定し、エンジン始動キーをOFF にしてからもう一度 ON にしてください。

## 整備時期お知らせタイマー

定期整備終了後に整備時期タイマーをリセットします。

1. **設定**で、**PIN を入力**までスクロールし、選択ボタンを押します。
2. PINを入力します。「保護されたメニューへのアクセス」を参照してください。
3. **整備**で、**時間**までスクロールし、選択ボタンを押します。
4. **整備時期**まで下にスクロールします。

   **注:** 既に整備時期が来ている場合は、 Now □□□□□□ **整備時期**の横にあります。
5. 整備間隔をハイライトし、選択ボタンを押します。

   **注:** 整備間隔 (250 時間、500 時間など) は、**整備時期**の横にあります。

   整備時期は保護メニュー項目です。
6. RESET SERVICE TIMER 画面が表示された場合、はいの場合は「選択」ボタンを、いいえの場合は「戻る」ボタンを押してください。
7. YES を選択すると、時間画面がクリアされて整備時間選択画面に戻ります。

# インフォセンターディスプレイの概要 （続き）

## 刃数の設定方法

1. **マシン設定**で、**刃数**まで下にスクロールします。
2. 右側のナビゲーションボタンを押して、ブレード数を8または11に設定します。

## 刈高の設定方法

1. **マシン設定**で、**刈高**まで下にスクロールします。
2. 左右のナビゲーション ボタンを使って、カッティングユニットのベンチ設定と一致する刈高を選択します。ベンチ設定と完全に同じ刈高がない場合には、表示されている数値の中から最も近いものを選んでください。

## 前後のリール速度の設定方法

1. クリップコントロールがオン (デフォルト) の場合、リールの速度は、マシンの走行速度に比例して変化する。
2. クリップコントロールがオフの場合、リール速度は責任者が設定した最大刈り込み速度を基準にした一定速度に維持される。

**注:** 以上のほか、前後のリール速度は**マシン設定**で手動で調整することができます。

## エコノミーモードの設定方法

負荷の小さい作業や騒音を小さくしたい場合には、エコノミーモードが役立ちます。エコノミーモードでは、エンジン速度を下げますが、走行速度やリールの速度は低下しません。

**注:** エコノミーモードでの刈り込みは、8.6 km/h を以下で行うことをお奨めします。

1. **メイン メニュー**から、**マシン設定**まで下にスクロールし、選択ボタンを押します。
2. **マシン設定**で、**エコモード**まで下にスクロールします。
3. 右のナビゲーション ボタンを押して、オンに切り替えます。

## 刈り込み最高速度の設定方法

選択されている設定が、走行速度バーの上に X で表示されます。クルーズコントロールの設定とペダルストップの設定も表示されます。バーに付いている X 印は、最高速度が制限されていることを意味します。

**注:** この設定は記憶され、変更されるまで有効です。

1. **マシン設定**で、**刈り込み速度**まで下にスクロールします。
2. 左右のナビゲーションボタンを使うと、最大刈り込み速度が1.6～12.9 km/hの間で0.8 km/hずつ増減します。

# インフォセンターディスプレイの概要 （続き）

## 移動時最高速度の設定方法

選択されている設定が、走行速度バーの上に X で表示されます。クルーズコントロールの設定とペダルストップの設定も表示されます。バーに付いている X 印は、最高速度が制限されていることを意味します。

**注:** この設定は記憶され、変更するまで有効です。

1. **マシン設定**で、**移動走行速度**まで下にスクロールします。
2. 左右のナビゲーションボタンで、最大移動走行速度を 8.0–16.0 km/hの間で 0.8 km/h ずつ増減することができます。

## スマートパワーの ON/OFF

1. **設定**で、**スマートパワー**まで下にスクロールします。
2. 右のナビゲーション ボタンを押して、ON、OFFを切り替えます。

## 加速モードの設定方法

1. **マシン設定**で、**加速**まで下にスクロールします。
2. 右のナビゲーション ボタンを押して、低、中、高を切り替えます。

## 前後のユニットのバックラップ速度の設定方法

1. **マシン設定**で、**フロントバックラップ**と**リアバックラップ**まで下にスクロールする。
2. 左右のナビゲーション ボタンを使って、バックラップ速度を増減する。

# 油圧ダイナミクスブレーキによる制動距離のチェック

**注:** 走行ペダルがニュートラルに戻ると、油圧回路によるブレーキがかかってマシンは停止します。

**注:** スムーズに減速するには、走行ペダルをゆっくりとニュートラルに戻してください。急停止したい場合を除き、ペダルから急に足を離さないでください。

1. 最大移動走行速度 16 ㎞/h から制動を開始して、約 3.7 mで完全に停止することが必要です。
2. 平らで乾燥した舗装路上で 3.7 m を測り、始点と終点にマーキングする。
3. 最大搬送速度16 km/hでマシンを走行させ、3.7 mの開始地点で走行ペダルから足を放す。
4. マシンが終点 (3.7 m) から0.6 m以内に停止しているかどうかをチェックする。
5. マシンの停止距離がこの距離の0.6 m以内にない場合は、Toro代理店に連絡すること。

# 後退速度について

**移動走行時の後進速度**

# 後退速度について （続き）

- 移動走行時の最大速度が 8.0 km/h 以上に設定されている場合でも、後進時の最大速度は 8.0 km/hとなります。
- 移動走行時の最大速度が 8.0 km/h 未満に設定されている場合は、後進時の最大速度が 8.0 km/hとなります。

**刈り込み時の後進速度**

- 刈り込み時の最大速度が6.4 km/h 以上に設定されている場合でも、後進時の最大速度は 6.4 km/hとなります。
- 刈り込み時の最大速度が6.4 km/h 未満に設定されている場合は、後進時の最大速度が 6.4 km/hとなります。

# 表示される走行速度について

このマシンは、推定走行速度をキロメートル毎時 (km/h) またはマイル毎時 (mph) で表示します。

- 走行時の現在速度は、クルーズコントロール画面と仮想ペダルストップ画面の左上隅に表示されます。
- 走行速度は推定値であり、8.0 km/h で刈り込みをしている時に最も正確な値になるように校正されています。乾燥した平坦な舗装路を走行中に表示される走行速度が、上下 0.8 km/hの誤差範囲にあれば、その表示は正確です。
- 実測した走行速度と表示される走行速度との間に 2.4 km/h 以上の相違がある場合には、Toro認定代理店に連絡してください。

# パワーマッチ™システムの概要

大きなパワーが必要になると、AC 48 V バッテリー パックからパワーが追加されます。この機能は PowerMatch システムによって管理されています。この、バッテリーによるパワー補助は、あくまでも一時的なパワーアップを目的としたものであり、最大馬力で連続運転することを目的としたものではありません。パワーマッチは、2つのモードで構成されています。

## パワーシェッドモードについて

エンジン出力（24.8馬力）より大きいパワーが必要になると、発電機からバッテリーへの充電を徐々に減らし、DC 48 V バッテリー パックがリールを駆動し始めます。これはオペレータには認識されません。発電機を駆動するためのパワーが要らなくなるので、その分のエンジン出力を走行に使用できるようになります。

**注:** Toroほとんどの動作状況ではパワーシェッドをONのままにしておくことを推奨します。パワーシェッをオフにするには、**マシン設定**から下にスクロールしして**パワーシェッド**へ行き、右のナビゲーション ボタンを押してOFFに切り替えます。

## パワーブーストモードについて

さらに大きなパワーが必要になると（急斜面を登る場合など）、DC 48 V バッテリーパックから発電機に電力を供給して発電時を電気モータとして使用し、DC 48 V バッテリー

パックはエンジン出力を補助するとともに、カッティングユニットリールも駆動するようになります。

**注:** Toroは、ほとんどの動作状況ではブーストモードをオンのままにすることを推奨しています。**パワーブースト**をオフにするには、マシン設定から**パワーブースト**まで下にスクロールし、右のナビゲーション ボタンを押してオフに切り替えます。

# 動作中

## マシンの運転特性について

- ペダルから足を離すと、ダイナミックブレーキが働いてマシンは停止します。
- ペダルコントロールを最適化して、応答性が高くて安定したレスポンスを実現することができますので、不整地で安定したコントロールができ、しかもスムーズで効きの良いブレーキングを行えます。
- 刈り込み時には、エンジン速度が自動的にに高速になります。
- 最高走行速度制限設定は、PIN で保護された設定で、管理責任者のみが行えます。
- 走行ペダル動作範囲、クルーズコントロール、走行速度制限用ペダルストップの設定は、すべて最高速度制限設定（PIN 保護）と連動します。

## マシンの運転操作

- 障害物がある場合は、カッティングユニットを上昇させて逃がすか、障害物を避けて刈り込むかしてください。
- 次の刈り込み現場へ移動走行するときは、PTOを停止し、カッティングユニットを一番上の位置に上昇させてください。これにより、マシンは移動走行モードになります。
- ラフでは低速で走行してください。
- 走行中は絶対に車両のスイッチを切らないでください。

### 運転操作に慣れましょう

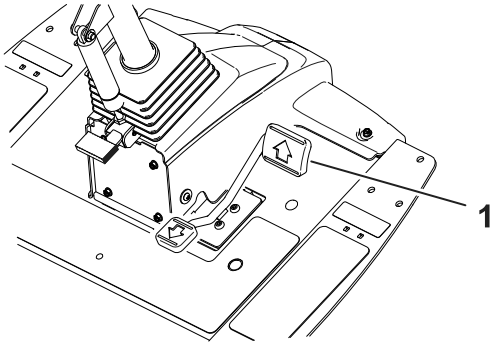
運転の練習をしてマシンの特性を早くつかんでください。

1. カッティングユニットを上昇させ、駐車ブレーキを解除し、移動走行モードにセットし、静かに前進ペダルを踏み込んで、安全な広い場所に移動してください。
2. このマシンは油圧トランスミッションを搭載しているだけでなく、他の多くのターフ管理機器とは異なる特性があります。実際に使用されるまえに十分に運転の練習をしてください。
3. まず、前進、後退、停止を練習します。走行ペダルから足を離せばペダルは自動的にニュートラル位置に戻って停止します。

   **注:** 下り坂を走行中に停止する場合は、必要に応じ駐車ブレーキスイッチを ON にするか、後退ペダルを利用してください。

4. 障害物の周囲をカッティングユニットを下げた状態、上げた状態のどちらでも上手に旋回できるように練習してください。狭い場所を通り抜ける時、マシンやカッティングユニットをぶつけて損傷しないよう十分注意してください。

## 走行ペダルについて




走行ペダル①は、マシンの前進速度と後進速度を制御し、ニュートラルに戻るとダイナミックブレーキが働きます。

- 前進でも後進でも、ペダルの深み込みを深くするほど走行速度が大きくなります。
- 移動走行中や刈り込み作業中にマシンをスムーズに停止するには、走行ペダルからスムーズに足を離してください。ペダルはニュートラルに戻りマシンは減速します。
- ペダルから完全に足を離せばダイナミックブレーキが最大となります。車両はダイナミックブレーキによって滑らかに停止します。

このトラクションシステムはコースのコンディションや乗車感覚に合わせて加速率を設定することができます。

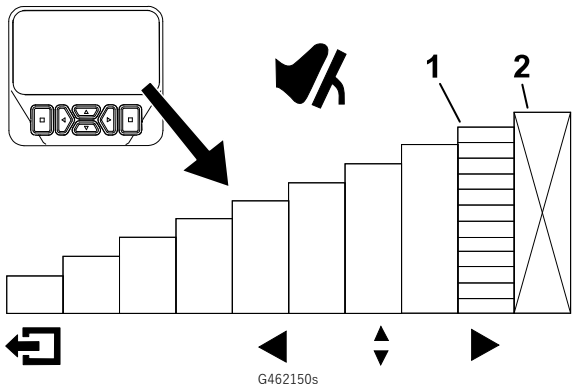
## 仮想ペダルストップ (VPS) 機能について

仮想ペダルストップ (VPS) 機能を使うと、責任者が設定した最大走行速度（パスワード保護されている最大速度）よりも低い最大走行速度を一時的に設定できる機能です。

一時的にマシンの最高速度を設定するには、走行ペダルを前方に一杯に踏み込みます。刈り込みレンジと移動走行レンジで速度を個別に設定できます。

- この機能にアクセスするには、メイン画面で上下のナビゲーション ボタンを押します。

  **注:** この機能は、キーが OFF になると解除されて、元の最大速度設定に戻ります。




① 最大走行速度（ペダルストップ）　② PINで保護された設定

- この機能を使うと、自分で使いやすいレベルに速度を設定したり、作業用途に合わせた速度に設定するなどができます。

# 仮想ペダルストップ (VPS) 機能について （続き）

- 責任者による設定でも仮想ペダルストップによる設定でも、新しい最大走行速度が設定されると、走行ペダルを一杯まで踏み込んだ時にその最大速度での走行となるように、ペダルストロークが自動的に再プログラムされます。この機能を利用すると、より高精度に低速をコントロールすることができます。

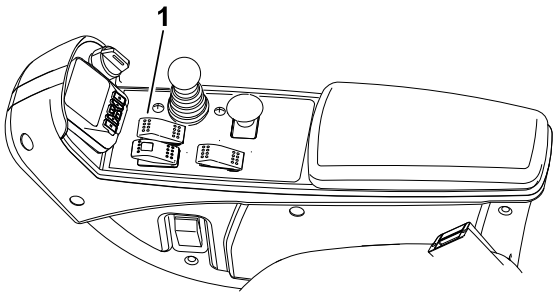
## 仮想ペダルストップ (VPS) の使用例

- フェアウェイの外周刈りの時の最高速度を一時的に低く設定する。
- 整備工場の内部やその周辺での運転する時に、最高速度を一時的に低く設定する。
- マシンをトレーラーに積み込む時に、最高速度を一時的に低く設定する。

# CRUISE CONTROL（クルーズコントロール）

## クルーズコントロールの操作

クルーズコントロールスイッチ①は、希望の走行速度を維持します。スイッチ後部を押すとクルーズコントロール機能が解除され、スイッチ中央部を押すとクルーズコントロールスイッチが ON になり、スイッチ前部を押すと希望する走行速度を設定できます。



G461475

クルーズコントロールスイッチを有効にして速度を設定した後、インフォセンターを使ってクルーズ コントロールの速度設定を調整します。

クルーズコントロールを解除するには：

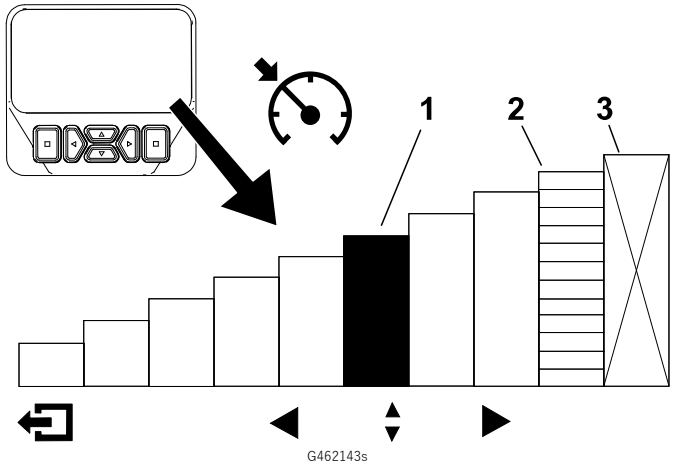
- 移動走行モードのときは、走行ペダルを後退側に踏むか、駐車ブレーキをかけるか、またはクルーズコントロールスイッチを OFF にすると解除される。
- 刈り込みモードのときは、後進走行ペダルを踏むか、駐車ブレーキをかけるか、PTOを解除するか、またはクルーズコントロールスイッチをOFFの位置にすれば解除される。

  **注:** クルーズコントロールを解除すると、マシンは自動的に停止します。クルーズコントロールを解除して運転を続けたい場合は、走行ペダルを踏んでからクルーズ コントロールを解除すると、スムーズに移行できます。

## クルーズコントロールの速度調整

1. コンソールのクルーズコントロールスイッチを有効にする。
2. インフォセンターディスプレイを使って、クルーズコントロールの速度設定を調整する。

# CRUISE CONTROL（クルーズコントロール）（続き）




① クルーズコントロールの速度表示　② 最大走行速度の速度設定　③ PINで保護された設定

## クルーズコントロール使用のヒント

- 障害物の少ない距離の長いルートで使いましょう。
- アンジュレーションの大きな場所では、インフォセンターで速度を制御しましょう。
- 旋回時に、クルーズコントロールを以下のように使いましょう：
  1. 刈り込み時、列の終わりで安全かつ快適に旋回できる速度にクルーズ設定しておく。
  2. 走行ペダルを使って好みの速度で刈り込みを行う。
  3. 旋回のタイミングがきたらペダルから足を離す。
  4. マシンは低速のクルーズ設定に従って走行速度を落とすので、ゆっくり旋回できる。
  5. 旋回が終了したら、再びペダル操作に戻り、速度を上げて刈り込みを続ける。

# アクセルモードについて

この機能は、走行ペダルがニュートラル位置にないときに、マシンが加速および減速する速さを設定するものです。

**注:** 走行中に走行ペダルから足を放しすとペダルはニュートラル位置に戻って、ブレーキが作動します。ブレーキの作動速度は常に同じであり、加速モード機能によって変更することはできません。

インフォセンターディスプレイで保護されたメニューに入り、加速モードを変更します。加速モードには3つの選択肢があります：

- 低 - 加速と減速が最も緩やか
- 中 (デフォルト) - 中程度の加速と減速
- 高 - 加速と減速が最も激しい

# ウォームアップモードについて

寒い時期にマシンを始動したとき、ウォームアップモードにしておくと、エンジン始動直後の短時間はエンジンの回転数を低く抑えて、冷たいオイルによる弊害（エンジン内部の傷の発生など）を防ぐことができます。

ウォームアップモードが有効になっている時は、雪の結晶のアイコンが表示されます。ウォームアップ期間が終わるまではマシンを操作しないでください。

# Toroスマートパワーの概要™

スマートパワー（Smart Power™）機能を使うと、大きな負荷がかかった場合でもエンジンが停止してしまうことがありません。スマートパワーは、負荷の大きな刈り込み時に、刈り込み速度を自動的に調整して刈り上がりを最適化するとともにエンジンの立ち往生を防止します。

**注:** 出荷時にはスマートパワー機能が ON に設定してあります。

# エンジンの始動手順

**重要**

**初めてエンジンを始動する場合、燃料不足によりエンジンが停止した場合、または燃料システムのメンテナンスを行った後は、エンジンを始動する前に燃料システムのエア抜きを実施する必要があります。 燃料システムのエア抜きを参照してください。**

1. 運転席に座り、走行ペダルから足を離してニュートラルにし、駐車ブレーキをかけ、PTOスイッチが OFF であることを確認する。
2. キーを ON/Preheat 位置に回す。

   自動タイマーが作動して、約6秒間の予熱が行われる。
3. グローランプが消えたら、キーをSTART位置に回す。

   **注:** スタータモータは15秒間以上連続で作動させないようにすること。エンジンが始動したら、キーから手を離す。予熱が不足している場合には、キーを一旦 OFF 位置に戻し、もう一度 On/Preheat 位置に回す。必要に応じてこの操作を繰り返す。
4. エンジンが温まるまで、低速で暖機運転する。

# エンジンの停止手順

1. すべてのコントロールをニュートラルに戻し、車ブレーキを掛け、エンジン速度スイッチを低速にセットしてエンジンの回転数が下がるのを待ちます。

# エンジンの停止手順 （続き）

**重要**

**高負荷で運転した後は、エンジンを停止させる前に5 分間程度のアイドリング時間をとってください。これを怠るとエンジンに問題が発生する可能性があります。**

2. キーを OFF 位置に回してキーを抜き取る。

# ターフ補正スプリングを調整する

ターフ補正スプリングは、カッティングユニットの前ローラから後ローラへの「体重移動」を行う働きがあります。これにより、マーセリングやボビングと呼ばれる「波打ったような」仕上がりを防いでいます。

**重要**

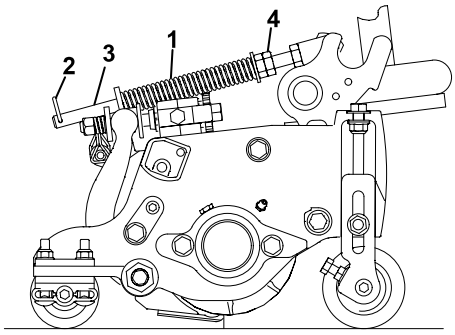
**この調整は、カッティングユニットをトラクタに取り付け、ユニットを真っ直ぐ前に向けて地面に降ろした状態で行ってください。**

1. ヘアピン②がスプリングロッド③の後部の穴に取り付けられていることを確認する。

   **注:** カッティングユニットを点検するときは、ヘアピンを芝補正スプリング①の横のスプリングロッドの穴に移動します。

2. スプリングの圧縮長が 15.9 cmになるまで、スプリングロッドの前端にある六角ナットを締める (④)。

   **注:** アップダウンの激しい場所で使用する時には、スプリングの長さを 13 mmに調整してください。地表追従性が若干下がります。



G402845

**注:** 刈高や刈り込みの強さを変更した場合には、ターフ補正スプリングの設定の確認、調整が必要になります。

# 昇降アームのカウンタバランスを調整する

後カッティングユニット

**⚠ 注意 ⚠**

**スプリングには張力がかかっており、調整する場合に軽度または中度の人身傷害を引き起こす可能性がある。**

**スプリングを調整する時には十分注意すること。**

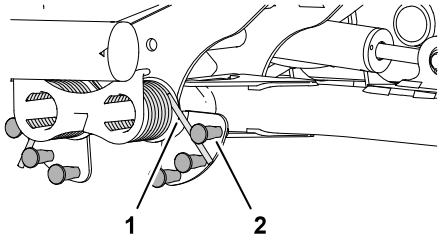
リアカッティングユニットに加えられるカウンターバランス力の量を調整して、さまざまな芝の状態を補正し、荒れた状態や枯草が蓄積した領域で均一な刈り高さを維持する。

各トーションスプリングのカウンターバランス力を4つの設定のうちの1つに調整する。位置を１つずらすごとに、カッティングユニットに掛かる押圧が 2.3kg 増加または減少します。カウンタバランスをゼロにしたい場合には、スプリングを第1スプリングアクチュエータの裏側（第4番目の位置）にセットしてください。

**注:** カウンタバランスの押圧をゼロにする場合は、トーションスプリングの長い脚をショルダ付きスタッドの上にセットします。

# 昇降アームのカウンタバランスを調整する （続き）

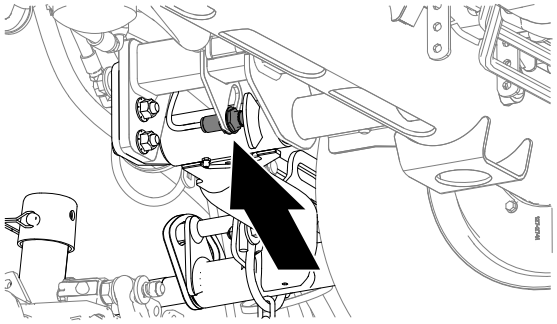
1. 平らな場所に駐車し、カッティングユニットを下降させ、エンジンを停止させ、駐車ブレーキを掛けてキーを抜き取る。
2. カウンタバランススプリングの長い方の端部①にパイプなどを被せ、テコの原理を利用して、スプリングを希望位置にあるショルダ付きスタッド②上にセットする。
3. 他のカウンターバランススプリングでも手順2を繰り返す。



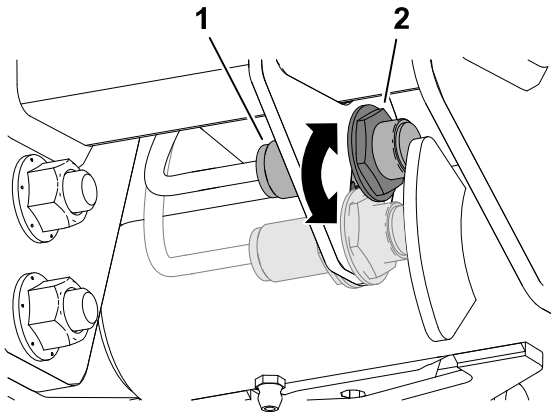
G402848

# 昇降アームの旋回位置を調整する

1. 平らな場所に駐車し、カッティングユニットを下降させ、エンジンを停止させ、駐車ブレーキを掛けてキーを抜き取る。
2. 昇降アームスイッチは油圧タンクの下、カッティングユニット#5リフトアームの内側にある。


G439043

3. 昇降アームスイッチ①をスイッチプレート②に固定しているジャムナットを緩める。
4. 以下の手順で昇降アームスイッチを調整する：
   - 昇降アームの旋回高さを高くしたい場合にはスイッチの位置を下げる。
   - 昇降アームの旋回高さを低くしたい場合にはスイッチの位置を上げる。



G439054

**重要**

**スイッチとリフトアームトリガーとの間に1.0–2.5 mm のエアギャップを維持してください。スイッチのLEDライトが点灯していれば、スイッチは適切に機能しています。**

# 昇降アームの旋回位置を調整する （続き）



5. ジャム ナットを**20 N·m +/- 2 N·m (2.2 +/- 0.2 kgm)** のトルクで締め付ける。

**重要**

**ジャムナットを締めすぎないでください。センサーが損傷する可能性があります。**

# リール速度の調整

クリップコントロール機能が ON で、マシンがクリップチャートの空白セルに対応する設定で動作している場合、クリップコントロールはリール速度9で運転しています。

クリップ コントロール機能が監督者によってオフにされている場合、前部と後部のリール速度をカスタマイズできる。クリップ チャートに掲載されている数値はあくまでも推奨速度です。空欄や、表に記載されていない構成は、そのような設定や組み合わせ（リール径、刃数、刈高、走行速度の組み合わせ）が推奨されないことを示しています。そのような設定で刈り込みを行うと、きれいに刈れません。

**重要**

**刈り込みは適切なリール速度で行うことが重要です。**

- **リール速度が遅すぎると、クリップマーク、マーセリング、ボビングなど呼ばれる、波状の刈り上がりになる可能性があります。その場合は、リール速度を上げるか、刈り込み速度を下げてみてください。**
- **リール速度が速すぎる場合には、ターフの損傷、リールやベッドナイフ、その他の機械部品の早期摩耗などの可能性があります。**

フロントおよびリアのリール速度の設定を参照してください。

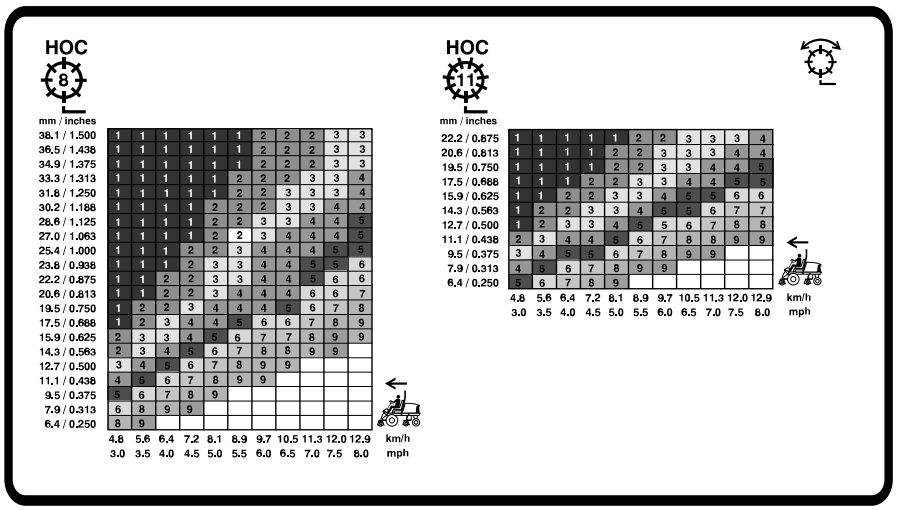
リール速度を手動で調整するには、以下を実施してください：

1. クリップコントロール機能がOFFになっていることを確認する。
2. **マシン設定**で、ブレード数、刈り取り速度、および刈高を入力して、適切なリール速度を計算する。
3. さらに調整が必要な場合は、 **マシン設定**で、**フロントリール速度**、**リアリール速度**、またはその両方まで下にスクロールする。
4. 右側ナビゲーションボタンを押して、リール回転数の値を変更する。設定の変更をしているとき、ディスプレイには、以前の刃数、刈り込み速度および刈高に基づいて計算されたリール速度が表示されているが、新しく入力した値も表示される。

   **注:** リール速度の設定は、ターフの実情に合わせて増減するようにしてください。

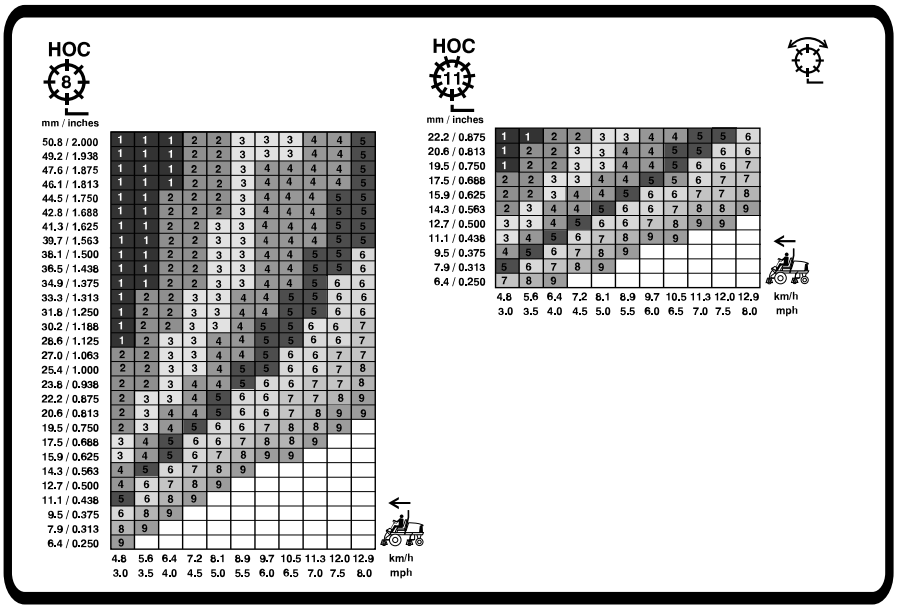
# リール速度の調整 （続き）

## 127mmリールスピードチャート



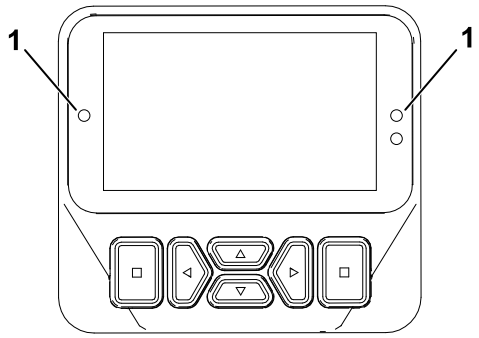

G439055

## 178 mmリールスピードチャート




G439056

# インジケーターランプの概要




G461477

1 インジケータランプ

- 赤の点滅 - アクティブな故障
- 赤の点灯 - アクティブな勧告
- 青の点灯 - キャリブレーション/ダイアログ メッセージ
- 緑色の点灯 - 通常動作

# 刈り込み

1. 駐車ブレーキを解除し、PTOを解除し、カッティングユニットを上昇させる。
2. マシンを刈り込み現場まで運転する。
3. フェアウェイの手前、約6 m の所で、刈り込み方向に向けて停車する。
4. 昇降コントロールレバーでカッティングユニットを一番下まで降ろす。
5. PTOを入れる。

   **注:** カッティングユニットは作動しません。

   **注:** PTO が ON の状態でカッティングユニットを下降させると、エンジン速度が自動的にハイアイドルになります。
6. 昇降コントロールレバーを後方に軽く操作すると、カッティングユニットが旋回位置まで上昇する。

   **注:** 昇降コントロールレバーを保持せずに軽くたたくように操作すると、カッティングユニットが旋回位置まで上昇して回転を停止します。
7. 走行ペダルを使って、ゆっくりと刈り込みエリアに近づく。
8. 刈り始め位置に到達したら、昇降コントロールレバーでカッティングユニットを下げる。

   **注:** カッティングユニットを降下させるタイミングを十分に練習してください。
9. 列の終りに向かって刈り込みを続ける。
10. 列の終わり（フェアウェイの反対側）に近づいたら刈り込みエリアの終端に到達する前に、昇降コントロールレバーを後方に軽く操作してカッティング ユニットを旋回位置まで上昇させる。
11. 雨だれ形に旋回して次の列に入る準備を行う。

# 刈り込み （続き）

12. 昇降コントロールレバーを押すと、カッティングユニットが旋回位置から下降するので、刈り込みを続ける。
13. エリア内部の刈り込みが終わったら、その外周に沿って外周刈りを行う。外周刈りにより、カッティングユニットの昇降動作に使われていたターフ部分が、フェアウェイの外周に沿って均一に刈リ込まれる。

    **注:** 外周刈りをする時は、仮想ペダル ストップ (VPS) を使って、最大速度を一時的に低く設定すると運転操作が楽になります。を参照。

# 運転のヒント

## 警報システムの概要

作業中に警告灯が点灯したら、直ちに機械を停止し原因を確認してください。異常を放置したまま作業を続けると本機に重大な損傷を招く可能性があります。

## 刈り込みパターンについて

ウォッシュボード（洗濯板状の仕上がり）を防ぐ最も効果的な方法です。

同じ方向からの刈り込みを続けていると芝草が寝てしまい、刈ったあとの見映えが悪くなります。刈り込みの方向はできるだけ毎回変えるようにしましょう。

## 適切な刈り込みテクニック

- 真っ直ぐに刈りたい（きれいなストライプを作りたいときなど）場合は、樹木などを目印にして走行してください。
- リールとベッドナイフの切れ味を維持しましょう。
- リールとベッドナイフの間の適切な隙間を維持しましょう。軽い接触で使いましょう。
- 1/3ルールを守りましょう (一度に草葉の1/3だけをカットする)。
- 希望のクリップ長になるように、リール速度と走行速度を設定しましょう。
- ぬれたターフでは、カッティングユニットの後部シールドを開けて刈り込みましょう。

## スカルピング、サークルカッティング、バーチカッティング

- **スカルピング/サークルカッティング**
  - スカルピングやサークルカットは負荷の大きな作業です。専用のリールを用意してください。
  - 1/3ルールにを守りましょう (一度に草葉の1/3だけをカットする)。
- **バーチカッティング**
  - バーチカッターの刃の深さは 3 mm 以下に設定してください。
  - カッティングユニットの刃先が鋭利であること、正しく調整されていること、刃が曲がっていないことを確認してください。刃先が鈍かったり曲がったりしている刃では、より多くの力が必要となります。

- ブレードを増やしてブレード間隔を狭くすると、より多くの力が必要となります。

- **スカルピング、サークルカッティング、バーチカッティングのベストプラクティス**
  - カッティングユニットの後部シールドを開ける。
  - 推奨される最大作業速度は6 km/h。
  - リール速度を6に設定する。

    **注:** リール速度の設定をこれ以上高くすると、トルクが下がってしまいます。スカルピングの場合は、リール速度設定を低くした方が、パフォーマンスと効率が向上します。
  - エコノミーモードは使用しない。
  - インフォセンターディスプレイで、エンジンと発電機の温度の両方を監視する。
  - 後部ラジエータースクリーンと、ラジエーター上部のエアクリーナーとジェネレーターの吸気スクリーンに刈りかすが溜まっていないか、頻繁にチェックする。
  - 発電機とリールモーターが温度限界に近づくと、スマートパワーが最大芝刈り速度を段階的に制限し、各部の過熱を防いで作業能率を最大化する。
  - エンジン、発電機、またはリールモーターが過熱した場合は、風が通る日陰にマシンを駐車して各部が冷えるのを待つ。

## 刈り込み終了後の整備

刈り込み後に次の手順を実行します。

1. 過剰な水圧によるシールやベアリングの汚染や損傷を避けるため、ノズルのないガーデンホースを使ってマシンを丁寧に洗います。
2. ラジエーターとオイルクーラーに汚れや刈りかすが残らないように清掃してください。
3. オイル漏れがないか、各部に損傷や磨耗していないかマシンを点検し、カッティングユニットの刃の切れ味をチェックしてください。

## 移動走行を行うとき

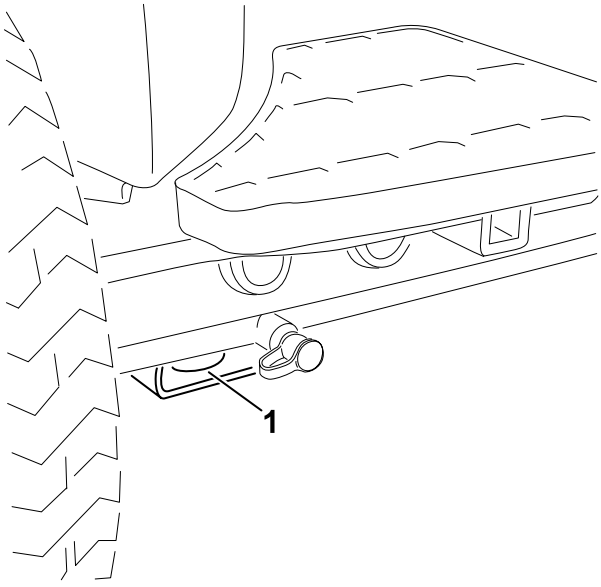
PTOを解除し、カッティング ユニットを移動走行位置まで上げる。狭い場所を通り抜ける時、カッティングユニットをぶつけて損傷しないよう十分注意してください。斜面の通行には最大の注意を払ってください。また、転倒事故を防止するために、速度の出しすぎや急旋回に十分注意してください。下り坂ではハンドリングを安定させるためにカッティングユニットを下降させてください。

# 操作後

# ロープ掛けポイントの位置

- **マシンの前部** - 各フロントタイヤの内側、アクスルチューブの下にある長方形のパッドの穴。

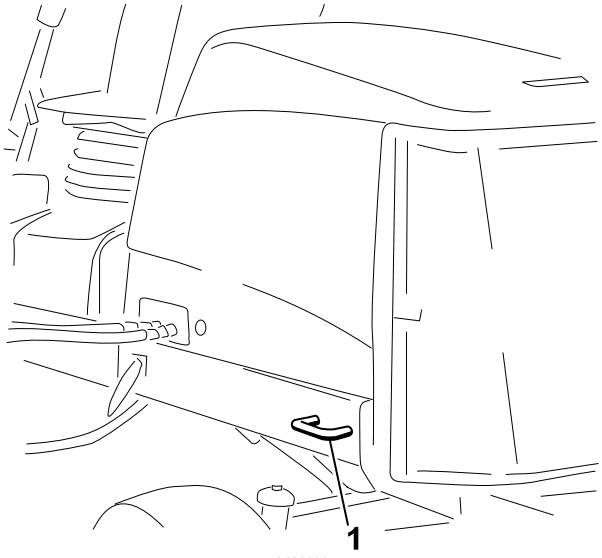
# ロープ掛けポイントの位置 （続き）




G439095

1 車両前部のロープ掛けポイント

- **マシンの後部** - 後部フレーム上のマシンの各側面。




G439096

1 機体後部のロープ掛けポイント

# トレーラへの積み込み

マシンを運ぶときは、以下をお守りください。

- 機械をトレーラやトラックに積み込む際には、機体と同じ幅のある歩み板を使用してください。
- 車体が落下しないように確実に固定してください。

# 緊急時の牽引移動

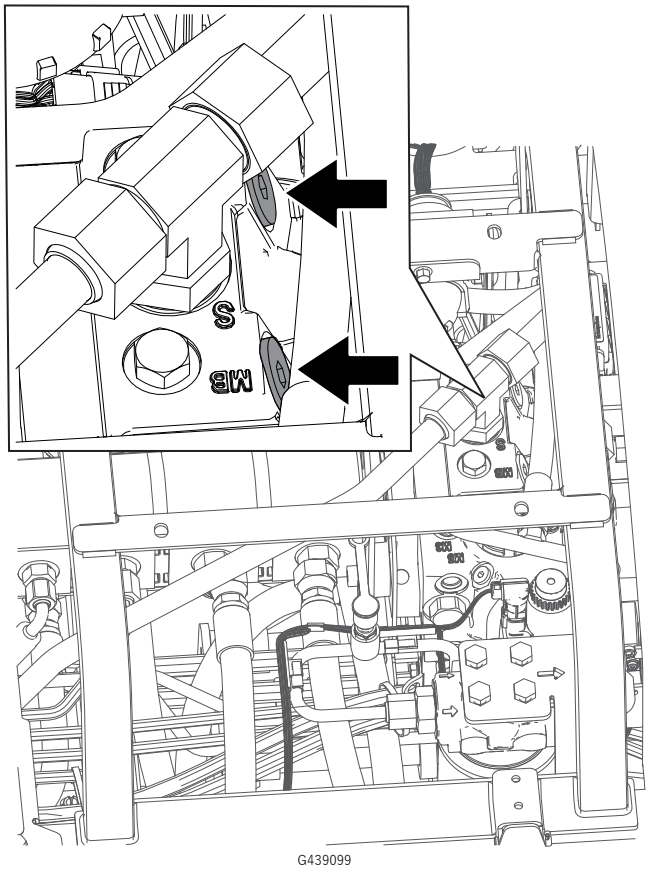
緊急時には、油圧ポンプについているバイパスバルブを開いて本機を前進方向に牽引または押して移動することができます。

**重要**

**牽引または押して移動する時の速度は、3-4.8 km/h 未満としてください。これ以上の速度ではトランスミッションを破損する恐れがあります。**

**マシンを押したり牽引したりするときは必ずバイパスバルブを開いてブレーキを解除する必要があります。**

1. シートベースのラッチを外し、運転席を倒す。
2. シートの下とハイドロスタットの上部にあるバイパスバルブを見つける。



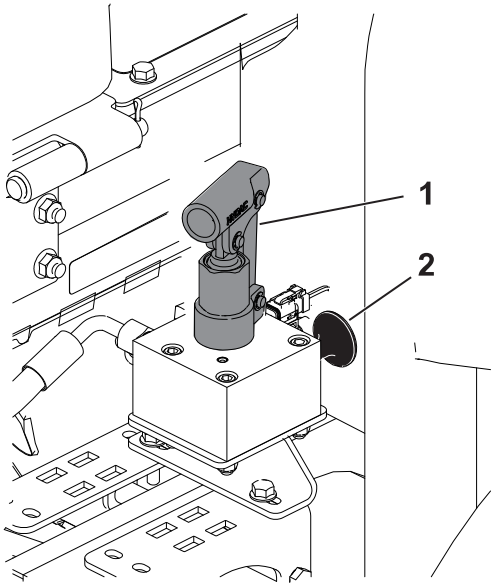
G439099

3. 各バルブを 3 回転ゆるめると内部でバイパスが形成される。

   **注:** これにより、トランスミッションを破損することなく機械を押して移動できるようになる。
4. 右前タイヤの近くで、油圧タンクの後ろにあるブレーキリリースマニホールドを見つける。

# 緊急時の牽引移動 （続き）

5. チューブまたは同様の物体を挿入し、マニホールド上の黒いノブ②を押し込み、マニホールドを3回ポンプ①する。ポンピング時に大きな抵抗があるとすぐにブレーキが解除される。



G439110

## 重要

**ポンプ動作が重くなったら、ポンプ動作をやめてください。ポンピングしすぎると損傷が発生する可能性があります。**

**注:** マニホルド内の圧力が高まると、ブレーキが解除され、この状態が約60分間継続します。60分後、さらに必要であれば再度ポンプ操作を行ってブレーキを解除してください。

6. 牽引移動を行う。
7. 黒いノブを引き出すか、エンジンを始動するかするとブレーキが回復する。

   **注:** エンジンを始動するとブレーキは自動的に解除されます。

8. バイパスバルブを閉じる。バルブを**11 N·m (1.12 kgm)** のトルクで締める。

## 重要

**マシンの運転を開始する前に、バイパスバルブが閉じていることを確認してください。バイパスバルブを開いたままでエンジンを回転させるとトランスミッションがオーバーヒートします。**

**注:** 前後左右は運転位置からみた方向です。

**注:** www.Toro.com から、この機械に関する配線図と油圧回路図をダウンロードすることができます。ホームページにあるマニュアルへのリンクをクリックしてください。

**重要**

**エンジンの整備についての詳細はエンジンマニュアルを、カッティングユニットの整備にはカッティングユニットマニュアルを参照してください。**

# 推奨定期整備一覧表

| 定期整備間隔 | 整備内容 | パーツ番号 | 数量 | 名称 |
|---|---|---|---|---|
| 最初の1 運転時間後 | ホイールラグナットを94-122 N·m (10.2 - 13.2kg・m)のトルクで締め付ける。 | - | - | - |
| | アクスルのハブナットを407-542 N·m ( 41.0 - 55.0kg・m )にトルク締めする。 | - | - | - |
| | CrossTrax®機能付きのマシンでは、リアアクスルのハブ ナットを366-447 N·m (37.0 - 45.0kg・m) にトルク締めする。 | - | - | - |
| 最初の 8 運転時間後 | オルタネーターベルトの状態と張りをチェックする。 | 104-3494 | 1 | オルタネータベルト |
| 最初の 10 運転時間後 | ホイールラグナットを94-122 N·m (10.2 - 13.2kg・m)のトルクで締め付ける。 | - | - | - |
| | アクスルのハブナットを407-542 N·m ( 41.0 - 55.0kg・m )にトルク締めする。 | - | - | - |
| | CrossTrax®機能付きのマシンでは、リアアクスルのハブ ナットを366-447 N·m (37.0 - 45.0kg・m) にトルク締めする。 | - | - | - |
| 最初の 50 運転時間後 | エンジンオイルとエンジンオイルフィルターを交換する | 127-0511 | 1 | エンジンオイルフィルタ |
| | | 121-6395 | 1 | 15W-40プレミアム エンジンオイル (18.9 L) |

| 定期<br>整備間隔 | 整備内容 | パーツ番号 | 数量 | 名称 |
|---|---|---|---|---|
| | | 121-6394 | 1 | 15W-40プレミアム エンジンオイル (20.8 L) |
| | エンジン速度 (アイドル状態およびフルスロットル) は、サービスマニュアルを参照 | - | - | - |
| 毎日または毎回の使用前 | インタロックスイッチをチェックする。 | - | - | - |
| | ROPS各部に磨耗や損傷がないか点検する。 | - | - | - |
| | エアフィルタをチェックする。 | 108-3810 | 1 | エアクリーナのフィルタ |
| | エンジンオイルレベルをチェックする。 | 121-6395 | 1 | 15W-40プレミアム エンジンオイル (18.9 L) |
| | | 121-6394 | 1 | 15W-40プレミアム エンジンオイル (20.8 L) |
| | 燃料/水分離器から水やその他の汚染物質を排出する。 | - | - | - |
| | 電気ケーブルを点検する。 | - | - | - |
| | タイヤ空気圧をチェックする。 | - | - | - |
| | 冷却液のレベルをチェックする。 | - | - | - |
| | 刈りかす、落ち葉、その他の異物など、たまっているごみを取り除く (汚れやすい場所で運転している時は清掃回数を増やす)。スクリーン、オイルクーラ、ラジエーターは特に入念に清掃する。 | - | - | - |
| | 作動油の液面レベルをチェックする。 | 133-8086 | 1 | PXロングライフ作動油 (18.9 L) |
| | | 133-8087 | 1 | PXロングライフ作動油 (20.8 L) |
| | 油圧ラインとホースを点検する。 | - | - | - |
| | リールとベッドナイフの接触をチェックする。 | - | - | - |
| | シートベルトを点検する。 | - | - | - |
| 50 時間ごと | ベアリングとブッシュにグリースを塗る（洗浄後はすぐに）。 | 108-1190 | 1 | プレミアム万能グリース (400 g) |
| | バッテリーを掃除し、状態を確認する (毎週、またはどちらか早い方)。 | - | - | - |
| | バッテリーケーブルの接続を確認する。 | - | - | - |

| 定期<br>整備間隔 | 整備内容 | パーツ番号 | 数量 | 名称 |
|---|---|---|---|---|
| 100 時間ごと | 冷却システムのホースを点検する。 | - | - | - |
| | オルタネーターベルトの状態と張りをチェックする。 | 104-3494 | 1 | オルタネータベルト |
| 150 時間ごと | エンジンオイルとエンジンオイルフィルタを交換する | 127-0511 | 1 | エンジンオイルフィルタ |
| | | 121-6395 | 1 | 15W-40プレミアム エンジンオイル (18.9 L) |
| | | 121-6394 | 1 | 15W-40プレミアム エンジンオイル (20.8 L) |
| 250 時間ごと | ホイールラグナットを94-122 N·m (10.2 - 13.2kg・m)のトルクで締め付ける。 | - | - | - |
| | アクスルのハブナットを407-542 N·m ( 41.0 - 55.0kg・m )にトルク締めする。 | - | - | - |
| | CrossTrax®機能付きのマシンでは、リアアクスルのハブ ナットを366-447 N·m (37.0 - 45.0kg・m) にトルク締めする。 | - | - | - |
| 400 時間ごと | エアクリーナの整備を行う (極度に汚れている、またはほこりの多い状況ではより頻繁に)。エアクリーナ整備インジケーターが赤色なった場合は、整備時期に関わらず、すぐに整備を行う。 | 108-3810 | 1 | エアクリーナのフィルタ |
| | 燃料/水分離フィルターの交換 | 110-9049 | 1 | 燃料システム水フィルタ |
| | エンジン燃料フィルタの交換。 | 98-7612 | 1 | インライン燃料フィルタ |
| | 燃料ラインと接続の点検 | - | - | - |
| | ブレードの停止時間をチェックする。 | - | - | - |
| | エンジン速度 (アイドル状態およびフルスロットル) は、*サービスマニュアル*を参照 | - | - | - |
| 800 時間ごと | 燃料システムが汚染されている場合は、 燃料タンク内部を清掃する。 | - | - | - |
| | 後輪のトーインをチェックする。 | - | - | - |
| | チャージフィルタを交換する (推奨作動油を使っていない場合や代替作動油を入れたことがある場合)。 | 75-1310 | 1 | 油圧フィルタ |

| 定期<br>整備間隔 | 整備内容 | パーツ番号 | 数量 | 名称 |
|---|---|---|---|---|
| | 油圧作動油を交換する(推奨作動油を使っていない場合や代替作動油を入れたことがある場合)。 | 133-8086 | 1 | PXロングライフ作動油 (18.9 L) |
| | | 133-8087 | 1 | PXロングライフ作動油 (20.8 L) |
| | 後輪のベアリングにグリスパックを行う（サービスマニュアルを参照）。 | 108-1190 | 1 | プレミアム万能グリース (400 g) |
| | エンジンバルブを調整する（エンジンサービスマニュアルを参照）。 | - | - | - |
| 1,000 時間ごと | チャージフィルタを交換する (推奨された作動油を使用している場合)。 | 75-1310 | 1 | 油圧フィルタ |
| 2,000 時間ごと | 作動油を交換する (推奨された作動油を使用している場合)。 | 133-8086 | 1 | PXロングライフ作動油 (18.9 L) |
| | | 133-8087 | 1 | PXロングライフ作動油 (20.8 L) |
| 長期格納の前 | 燃料タンクを空にして掃除する (マシンを長期間保管する場合)。 | - | - | - |
| 2 年ごと | 冷却システム内部清掃し冷却液を交換する (マシンを認定サービスディーラーまたは販売代理店に持ち込むか、サービスマニュアルを参照)。 | - | - | - |
| | 油圧ホースを交換する (マシンを認定サービスディーラーまたは販売代理店に持ち込むか、サービスマニュアルを参照)。 | - | - | - |
| | 冷却水ホースを交換する (マシンを認定サービスディーラーまたは販売代理店に持ち込むか、サービスマニュアルを参照)。 | - | - | - |

# 始業点検表

このページをコピーして使ってください。

| 点検項目 | 第週 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 |
| インタロックの動作を点検する。 | | | | | | | |
| ブレーキの動作を確認する。 | | | | | | | |
| エンジンオイルと燃料の量を点検する。 | | | | | | | |

| 点検項目 | 第週 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 |
| 冷却水の量を点検する。 | | | | | | | |
| 燃料・水セパレータの水抜きを行う。 | | | | | | | |
| エアフィルタの整備時期表示を確認する。 | | | | | | | |
| ラジエター、オイルクーラ、スクリーンの汚れ具合を点検する。 | | | | | | | |
| エンジンから異常音がないか点検する。[1] | | | | | | | |
| 運転操作時の異常音 | | | | | | | |
| 油圧オイルの量を点検する。 | | | | | | | |
| 油圧ホースの磨耗損傷を点検する。 | | | | | | | |
| 液体に漏れがないかチェックする。 | | | | | | | |
| タイヤ空気圧を点検する | | | | | | | |
| 計器類の動作 | | | | | | | |
| リールとベッドナイフの摺り合わせ | | | | | | | |
| 刈高の調整の点検。 | | | | | | | |
| グリスアップ。[2] | | | | | | | |
| 塗装傷のタッチアップ | | | | | | | |

1. 始動困難、大量の煙、咳き込むような走りなどが見られる場合はグロープラグと噴射ノズルを点検する。
2. 記載されている間隔に関係なく、毎回の清掃の直後

## 重要

**エンジンの整備に関しての詳細は、付属のエンジンマニュアルを参照のこと。**

## 要注意個所の記録

| 点検担当者名： | | |
|---|---|---|
| 内容 | 日付 | 記事 |
| 1 | | |
| 2 | | |
| 3 | | |
| 4 | | |
| 5 | | |

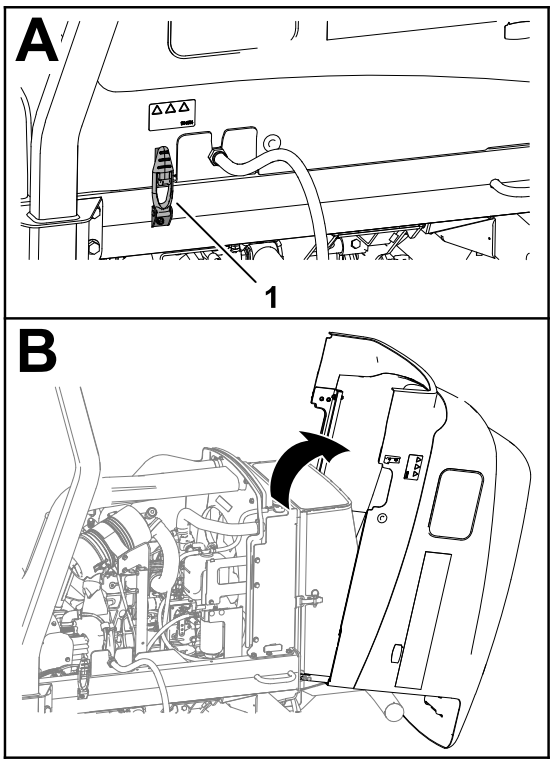
# メンテナンス前の手順

## 整備作業にかかる前に

1. 平らな場所に駐車し、駐車ブレーキを掛け、PTOを停止する。
2. 刈り込みコントロールレバーを刈り込み位置にする。
3. エンジンを切り、キーを抜き、すべての可動部品が停止したのを確認し、エンジンが冷えるのを待つ。

## フードを開ける

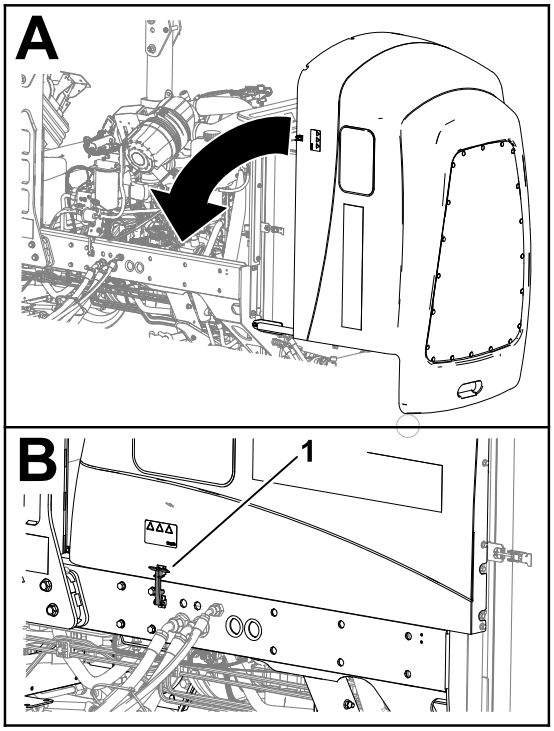
2つのフードラッチ①を解除し、フードを上方に開きます。



G437864

# フードを閉じる

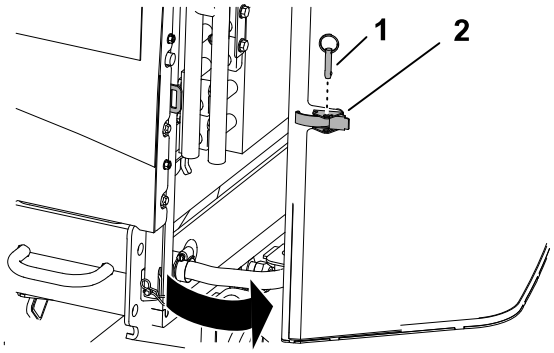
フードを慎重におろし、2つのフードラッチ①で固定する。




G424260

# スクリーンを開く

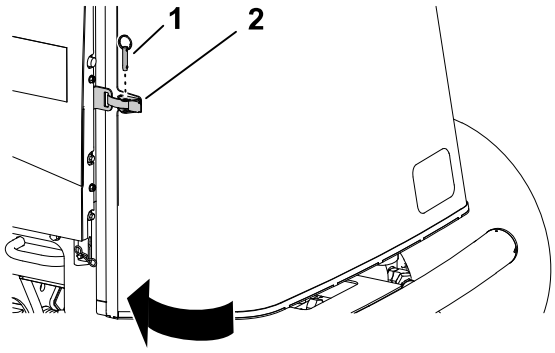
1. ボールピンを①スクリーンラッチ②から取り外す。
2. スクリーンのラッチを外してスクリーンを開く。




G437850

# スクリーンを閉じる

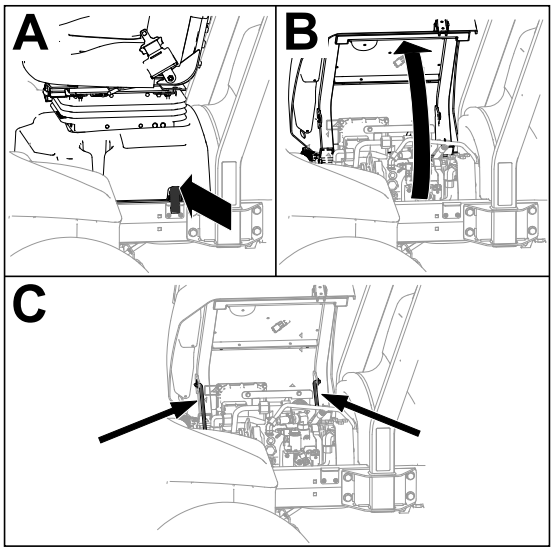
1. スクリーンを元に戻してラッチを掛ける。
2. ボールピンを①スクリーンラッチ②に挿入する。



G414734

# 座席を倒す

1. シートベースのラッチを外すⒶ。
2. シートとベースを傾けて開くⒷ。
3. ロッドで支えるⒸ。



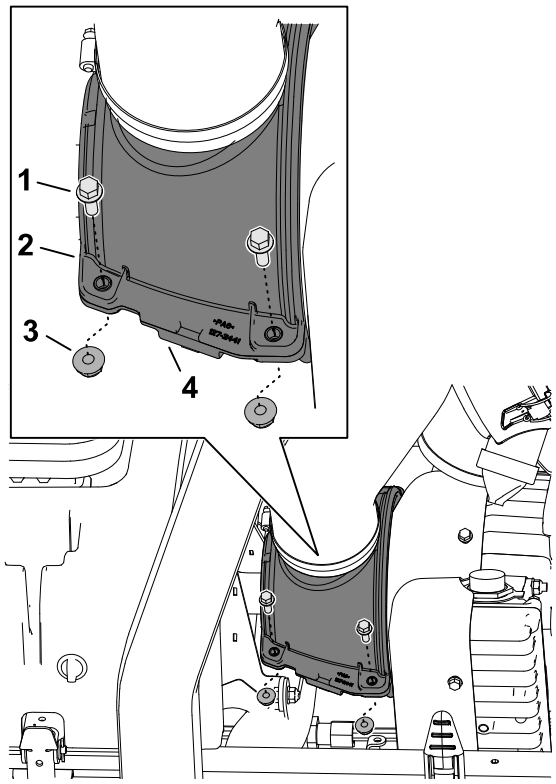
G443836

# 座席をもとに戻す。

1. 運転席を少し押し上げて、シートサポートスロットのくぼみからロッドを外す。
2. ラッチがかかるまで座席を静かにに降ろす。

# ジェネレータ冷却用エアシュラウドの取り外し

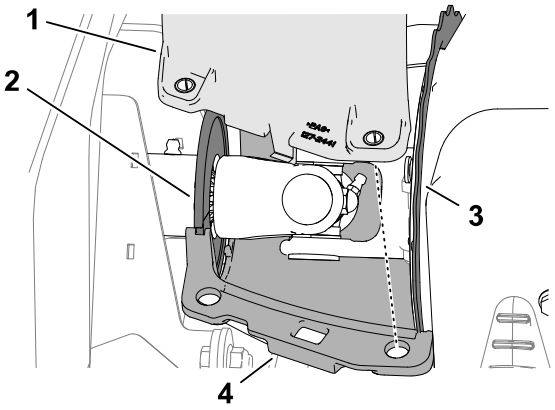
1. ボルト4本①とロックナット4個③（発電機の上部②および下部④の冷却空気シュラウドを固定しているもの）を取り外す。
2. シュラウドを分離し、上部シュラウドを持ち上げてドライブシャフトグリースフィッティングにアクセスする。



G414736

# ジェネレータ冷却用エアシュラウドの取り付け

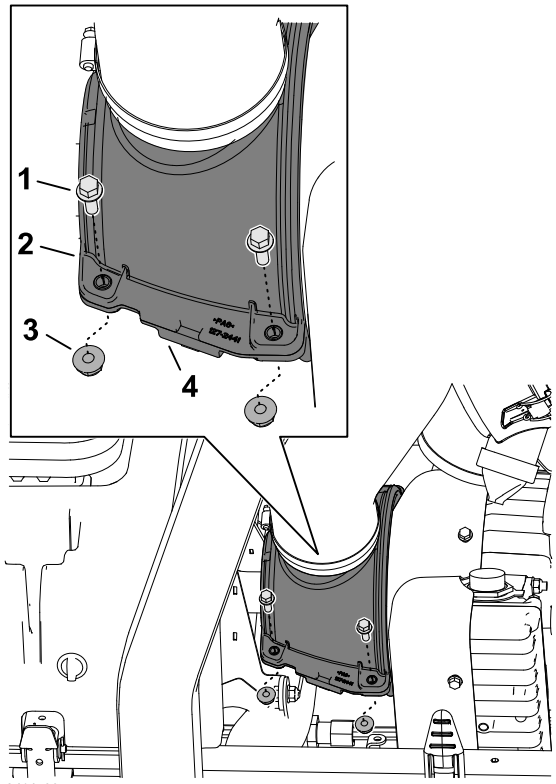
1. 上部①および下部④のジェネレータ冷却用エアシュラウドの溝を、ドライブシャフトブラシシール②およびジェネレータカバーのフランジ③と位置合わせする。



G414737

# ジェネレータ冷却用エアシュラウドの取り付け （続き）

2. 上部②および下部④のジェネレータ冷却用エアシュラウドの穴を圧縮制限ピンに合わせる。
3. ①③ジェネレータ冷却用エアシュラウドの半分と圧縮制限ピンをボルト4本とロックナッ 4個で固定する。



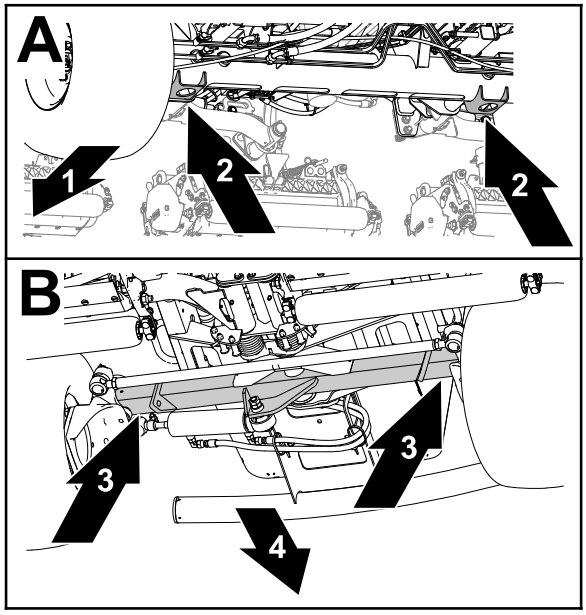

# ジャッキアップポイントの位置

**注:** 機体の下で作業する場合には、必ずジャッキスタンドで機体を確実に支える。

機体のロープ掛けポイントは以下の通りです：

- フロント - フロントアクスルチューブのジャッキブラケット。
- リア：後アクスルチューブ。

# ジャッキアップポイントの位置 （続き）




G437877

① 機体前方
② ジャッキブラケット（前アクスルチューブ）
③ 後アクスルチューブ
④ 機体後方

# 潤滑

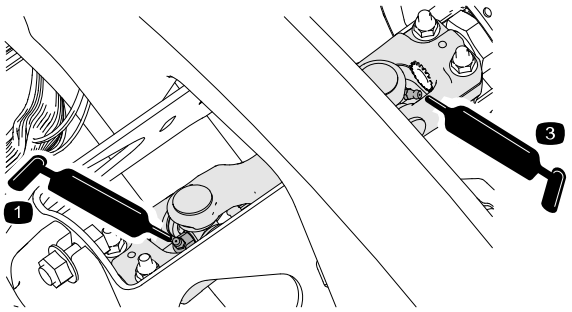
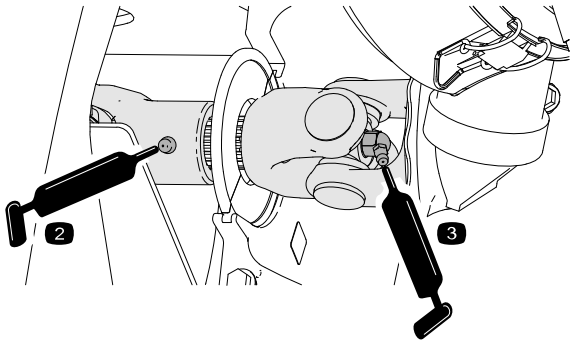
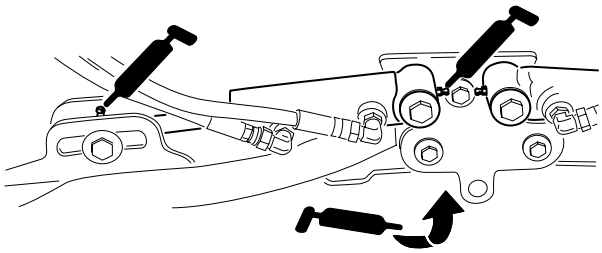
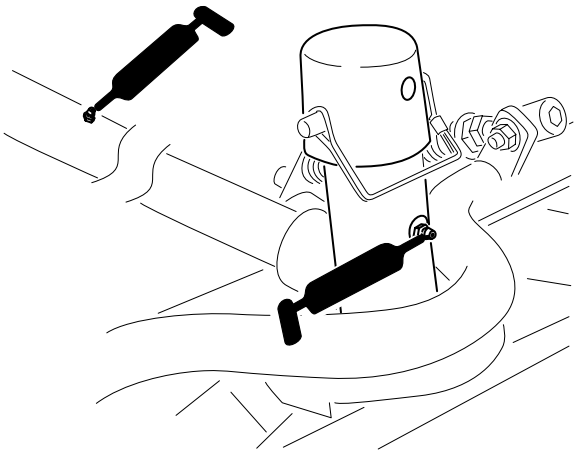
## ベアリングとブッシュのグリスアップ

このマシンには定期的なグリスアップの必要な箇所があります。ベアリングやブッシュの内部に異物が入ると急激に磨耗が進行します。車体を水洗いしたときは整備間隔に関係なく直ちにグリスアップしてください。

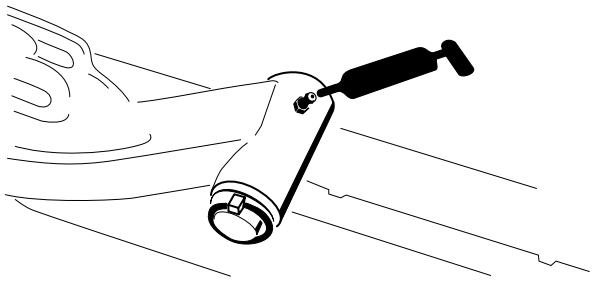
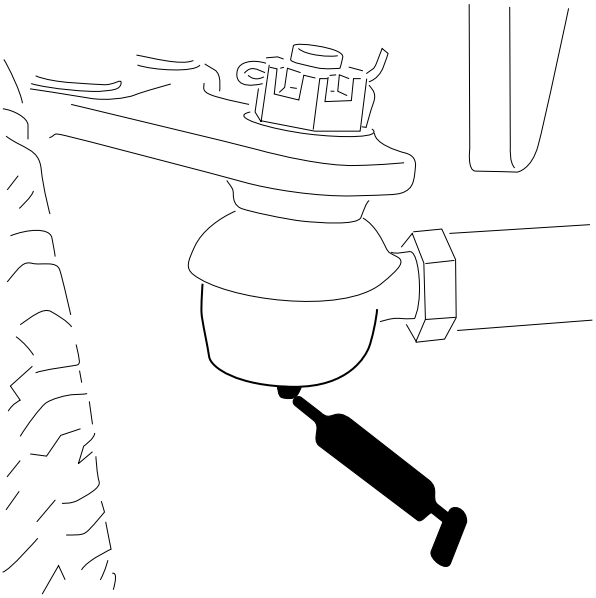
1. マシンのメンテナンスの準備をする。
2. ジェネレータ冷却用エアシュラウドを取り外す。
3. 全部のグリスフィッティングに、No.2リチウム系グリスを注入する。
4. ジェネレータ冷却用エアシュラウドを取り付ける。

# グリス注入位置

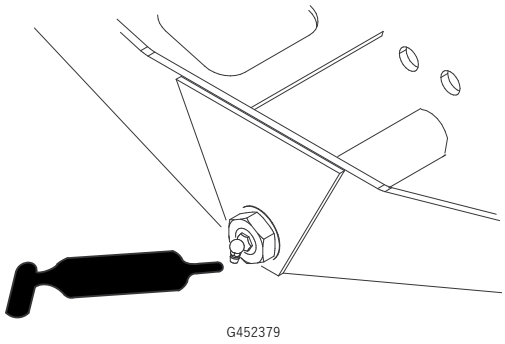
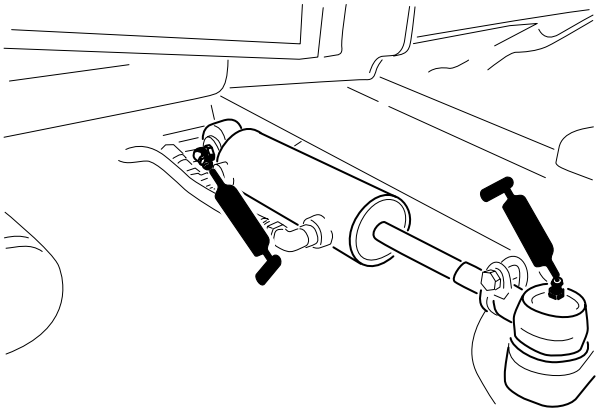
**グリスの仕様：**No.2リチウムグリス

| | |
|---|---|
| ポンプドライブシャフトのUジョイント (3)<br><br>**注:** ポンプの駆動シャフトへは機体の下からアクセスできます。 | <br>G452383<br><br>G452384 |
| カッティングユニットの昇降アームシリンダ（各2）<br><br>昇降アームのピボット部（各1） | <br>G452355 |
| カッティングユニットのキャリアフレームとピボット部（各2） | <br>G452356 |

# ベアリングとブッシュのグリスアップ（続き）

| | |
|---|---|
| 昇降アームのピボットシャフト（各1） | <br>G452357 |
| リアアクスルのタイロッド（2） | <br>G452368 |

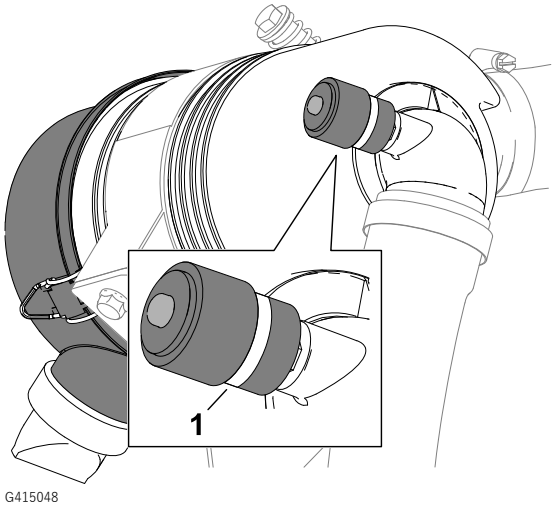
# ベアリングとブッシュのグリスアップ （続き）

| | |
|---|---|
| アクスルのステアリングピボット (1) |  |
| ステアリングシリンダのボールジョイント(2) |  |

# エンジンメンテナンス

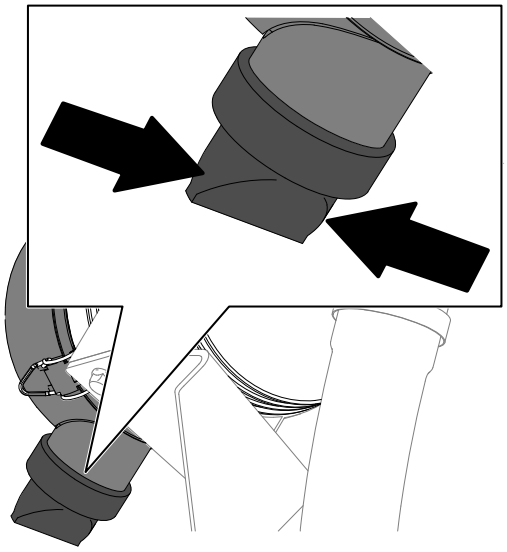
## エアクリーナを点検する

1. マシンのメンテナンスの準備をする。
2. フードを開ける。
3. エアフィルターハウジングの端にあるサービスインジケーター①をチェックする。



# エアクリーナを点検する （続き）

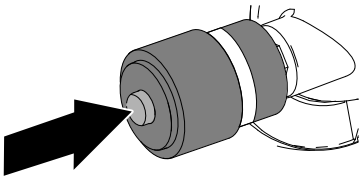
4. サービスインジケーターに赤い帯が表示されている場合は、エアフィルターを交換する。
5. ダストエジェクターバルブを絞る。
6. フード元に戻してラッチを掛ける。



G414762

# エアフィルタの整備時期インジケータのリセット

1. サービスインジケーターに赤い帯が表示されている場合は、インジケーターの端にあるリセットボタンを押す。
2. フード元に戻してラッチを掛ける。



G414765

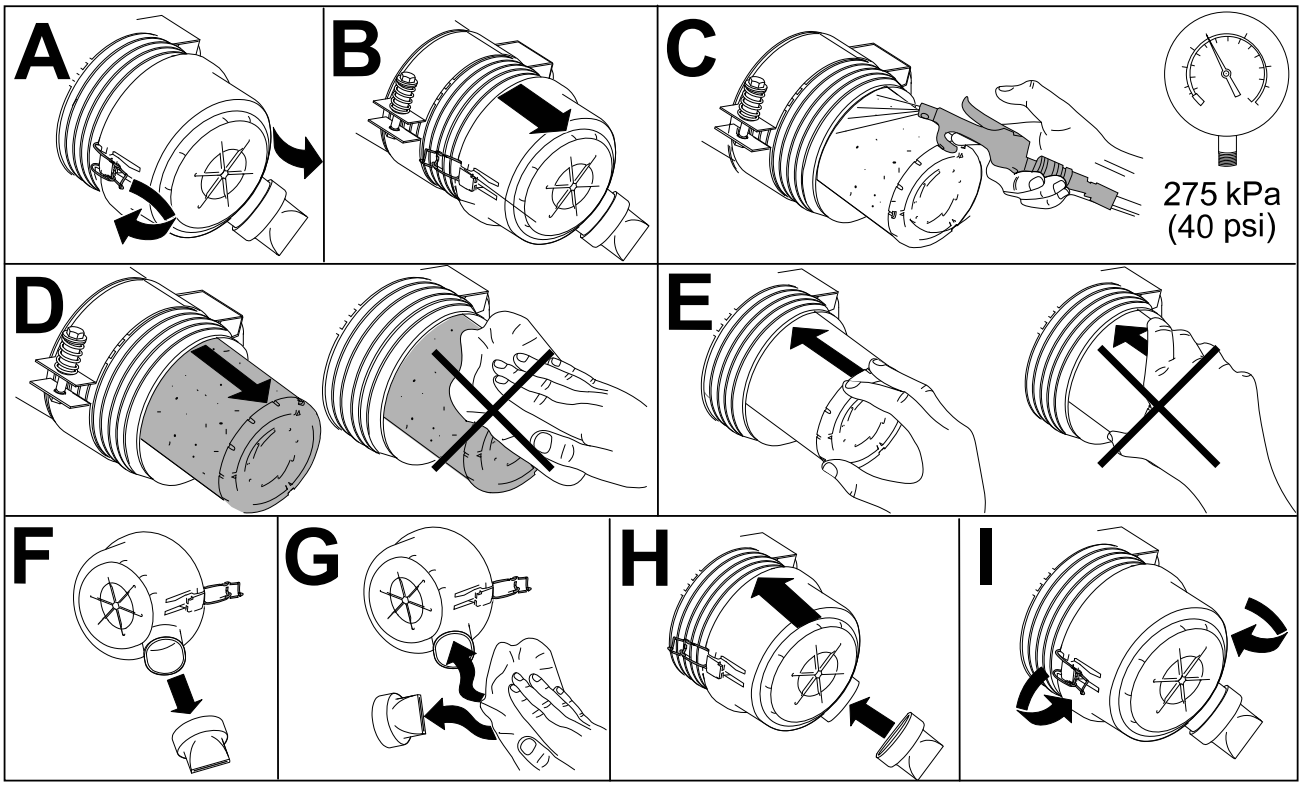
# エアクリーナの整備

- 吸気部全体について、リーク、破損、ホースのゆるみなどを点検してください。破損しているエアフィルタは使用しないでください。
- エアクリーナのフィルタの整備は、インジケータが赤色になってから行ってください。早めに整備を行っても意味がありません。むしろフィルタを外したときにエンジン内部に異物を入れてしまう危険が大きくなります。

**重要**

**アウトレットバルブが下向き（後ろから見たとき、時計の 5:00 と 7:00 の間になるように）カバーを取り付け、ボディと密着させてください。。**

# エアクリーナの整備 （続き）




G448875

# エンジンオイルの仕様

### オイルの種類

API 規格 CH-4 以上の高品質で灰分の少ないエンジンオイルを使用してください。

以下の粘度のエンジンオイルを使用してください：

- 推奨オイル: SAE 15W-40 [-17° C]
- 他に使用可能なオイル：SAE 10W-30 または 5W-30（全温度帯）

Toroプレミアムエンジンオイルは、正規Toro代理店から粘度グレードが15W-40または10W-30を入手できる。

### クランクケース容量

フィルターを含めると約 3.3 L

# エンジンオイルの量を点検する

**注:** エンジンが冷えているときにオイルを点検してください。エンジンが温まっている場合は、10分間待ってから確認してください。

# エンジンオイルの量を点検する （続き）

**重要**

**エンジンオイルの量は毎日点検してください。エンジンオイルレベルがレベルゲージのフルマークを超えている場合、エンジンオイルが燃料で希釈されている可能性があります。**

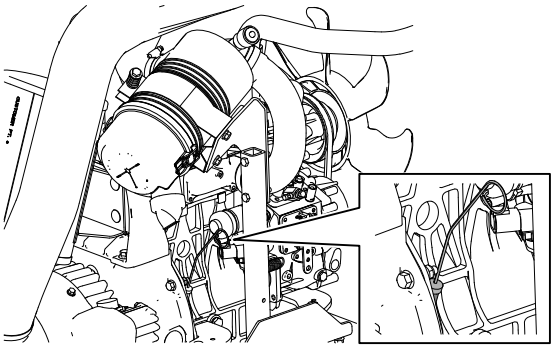
**油量がFULL マークより上にある場合は、エンジンオイルを交換してください。**

油量がディップスティックのADDマークにある場合は、FULLマークまで補給してください。**オイルを入れすぎないように注意してください。**

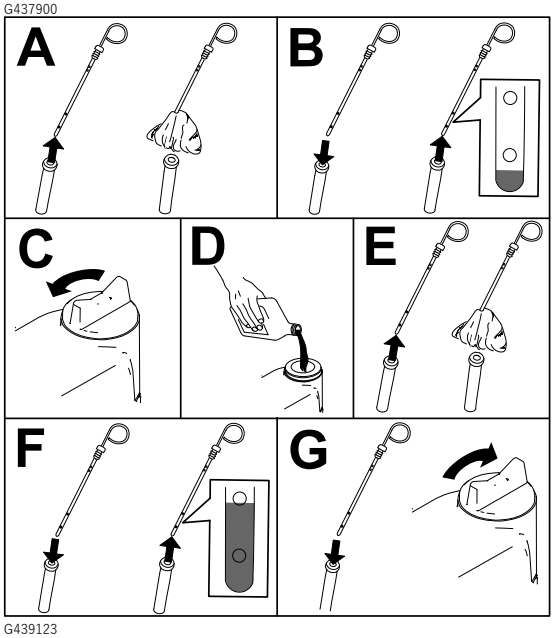
**重要**

**エンジンオイルの量が常時ゲージの上限と下限との間にあるよう、気をつけて管理してください。オイルの入れすぎもオイルの不足も、エンジンの不調や故障の原因となります。**

1. マシンのメンテナンスの準備をする。
2. フードを開ける。
3. エンジンオイルの量を点検する。
4. フード元に戻してラッチを掛ける。



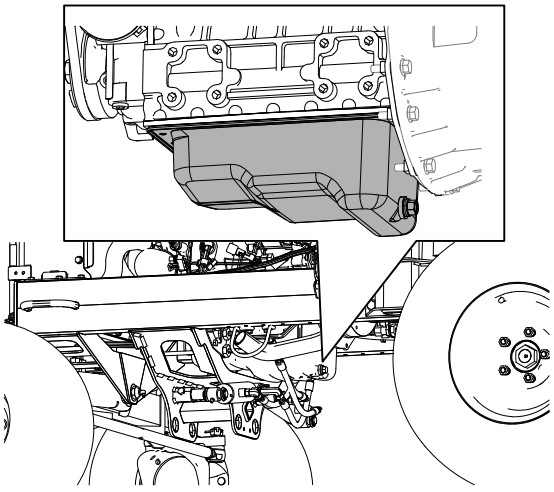
G437900



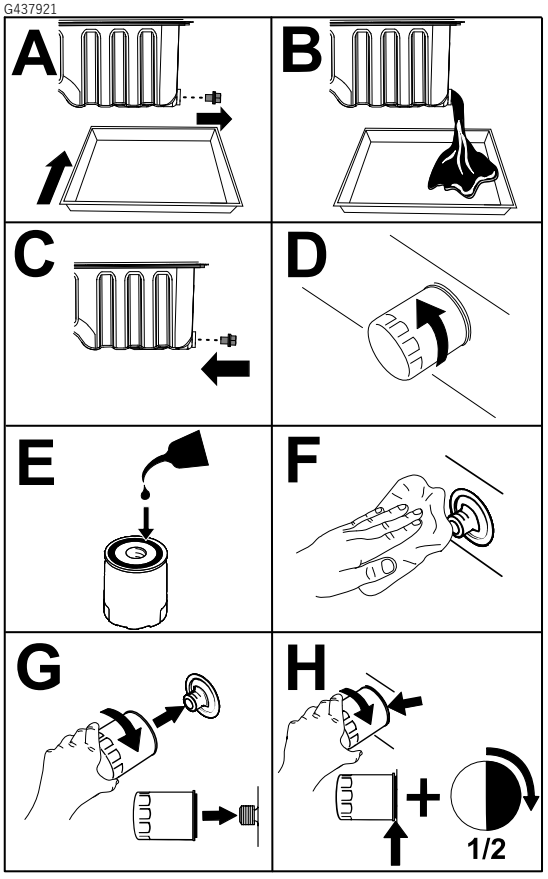

G439123

# エンジンオイルとフィルタの交換

1. マシンのメンテナンスの準備をする。
2. オイルを排出し、フィルタを交換する。



G437921




G437922

**重要**

**フィルタを締めつけすぎないように注意してください。**

3. フードを開ける。
4. クランクケースにオイルを入れる。

5. フード元に戻してラッチを掛ける。

# 燃料システムのメンテナンス

このオペレーターズマニュアルでは、燃料および燃料系統について、エンジンのオーナーズマニュアルよりも詳しく解説しています。

エンジントラブルを防止し、大掛かりな修理が必要となるような損傷を防止ためには、燃料システムのメンテナンス、燃料の保管、燃料の品質に注意を払う必要があります。

排ガス規制などの関係上、燃料計には非常に厳しい管理基準が要求されています。特に最近のディーゼルエンジンに使用されている高圧コモンレール（HPCR）燃料噴射システムでは、ディーゼル燃料の品質と清浄度が、製品寿命の延長のために重要になります。

**重要**

**燃料系統に水や空気が入ると、エンジンにダメージを与えます！新しい燃料だから大丈夫と思ってはいけません。燃料は信頼できる業者から購入し、適切な方法で保管し、購入後 180 日以内に使い切ることを徹底してください。**

**重要**

**燃料フィルタの交換、燃料システムのメンテナンス、燃料の保管を適切に行わないと、エンジンの燃料システムが早期に損傷する恐れがあります。所定時間ごとに定期的に、燃料系統のすべての項目について点検整備を実施してください。また、汚染された燃料や粗悪な燃料が混入したことに気付いた時は、直ちに整備を行ってください。**

## 燃料の保管

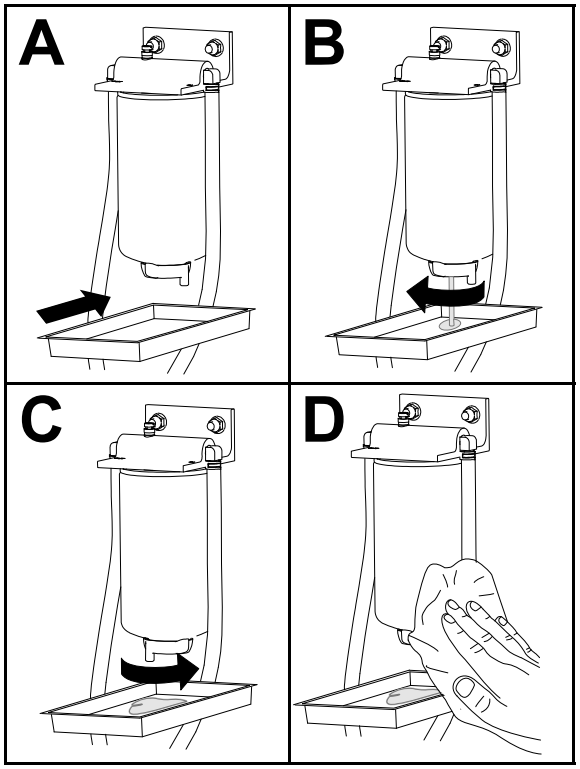
適切な燃料保管はエンジンのために重要です。中でも燃料貯蔵タンクの適切なメンテナンスは見過ごされがちで、燃料の汚染の原因となります。

- 燃料は 180 日以内に使い切れる量を購入してください。保存期間が 180 日を過ぎた燃料は使用しないでください。これは水の混入を防止するために特に重要です。
- 貯蔵タンクやマシンの燃料タンクにたまった水を取り除かないと、タンク自体や燃料系統の部品に錆や汚れが発生する原因となります。タンク内にカビ、バクテリアその他の菌類が侵入するとスラッジが発生し、燃料の流れを妨げ、フィルタや燃料噴射装置を詰まらせる原因となります。
- 燃料貯蔵タンクや機械の燃料タンクは定期的に点検し、タンク内の燃料の品質に問題がないか注意してください。
- 燃料は、信頼できる業者から購入するようにしましょう。
- 貯蔵タンクやマシンの燃料タンクから水や異物が見つかった場合は、燃料業者と協力して問題を解決し、マシンの燃料系統の整備を実施してください。
- ディーゼルエンジン用の燃料は、亜鉛メッキされた容器に保存しないでください。

# 燃料/水セパレータの整備

## 水セパレータからの水抜き

1. 以下に従って燃料/水セパレータから水を流し出す。



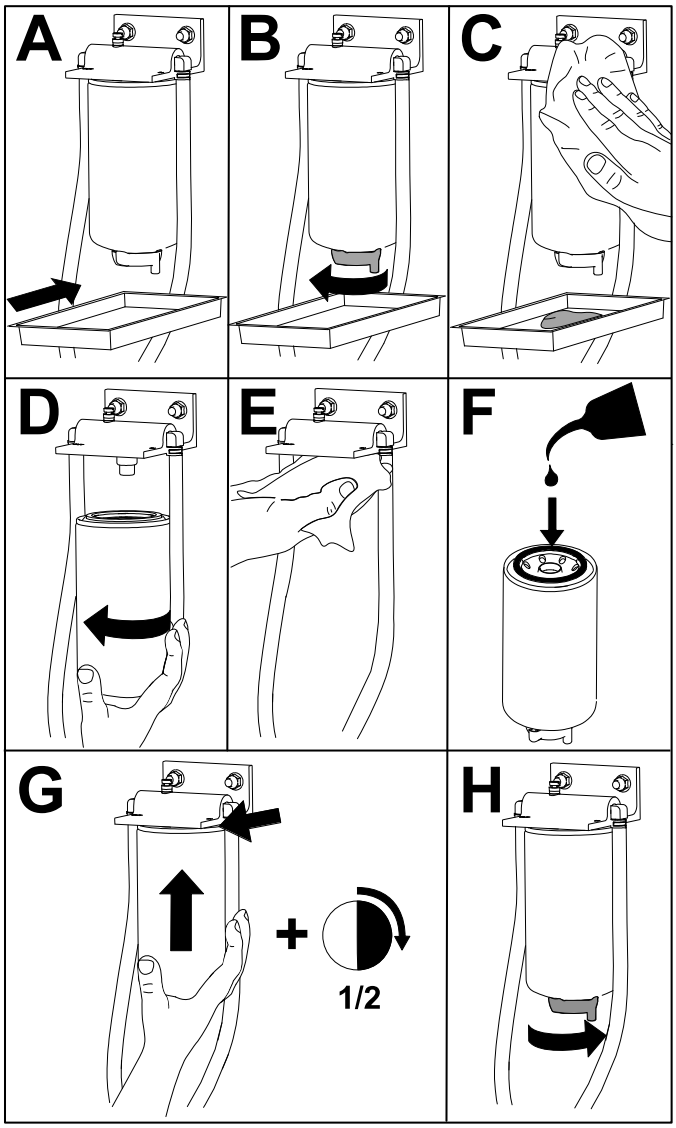

G452998

2. 高圧ポンプに通じるフィルタとラインにプライミングを行う。

# 燃料/水セパレータの整備 （続き）

## 燃料/水分離フィルターの交換

1. 図に示すようにフィルタを交換する。




G452996

2. 高圧ポンプに通じるフィルタとラインにプライミングを行う；を参照。

# 燃料フィルタの整備

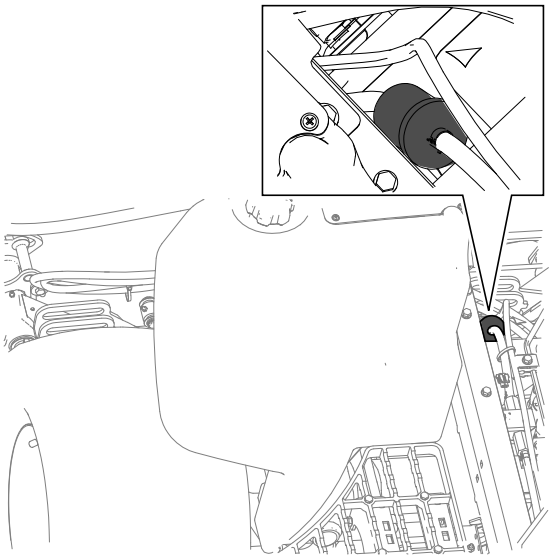
1. 運転席を前に倒す。
2. 4本のボルトを外して、フロアプレートを取り外す。
3. 燃料フィルタのホース接続部の周囲を清掃する。

   **注:** ホースの接続部の清掃には、きれいな布を使ってください。
4. ホースを燃料フィルタのフィッティングに固定しているクランプをゆるめて、ホースをフィッティングから取り外す。
5. フィルタの下にドレンパンを置き、フィルタを取り外す。

# 燃料フィルタの整備 （続き）

6. 新しいフィルタを取り付け、ホースを接続する。

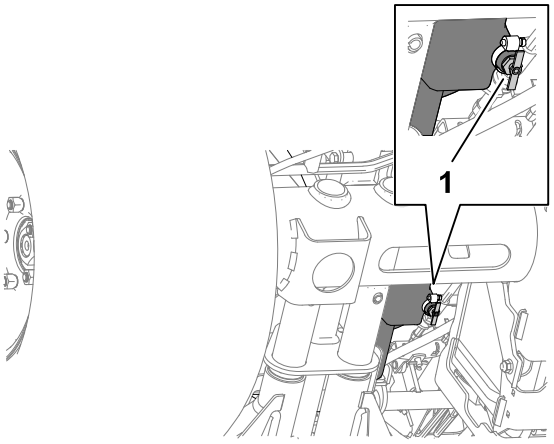
   **注:** フィルタの向きが図示のようになっていることを確認する。
7. ホースクランプを所定の位置に戻し、燃料ホースをフィルタに固定する。
8. 高圧ポンプに通じるフィルタとラインにプライミングを行う。
9. エンジンを始動し、フィルタのホース接続部の周辺に漏れがないか点検する。



G439246

# 燃料タンクの内部清掃

1. マシンのメンテナンスの準備をする。
2. 燃料タンクのドレンバルブの下にドレンパンを置く①。
3. ドレンバルブを開き、タンクから排出される燃料を回収する。
4. タンクの清掃にはきれいな燃料を使用してください。
5. ドレンバルブを閉じる。




G415054

# 燃料ラインとその接続の点検

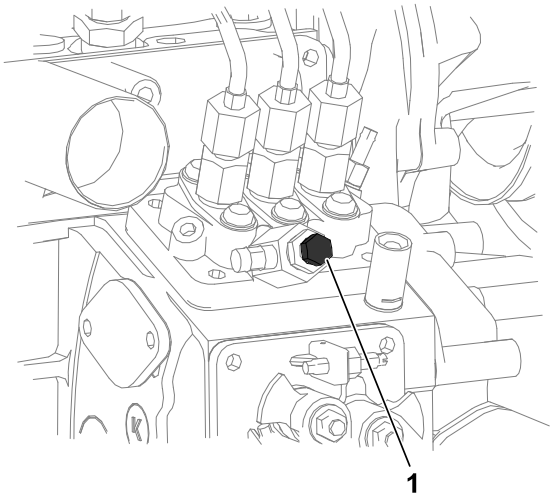
1. 劣化・破損状況やゆるみが発生していないかを調べてください。
2. 劣化したクランプやホースは交換すること。

   **注:** 燃料ラインを交換した場合は、エア抜きを行ってください。

# 燃料系統からのエア抜き

1. マシンのメンテナンスの準備をする。
2. 燃料タンクに少なくとも半分まで燃料が入っていることを確認する。
3. フードを開ける。
4. 燃料噴射ポンプのエア抜きねじ①をゆるめる。
5. キーを ON 位置に回す。

   **注:** 電動燃料ポンプが作動を開始し、エア抜きねじの周囲からエアが漏れ出してくる。
6. ねじを締め付け、イグニッションキーをOFF位置に回す。
7. フードを元に戻してラッチを掛ける。



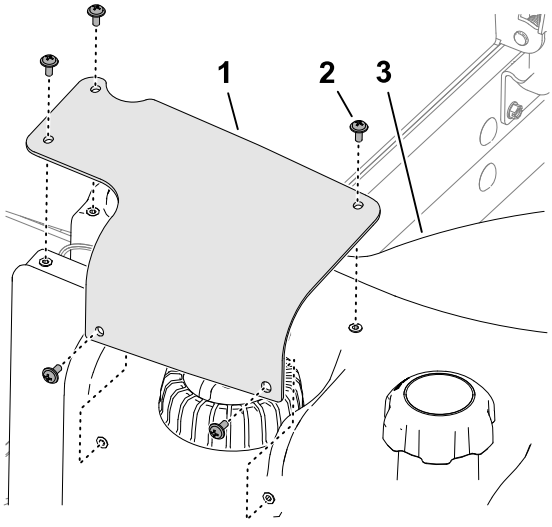
G439312

# 燃料供給チューブのスクリーンの清掃

## 燃料供給チューブの取り外し

燃料タンク内部にある燃料供給チューブには、燃料系統に異物が入るのを防止するスクリーンがついています。必要に応じてこのチューブを取り外してスクリーンを清掃してください。

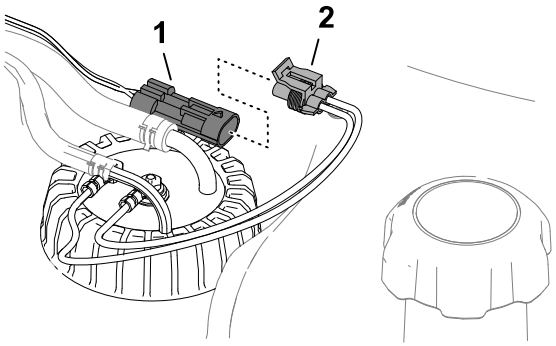
1. マシンのメンテナンスの準備をする。
2. ねじ ②（5本；燃料センダ①のカバーを燃料タンク③に固定している） を外してカバーを外す。



G415055

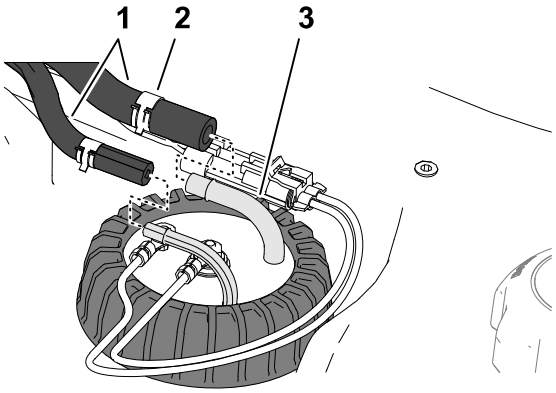
# 燃料供給チューブのスクリーンの清掃 （続き）

3. 燃料センダハーネス②の2 - ソケットコネクタを、マシンのワイヤーハーネス①の2 - ピンコネクタから取り外す。



G415056

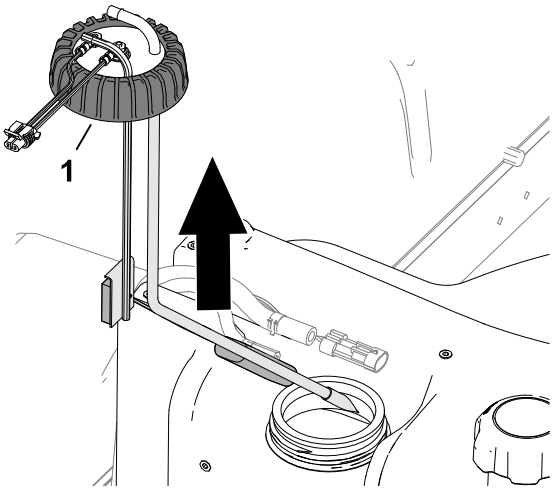
4. クランプ②（ホース①を燃料フィルターのフィッティング③に固定している）を内側に動かしてホースをフィッティングから取り外す。



G415057

5. 燃料センダキャップ①をゆるめる。
6. 燃料センダを持ち上げてタンクから注意深く取り出す。

   **注:** 供給チューブ、戻りチューブ、フロートアームを曲げてしまわないよう注意してください。

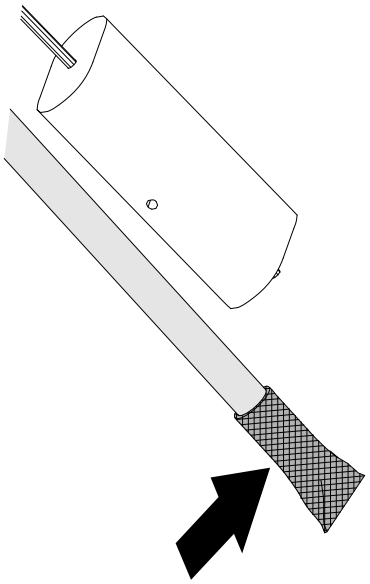


G415058

# 燃料供給チューブのスクリーンの清掃 （続き）

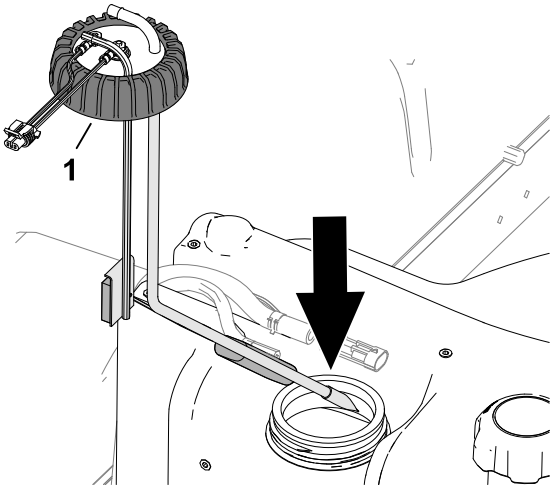
## 燃料ピックアップチューブの洗浄と取り付け

1. 燃料ピックアップチューブの端にあるスクリーンの汚れを取り除く。



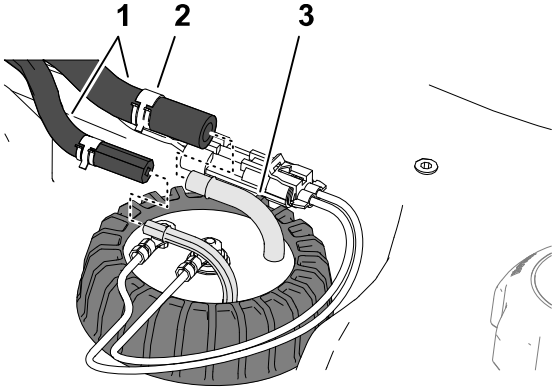
G415060

2. 燃料ピックアップチューブを慎重に組み立て、燃料タンクの中に浮かべる。
3. 供給チューブと戻りチューブのフィッティングを整列させる。
4. 燃料センダキャップ①を燃料タンクに締め付ける。




G415059

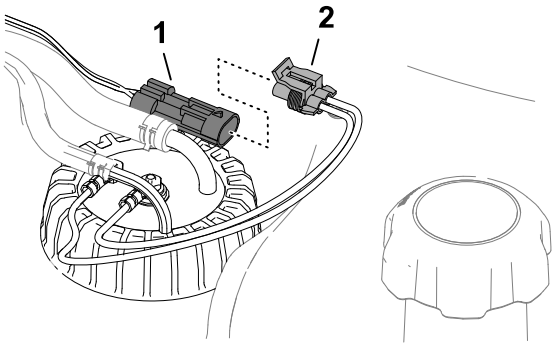
5. ホース①を燃料センダーのフィッティング③に取り付け、クランプ②で固定する。




G415057

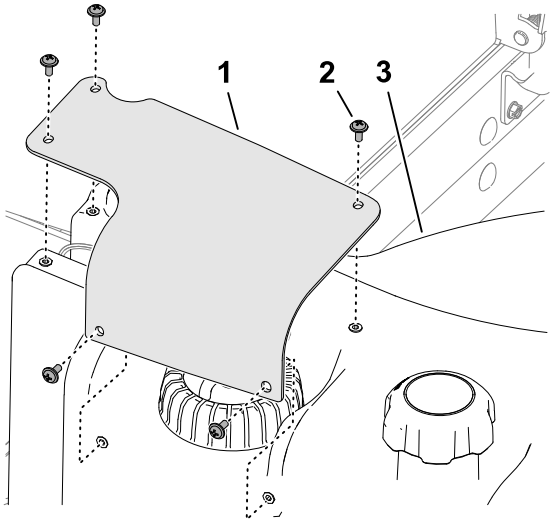
# 燃料供給チューブのスクリーンの清掃 （続き）

6. 燃料センダハーネス②のコネクタをマシンのワイヤーハーネス①のコネクタに差し込む。



G415056

7. 燃料センダのカバー①を燃料タンク③にねじ②5本で取り付ける。



G415055

# 燃料系統からのエア抜き

以下の後には燃料システムのエア抜きを行ってください。

- 燃料フィルタの交換。
- 水セパレータからの水抜き（毎回の使用後）。
- 燃料切れ
- 燃料ホースの交換など燃料システムに空気が侵入する作業。

燃料システムのプライミング手順は以下の通りです：

**重要**

**スタータを回してエンジンをクランキングさせてのプライミングはしないでください。**

1. 燃料タンクに燃料が入っていることを確認する。
2. ポンプの磨耗や損傷を防ぐために、次の手順を実行してフィルタと高圧ポンプへのラインにプライミングを行う。
   A. キーを ON 位置に回して15-20秒間待つ。

# 燃料系統からのエア抜き （続き）

B. キーを OFF 位置に回して30-40秒間待つ。

**注:** これにより ECU の電源がOFF になります。

C. キーを ON 位置に回して15-20秒間待つ。

D. フィルタやホースからオイル漏れしていないか点検する。

E. エンジンを始動し、漏れがないか点検する。

# 電気系統の保守

## 電気コードの点検

電気ケーブルの損傷、磨耗、取り付けの緩み、天候劣化、化学劣化がないか点検してください。

**注:** 異常を発見したら必ず運転を行う前に修理してください。

## バッテリーの接続を外す

**危険**

**電解液には硫酸が含まれており、触れると火傷を起こし、飲んだ場合には死亡する可能性がある。**

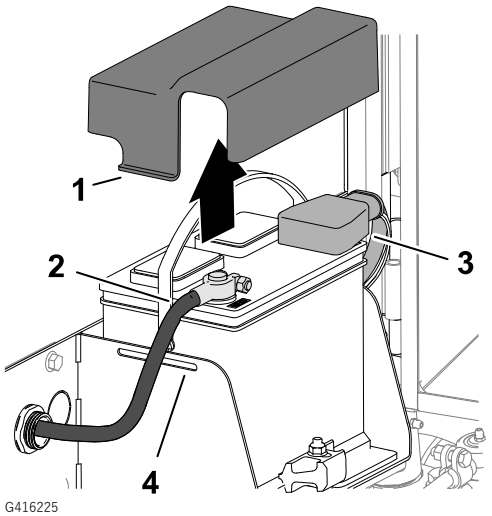
- **電解液を飲まないこと。また、電解液を皮膚や目や衣服に付けないよう十分注意すること。**
- **安全めがねとゴム製手袋を着用すること。**
- **皮膚に付いた場合にすぐに洗浄できるよう、必ず十分な量の真水を用意しておくこと。**

---

1. マシンのメンテナンスの準備をする。
2. スクリーンを開く。

# バッテリーの接続を外す （続き）

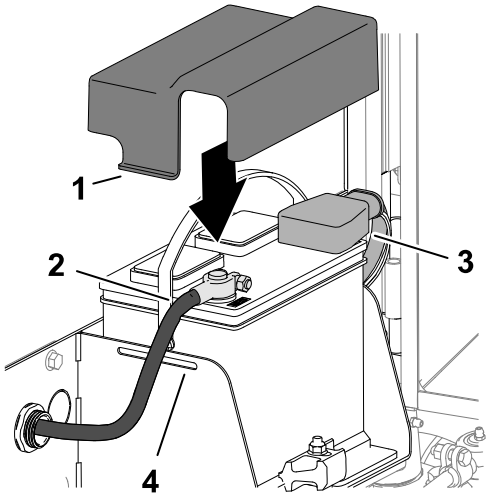
3. バッテリーカバー①の側面を押して、バッテリー トレイ④からカバーを取り外す。
4. バッテリーのマイナスケーブル②を外す。
5. 絶縁体カバー③をスライドさせてプラスのバッテリケーブルクランプから外し、プラスのバッテリケーブルを外す。



G416225

# バッテリーを接続する

1. プラスのバッテリー ケーブル (赤) ③をバッテリー のプラス (+) 端に取り付ける。
2. マイナスのバッテリー ケーブル (黒) ②をバッテリー のマイナス (-) 端に取り付ける。
3. Grafo 112X (スキンオーバー) グリース、Toro 部品番号 505-47をバッテリー 極端とバッテリーケーブルクランプに塗布する。
4. プラスのバッテリーケーブルクランプにゴム製絶縁カバーを取り付ける。
5. ①④カバーのツメをバッテリー トレイのスロットに挿入して、バッテリーの上にカバーを取り付ける。
6. スクリーンを元に戻してラッチを掛ける。



G416226

# バッテリーを充電する

1. バッテリーの接続を外します。
2. 充電器に接続し、充電電流を 3-4 A にセットする。
3. 3-4 Aで4-8時間充電する。
4. 充電が終わったらチャージャをコンセントから抜き、バッテリー端子からはずす。
5. バッテリーを接続する。

# バッテリーの整備

**注:** 端子や周囲が汚れていると自然放電しますので、バッテリーが汚れないようにしてください。

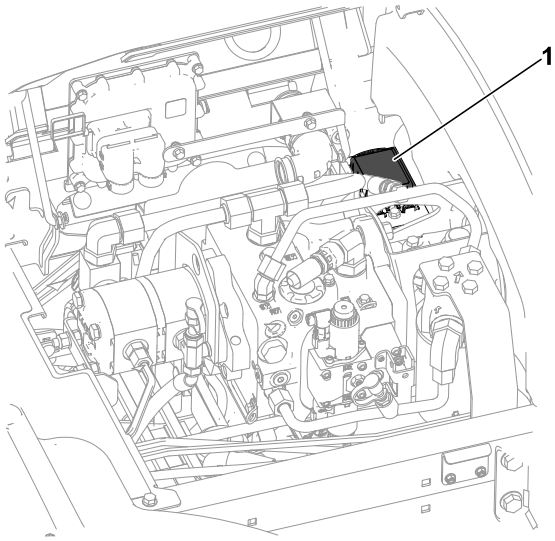
1. マシンのメンテナンスの準備をする。
2. スクリーンを開く。
3. バッテリーの状態の点検。

   **注:** 磨耗したり破損したりしたバッテリーは交換してください。
4. バッテリーケーブルを外し、バッテリーをマシンから取り外す。
5. 重曹と水（重曹水）でケース全体を洗浄する。
6. 真水でケースを仕上げ洗いする。
7. バッテリーをマシンに取付け、バッテリーケーブルを接続する。
8. スクリーンを元に戻してラッチを掛ける。

# 12 V ヒューズブロックのヒューズの交換

ヒューズブロック①は運転席の下にあります。

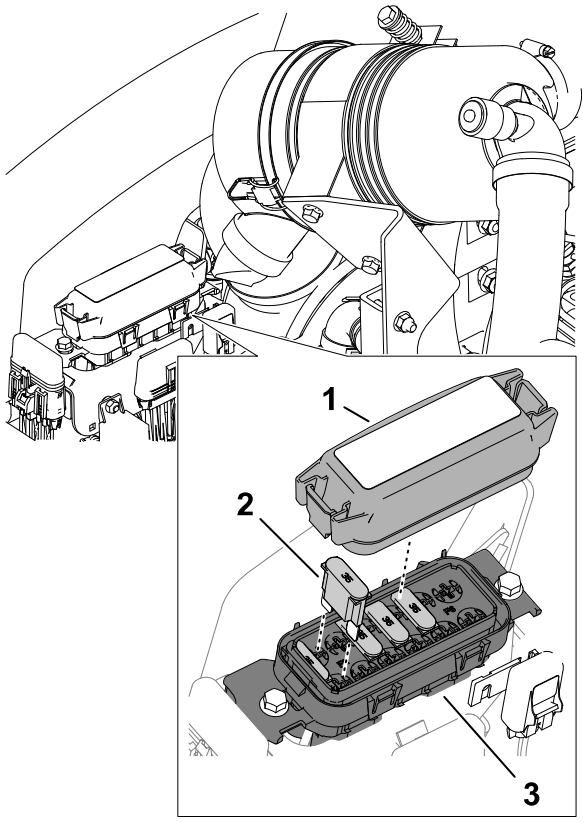
1. マシンのメンテナンスの準備をする。
2. ラッチを外して運転席を倒す。
3. 切れたヒューズを、同じタイプで同じ定格アンペア数のヒューズと交換する。
4. 運転席を元通りにしてラッチを掛ける。




# カッティングユニットの 48 V ヒューズの交換

1. フードのラッチを外してフードを開ける。
2. エンジンの左側前部にある、ヒューズブロックのカバーを取り外す。

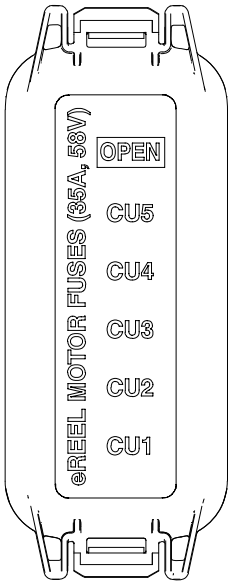
# カッティングユニットの 48 V ヒューズの交換 （続き）




G416230

1. カバー
2. Maxi ヒューズ
3. 48 V ヒューズブロック

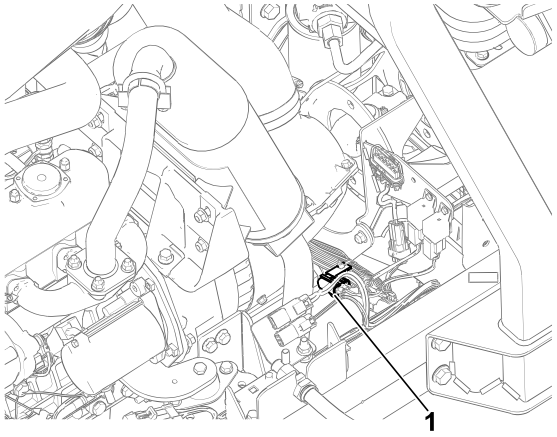
3. ヒューズブロック内で切れたヒューズを見つける。
4. ヒューズを同じタイプで同じアンペア数のヒューズと交換する。アンペア数については、ヒューズブロックカバーの内側にあるデカールを参照。
5. 48Vヒューズブロックにカバーを取り付ける。
6. フードを元に戻してラッチを掛ける。




G416231

# リール回転許可ヒューズの交換

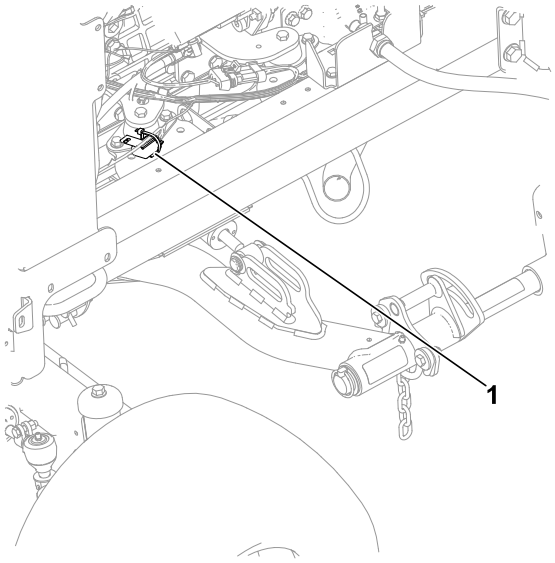
1. マシンのメンテナンスの準備をする。
2. フードのラッチを外してフードを開ける。
3. エンジンの正面右側にある、Enable Fuse 10 A 125 V□?①というラベルの付いたインラインヒューズホルダーからキャップを取り外す。
4. 切れているヒューズを、同じタイプ、同じ電流値のヒューズに交換する。
5. インラインヒューズホルダーにキャップを取り付ける。
6. フード元に戻してラッチを掛ける。



G439309

# 主電源ヒューズの交換

1. マシンのメンテナンスの準備をする。
2. フードのラッチを外してフードを開ける。
3. エンジンの右側後部にある、Main B+ Power Fuse□? ①というラベルの付いたインラインヒューズホルダーのカバーを取り外す。
4. 切れているヒューズを、同じタイプ、同じ電流値のヒューズに交換する。
5. インラインヒューズホルダーにキャップを取り付ける。
6. フード元に戻してラッチを掛ける。



G439310

# ドライブシステムのメンテナンス

## タイヤ空気圧を点検する

**警告**

**タイヤ空気圧が不足すると、斜面で機体が不安定になり、横転の原因となり、死亡または重傷を負う可能性がある。**

**タイヤ空気圧は規定値以下に下げてはならない。**

---

**注:** 全部のタイヤを同じ圧力に調整しないと機械の性能が十分に発揮されず、刈り上がりの質が悪くなります。

1. 各タイヤの空気圧を測定する。タイヤの適正空気圧は、0.83-1.03 bar（12-15 psi）。
2. 必要に応じて、測定値が0.83-1.03 bar（12-15 psi）になるように、タイヤに空気を追加またはタイヤから空気を抜く。

## ホイールナットのトルク締めを行う

ラグナットを対角線パターンで**94-122 N·m (10.2 - 13.2kg・m)**のトルクで締め付ける。

**警告**

**ホイールナットの適切なトルクを維持しないと、死亡事故や重傷事故を起こす危険がある。**

**ホイールナットのトルクを適切に維持すること。**

---

## アクスルハブナットの締め付け

1. フロントアクスルのハブナットを**407-542 N·m 44.0 - 58.5kg・m)**のトルクで締め付ける。
2. **CrossTrax**®機能付きのマシンでは、リアアクスルのハブ ナットを366-447 N·m (39.5 - 48.3kg・m) にトルク締めする。

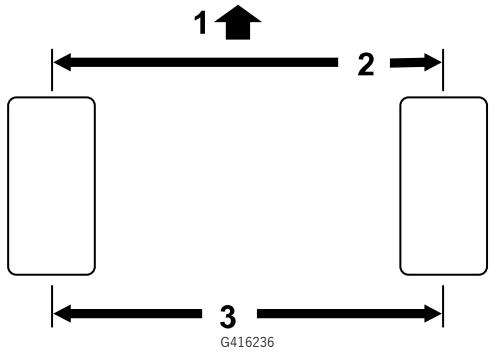
## 後輪のアライメント点検

1. ハンドルを操作して後輪を真っ直ぐ前後方向に向ける。
2. マシンのメンテナンスの準備をする。

# 後輪のアライメント点検 （続き）

3. アクスルの高さで、左右のステアリングタイヤの中心線間の距離をタイヤの前面と後面で測定する。

   **注:** タイヤ前面での測定値とタイヤ後面での測定値との差が 6 mm 以下であれば後輪のトーインは適正である。



G416236

① トラクションユニットの前部
② タイヤの後ろでの測定よりも 6 mm 小さい
③ 中心線から中心線までの距離

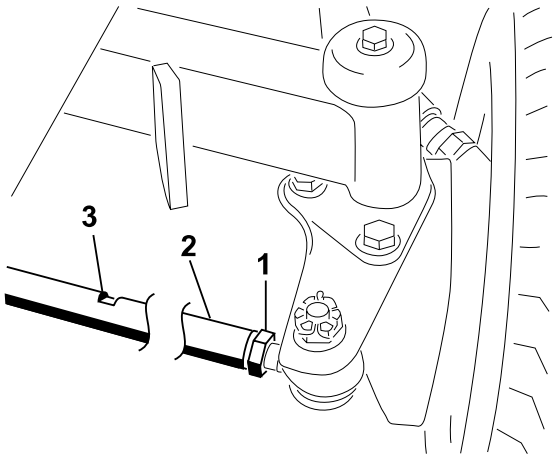
4. 差が 6 mm よりも大きい場合には調整を行う；を参照。

# 後輪のトーインの調整

1. 各ジャムナット① （タイロッド②の端部にある）をゆるめる。

   **注:** タイロッド外側に溝が切ってあるところのねじは左ねじですから注意してください。
2. フラット面③にレンチを当ててタイロッドを回転させる。
3. アクスルの高さで、左右のステアリングタイヤの中心線間の距離をタイヤの前面と後面で測定する。

   **注:** タイヤ前面での測定値とタイヤ後面での測定値との差が 6 mm 以下であれば後輪のトーインは適正である。
4. 必要な手順 1-2 を繰り返す。
5. ジャムナットを締めつける。



G416237

# 冷却システムのメンテナンス

## 冷却液の仕様

出荷時に、冷却液タンクに、所定の長寿命冷却液（水とエチレングリコールの 50/50 混合液ベース）を入れてあります。

**重要**

**長寿命冷却液の仕様表の内容に合致する市販の冷却液以外は使用しないでください。**

**従来タイプ（緑色）の無機酸技術（IAT）の冷却は使用しないでください。また、長寿命冷却液と従来タイプを混合しないでください。**

### 冷却液の仕様

| エチレングリコール系冷却液 | 腐食防止剤のタイプ |
|---|---|
| 長寿命不凍液 | 有機酸技術（OAT；Organic-acid technology） |

**重要**

**従来の（緑色）冷却液（IAT：無機酸技術製品）と長寿命冷却液は、目で見た時の色で区別することはできません。**

**長寿命冷却液は、以下の色で着色されている場合があります：赤、ピンク、オレンジ、イエロー、ブルー、青緑、紫、緑。必ず仕様に合致する長寿命冷却液を使用してください。**

### 長寿命冷却液の規格

| ATSMインターナショナル | SAEインターナショナル |
|---|---|
| D3306, D4985 | J1034, J814, 1941 |

**重要**

**冷却液濃度：原液と水の 50/50 混合液。**

- **好ましい方法：**原液と蒸留水を混合する。
- **他の好ましい方法：**蒸留水が入手できない場合は、原液でなく、希釈済みの冷却液を購入する。
- **最低限度守るべき方法：**蒸留水も希釈済み製品も入手できない場合には、飲料水で原液を希釈する。

### 冷却システムの容量

約6.6 L

# 冷却液の量の点検

**⚠ 注意 ⚠**

**エンジンが作動している場合、加圧された高温の冷却液が漏れ、軽度または中程度の傷害を引き起こす可能性がある。**

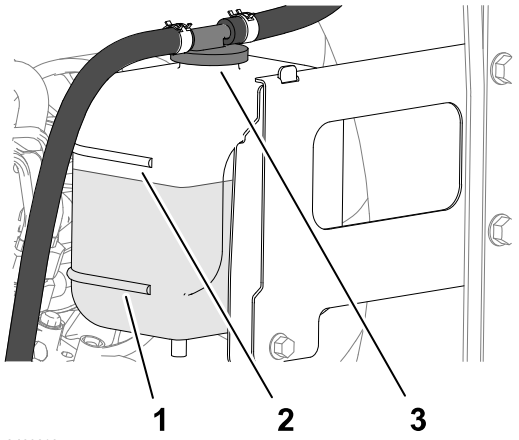
- **エンジン回転中はラジエターのふたを開けないこと。**
- **キャップを開けるときはウェスなどを使い、高温の水蒸気を逃がしながらゆっくりと開けること。**

---

1. マシンのメンテナンスの準備をする。
2. フードを開ける。
3. 膨張タンク内の冷却剤のレベルをチェックすること。

   **注:** 冷却水が、タンク側面の追加①マークと満量②マークの間にあればよい。
4. 冷却液が不足している場合には、補助タンクのキャップ③を開けて所定の冷却液を満量マークまで追加する。

   **注:** 補助タンクに冷却液を入れすぎないでください。
5. 補助タンクのキャップを取り付けて終了。
6. フードを元に戻してラッチを掛ける。



G439313

# 冷却系統のホースの点検

冷却システムのホースに漏れ、よじれ、取り付けサポートの緩み、摩耗、フィッティングの緩み、天候による劣化、化学的劣化がないか点検してください。

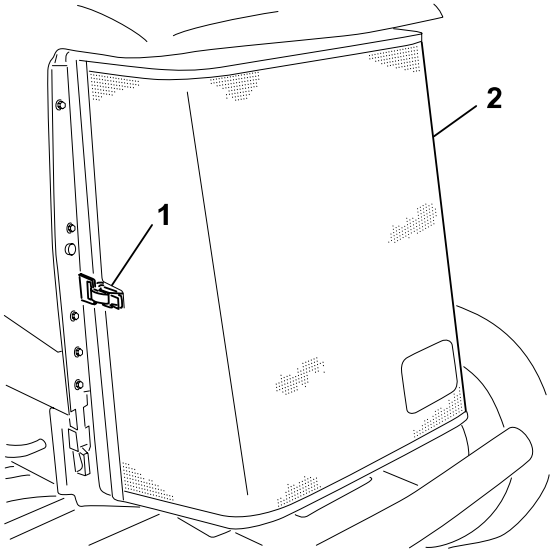
**注:** 異常を発見したら必ず運転を行う前に修理してください。

# エンジンの冷却系統の清掃

1. マシンのメンテナンスの準備をする。
2. フードを上げる。
3. エンジン部を丁寧に清掃する。
4. フード元に戻してラッチを掛ける。

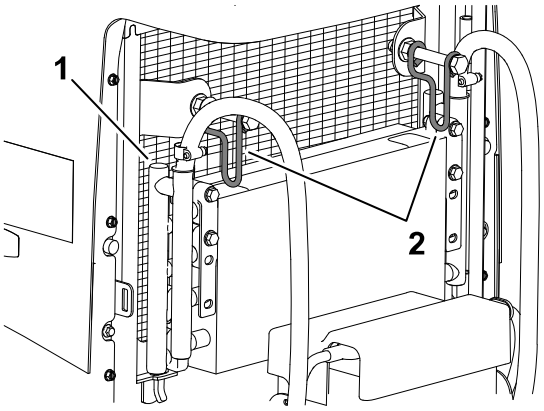
# エンジンの冷却系統の清掃 （続き）

5. 後部スクリーンのラッチ①を解除し、後部スクリーン②を回転させて開く。
6. スクリーンを圧縮空気で洗浄する。



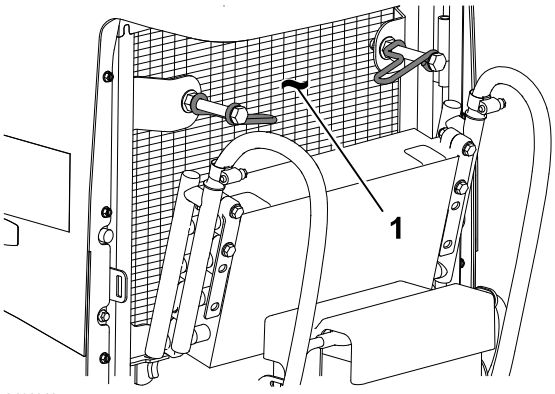
G416241

7. オイルクーラのラッチ2個②を内側に回し、オイルクーラー①を傾ける。



G416242

8. オイルクーラとラジエーター①の両側を圧縮空気でていねいに清掃する。
9. オイルクーラを立ててラッチ（2 ヶ所）で固定する。
10. スクリーンを元に戻してラッチを掛ける。



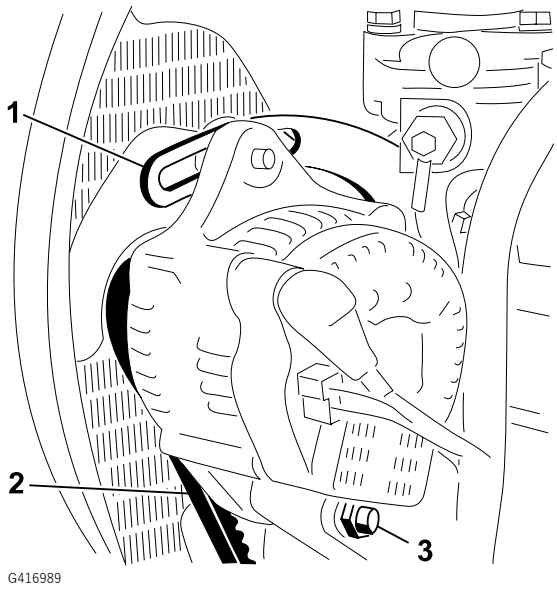
G416243

# ベルトのメンテナンス

## オルタネータベルトのテンション調整

1. マシンのメンテナンスの準備をする。
2. フードを開ける。
3. オルタネーターとクランクシャフトプーリー間の中間を押して、オルタネーターベルト②の張力をチェックする。

   **注:** 約 98 N（10 kg）の力で押したときに 11 mm 程度のたわみが出れば適正です。
4. たわみがこの範囲になければ、以下の要領で調整する：
   A. オルタネーターをブレース①に固定しているボルトとオルタネーターのピボットボルト③を緩める。
   B. オルタネータとエンジンの間にバールを入れてオルタネータを外側に動かしてベルトに張りを出す。
   C. ベルトの張力が適切になったら、オルタネーターをブレースに固定しているボルトとオルタネーターのピボットボルトを締める。
5. フード元に戻してラッチを掛ける。




# 油圧システムのメンテナンス

## 油圧作動液の仕様

油圧オイル溜めに高品質の油圧オイルを満たして出荷しています。初めての運転の前に必ず油量を確認し、その後は毎日点検してください。

**推奨油圧作動油：**Toro PX Extended Life作動油、19Lペール缶または208Lドラム缶で入手できます。

**注:** 推奨オイルを使用するとオイルやフィルタ交換の回数を減らすことができます。

**代替作動油：**ToroPX Extended Life作動油が入手できない場合は、以下のすべての材料特性が記載範囲内にあり、業界標準を満たしている従来の石油系作動油を使用できます。合成オイルは使用しないでください。オイルの専門業者と相談の上、適切なオイルを選択してください：

**注:** 不適切なオイルの使用による損害についてはToro は責任を持ちかねますので、品質の確かな製品をお使い下さる様お願いいたします。

# 油圧作動液の仕様 （続き）

## 高粘度インデックス／低流動点アンチウェア油圧作動液, ISO VG 46

物性：

| | |
|---|---|
| 粘度, ASTM D445 | cSt @ 40° C 44-48 |
| 粘性インデックス ASTM D2270 | 140 以上 |
| 流動点 ASTM D97 | -37° C–45° C |
| 産業規格： | Eaton Vickers 694 (I-286-S, M-2950-S/ 35VQ25 or M-2952-S) |

**注:** 多くの油圧オイルはほとんど無色透明であり、そのためオイル洩れの発見が遅れがちです。油圧オイル用の着色剤（20 ml 瓶）をお使いいただくと便利です。1瓶で 15-22 リットルのオイルに使用できます。Toro認定代理店に部品番号44-2500 を注文してください。

**重要**

**Toro プレミアム合成生分解油圧作動液は、Toro社がこの製品への使用を認めた唯一の合成生分解オイルです。この作動油は、Toro油圧システムで使われるエラストマーと互換性があり、幅広い温度条件に適しています。このオイルは通常の鉱物性オイルと互換性がありますが、十分な生分解性を確保し、オイルそのものの性能を十分に発揮させるためには、通常オイルと混合せず、完全に入れ替えて使用することが望まれます。オイルは、Toroの正規代理店から19 Lペール缶または208 Lドラム缶で入手できます。**

### 油圧タンク容量

41.6 L

# 油圧オイルの量を点検する

油圧オイル溜めに高品質の油圧オイルを満たして出荷しています。油圧オイルの点検は、オイルが冷えている状態で行うのがベストです。マシンは移動走行モードになっていることが必要です。

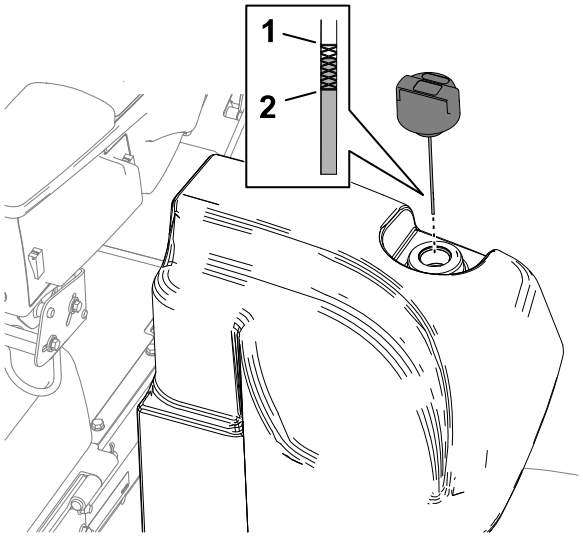
1. マシンのメンテナンスの準備をする。
2. 油圧オイルタンクの注油口周辺をきれいに拭き、キ ャップを外す。
3. 補給口の首からディップスティックを抜き、ウ ェスできれいに拭う。
4. もう一度首に差し込んで引き抜き、オイルの量を点検する。

   **注:** 正常域にあれば適正である。

**重要**

**燃料を入れすぎないでください。**

# 油圧オイルの量を点検する （続き）




① Full マーク（ディップスティック）　② Add マーク（ディップスティック）

5. 油量が少なければ適正量をFULLマークまで補給する。
6. 給油口にディップスティックを取り付ける。

# 油圧ラインとホースの点検

油圧ライン油圧ホースにオイル漏れ、ねじれ、支持部のゆるみ、磨耗、フィッティングのゆるみ、風雨や薬品による劣化などがないか十分に点検してください。

**注:** 異常を発見したら必ず運転を行う前に修理してください。

# チャージフィルタの交換

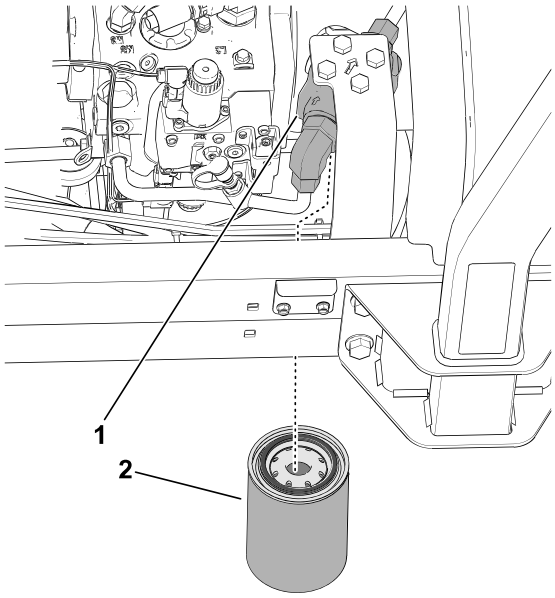
**重要**

**純正品以外のフィルタを使用すると関連機器の保証が適用されなくなる場合があります。**

1. マシンのメンテナンスの準備をする。
2. 運転席を倒す。

# チャージフィルタの交換 （続き）

3. マシンの左側で、チャージフィルタ②の下にドレンパンを置く。
4. フィルタを外す。
5. フィルターヘッド①のフィルタ取り付け部分をきれいに拭く
6. 新しいチャージフィルタのガスケットに所定の油圧オイルを薄くぬる。
7. ガスケットが取り付け面に接触するまでフィルタを手でねじ込み、そこからさらに手で 1/2 回転増し締めする。
8. 座席を元に戻してラッチを掛ける。



G439314

# オイル漏れの有無を確認

1. エンジンを始動して 2 分間運転し、システム内のエアをパージする。
2. エンジンを停止してキーを抜き取り、戻りフィルタとチャージフィルタの取り付け部分からオイルが漏れていないか調べる。

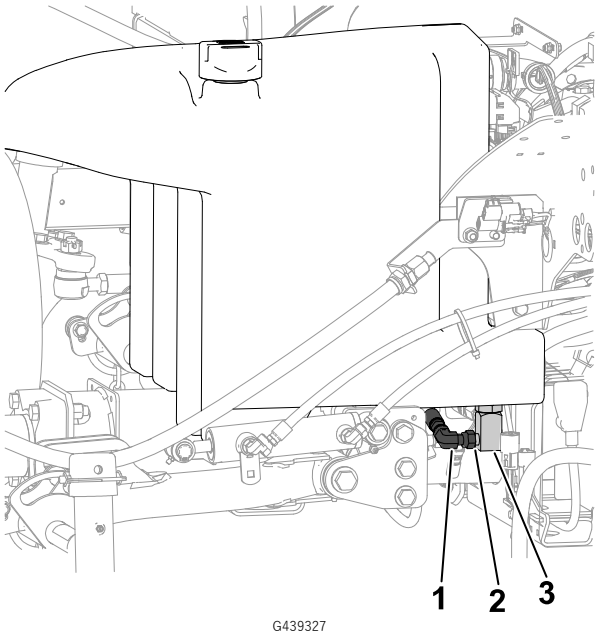
   **注:** オイルが漏れている場合はすべて修正する。

# 油圧オイルの交換

オイルが汚染されてしまった場合は油圧系統全体を洗浄する必要がありますので Toro 代理店にご連絡ください。汚染されたオイルは乳液状になったり黒ずんだ色になったりします。

1. マシンのメンテナンスの準備をする。
2. 油圧タンクの底部にあるマニホールドの下に大きなドレン パンを置く。

# 油圧オイルの交換 （続き）




G439327

1. マニホルド
2. ここのフィッティングを緩める
3. 90° フィッティング

3. 90° フィッティングをマニホールドから外し、タンクからオイルを抜く。
4. タンクからオイルが排出されなくなったら、90° フィッティングをマニホールドに接続する。
5. 所定のオイルをタンクに充填する。

**重要**

**指定された銘柄のオイル以外は使用しないでください。他のオイルを使用するとシステムを損傷する可能性があります。**

6. キャップを取り付ける。
7. エンジンを始動し、全部の油圧装置を操作して内部にオイルを行き渡らせる。
8. オイル漏れがないかチェックすること。
9. オイル量をチェックする。

# カッティングユニットの保守

## リールとベッドナイフの摺り合わせを点検する

前日の調子に係わりなく、毎回必ずリールとベッドナイフの接触状態を点検してください。

**注:** リールとベッドナイフの全長にわたって軽い接触が必要です。

# ブレードの停止時間のチェック

1. カッティングユニットを起動し、昇降レバーでカッティングユニットを上昇させる。
2. 上昇操作してからすべてのリールの回転が停止するまでの時間を観察する。

   **注:** 時間が7秒を超える場合は、認定サービスディーラーに連絡する。

# カッティングユニットのバックラップ

**警告**

**作動中のカッティングユニットやその他の可動部品とに接触すると、死亡または重傷を負う可能性がある。**

- **リールその他の可動部に手指、足、衣類等を近づけないよう注意すること。**
- **エンジンが動いている間は、止まったリールを絶対に手や足で回そうとしないこと。**

---

**注:** バックラップについて更に詳しい内容が「Toro リールモアの基本（研磨ガイドライン付き）」（Toro Reel Mower Basics） Form 09168SLに掲載されています。

## マシンの準備を行う

1. マシンのメンテナンスの準備をする。
2. エンジンを停止し、キーをRun位置にした状態で、インフォセンター ディスプレイの**メイン メニュー**にアクセスする。
3. **メインメニュー**から下へスクロールして**整備**メニューに入り、選択ボタンを押す。
4. **整備**で下にスクロールして、**フロントバックラップ**と**リアバックラップ**を選択する。右のナビゲーションボタンを押して、選択したカッティング ユニットのセットをOFFからONに切り替える。
5. バックラップする全てのカッティングユニットで、リールとベッドナイフをバックラップ用に調整する。

## リールとベッドナイフのバックラップ

1. エンジンを始動し、アイドル回転にセットする。

**警告**

**バックラッピング中にエンジン回転数を変更すると、カッティングユニットが失速する可能性があり、死亡または重傷を負う可能性がある。**

- **バックラップ中は絶対にエンジン速度を変えないこと。**
- **バックラップは、必ずエンジンをアイドリング速度にして行う。**

---

# カッティングユニットのバックラップ （続き）

2. PTOを作動させ、芝刈り昇降レバーを前方に動かして、指定されたリールでバックラッピング操作を開始する。
3. 長い柄のブラシを使ってラッピングコンパウンドを塗布しながらラッピングを続ける。

**危険**

**作動中のカッティングユニットに接触すると、死亡または重傷を負う可能性がある。**

**人身傷害を避けるため、作業を進める前にカッティングユニットから離れていることを確認すること。**

**重要**

**どんな場合でも短い柄のブラシは使用しないこと。**

4. リールの回転が止まってしまったり、回転が一定しない場合には、安定する速度までバックラップ速度を少しずつ上げていき、安定したところから希望する速度まで戻す。インフォセンターディスプレイのボタンを使って、これを行うことができます。
5. バックラップちゅうにカッティングユニットの調整を行う必要が出てきた場合：
   A. 芝刈り昇降レバーを後方に動かし、PTOを解除する。
   B. エンジンを止め、キーを抜き取る。
   C. カッティングユニットの調整を行う。
   D. 手順 1-3 を繰り返す。
6. バックラップする他のカッティングユニットに対しても手順3を繰り返す。

## バックラップの終了

1. 芝刈り昇降レバーを後方に動かし、PTOスイッチを押してPTOを解除する。
2. インフォセンターディスプレイのボタンを使って、バックラップ機能をオフにする。

**重要**

**バックラップ設定を OFF に戻さないと、カッティングユニットの上昇などの操作をすることができません。**

3. エンジンを止め、キーを抜き取る。
4. カッティングユニットについているラッピングコンパウンドを完全に洗い落とす。
5. バックラップが終わったら、ベッドナイフの前端に軽くヤスリ掛けを行うとさらに切れ味が向上します。

   **注:** バックラップすると刃先にバリができます。ヤスリを使ってベッドナイフの前面に対して90° の角度でバリを落とすと切れ味が向上します。

# カッティングユニットのバックラップ（続き）

6. 必要に応じてリールとベッドナイフの刃合わせを行う。
7. リール回転速度を、希望の速度位置にセットする。

# シャーシの整備

## シートベルトの点検

1. シートベルトに摩耗や破れなどの傷がないか点検する。一部でも正常に機能しないシートベルトは交換する。
2. 必要に応じてシートベルトを清掃する。

# 洗浄

## 機体の洗浄

必要に応じて水または水と刺激の少ない洗剤で車体を洗浄する。柔らかい布などを使っても構いません。

**重要**

- **塩分を含んだ水や処理水は機体の洗浄に使用しないでください。**
- **圧力洗浄機で機体を洗浄しないでください。高圧の水で洗浄すると電気系統の損傷、重要なデカルのはがれ、グリス部への水の浸入などを起こす恐れがあります。コントロールパネル、エンジン、バッテリーの周囲に大量の水を掛けないでください。**
- **洗浄はエンジンを止めて行ってください。エンジンを掛けたままで洗浄を行うとエンジン内部に損傷を起こす恐れがあります。**

# 格納保管

## マシンの保管

1. 平らな場所に駐車し、カッティングユニットを降下させ、駐車ブレーキを掛け、エンジンを停止させてキーを抜き取る。
2. トラクションユニット、カッティングユニット、エンジンをていねいに洗浄する。
3. タイヤ空気圧を点検する。
4. ボルトナット類にゆるみながいか点検し、必要な締め付けを行う。
5. グリス注入部やピボット部全部をグリスアップする。余分のグリスやオイルはふき取る。
6. 塗装のはがれている部分に軽く磨きをかけ、タッチアップする。金属部の変形を修理する。
7. バッテリーとケーブルに以下の作業を行う：
   A. バッテリー端子からケーブルを外す。
   B. バッテリー本体、端子、ケーブル端部を重曹水とブラシで洗浄する。
   C. 腐食防止のために、ケーブル端子とバッテリー端子にGrafo 112X スキンオーバーグリース (Toro部品番号505-47) またはワセリンを塗る。
   D. 電極板の劣化を防止するため、60日ごとに24時間かけてゆっくりと充電する。
8. 次の手順でエンジンの整備を行う：
   A. エンジンオイルを抜き取り、ドレンプラグをはめる。
   B. オイルフィルタを外して捨てる。新しいオイルフィルタを取り付ける。
   C. エンジンに所定のモーターオイルを入れる。
   D. エンジンを始動し約 2 分間回転させる。
   E. エンジンを止め、キーを抜き取る。
   F. 新しいきれいな燃料を使って燃料タンクを洗浄する。
   G. 燃料関係のフィッティングを確実に固定する。
   H. エアクリーナをきれいに清掃する。
   I. エアクリーナの吸気口とエンジンの排気口を防水テープでふさぐ。
   J. 冷却水（エチレングリコール不凍液と水との 50/50 混合液）の量を点検し、凍結を考慮して必要に応じて補給する。

## バッテリーの保管

格納期間が30日間以上になる場合には、バッテリーを機体から外して満充電してください。充電終了後は、機体に取り付けて保存しても、機体から外したままで保存してもよい。機体に取り付けて保存する場合は、ケーブルを外しておいてください。温度が高いと

バッテリーは早く放電しますので、涼しい場所を選んで保管してください。バッテリーを凍結させないためには、完全充電しておくことが大切です。完全充電したバッテリー液の比重は 1.265-1.299 になる。

# カリフォルニア州プロポジション65に関する警告情報

## この警告は何ですか?

以下のような警告ラベルが張られた製品を見かけることがあるでしょう：

**警告：**ガンおよび先天性障害の恐れ —www.p65Warnings.ca.gov.

## Prop 65とは何のことですか?

Prop 65 は、カリフォルニア州で操業している企業、製品を販売している企業、カリフォルニア州で販売または同州に持ち込まれる可能性のある製品のメーカーを対象とした法律です。この法律では、ガン、先天性などの出生時異常の原因となることが知られている化学物質の一覧をカリフォルニア州知事が作成維持しこれを公表しなければならないと定められています。危険物リストは、日常の生活の中で使用するものから発見された数百種類の化学物質を網羅しており、毎年改訂されます。Prop 65 の目的は、こうした物質に触れる可能性があることを市民にきちんと知らせることです。

Prop 65 は、こうした物質を含む製品の販売を禁じているのではなく、そうした製品、製品の包装、製品に付属する文書などに警告を明記することを求めています。また、こうした警告があるからといって、その製品が何等かの安全基準に違反しているということではありません。実際、カリフォルニア州政府は、Prop 65 警告はその製品が安全か安全でないかを示すものではないと説明しています。□? こうした物質の多くは、様々な生活用品に何年も前から使用されてきておりますが、それらの物質が今までに何らかの健康問題を起こしたという記録はありません。さらに詳しい情報はこちらへ：https://oag.ca.gov/prop65/faqs-view-all.

Prop 65 の警告は、以下のうちのどちらかを意味しています：ある企業が自社製品への化学物質の使用量について評価したところ、目立った危険は何一つないとされる基準を超えていることがわかった、または (2) 製品に使用している化学物質は法律で規制されているものだったので、特に評価を行うことはせず、法に従って警告文を添付することにした。

## この法律はどこにでも適用されますか?

Prop 65 警告はカリフォルニア州でのみ要求される法律です。Prop 65 警告はカリフォルニア州のいたるところで目にすることができます。レストラン、八百屋、ホテル、学校、病院など、そして非常に多くの製品にも、この警告が印刷されています。さらには、オンラインやメールオーダーのカタログなどにも掲載されています。

## カリフォルニア州の警告は連邦政府の制限とどう違いますか?

Prop 65 の内容は連邦政府の規制や国際規制よりも厳しいものが大変多いです。Prop 65 の規制基準値は連邦政府基準に比べてはるかに厳しく、連邦政府基準では表示義務がないが、Prop 65 では表示義務があるものが数多く存在します。たとえば、Prop 65 の基準では、一日当たりの鉛の排出量が 0.5 グラムとなっており、これは連邦政府の基準や国際基準よりもはるかに厳しい数値です。

## 似たような製品なのに警告が付いていないものがあるのはなぜ？

- カリフォルニア州内で販売される場合には Prop 65 ラベルが必要でも、他の場所で販売される場合には不要だからです。
- Prop 65 関連で裁判となった企業が、和解条件として Prop 65 警告の表示に同意したが、そうした問題に巻き込まれていない企業の製品には何も表示されていないといったこともあるでしょう。
- Prop 65 の表示は必ずしも一律に行われているわけではないのです。
- 自社内で検討した結果、Prop 65 基準に抵触しないと判断して、警告の表示を行わないことを選択する企業もあります。警告が書かれていないからと言って、その製品に対象化学物質が含まれていないということは言えません。

## なぜToroは、この警告を含めているのでしょうか?

Toroは、消費者が購入および使用する製品について十分な情報に基づいた決定を行えるよう、できる限り多くの情報を提供することを選択しました。Toroでは、リスト記載物質のいくつかが自社製品に該当する場合、それらの物質のほとんどの量はごくわずかであって実際の表示義務はないことを認識した上で、排出量などを厳密に評価することなく、警告を表示するという判断をすることがあります。Toro製品からはそのような物資はほとんど出ない、あるいは「重大なリスクはない□?」範囲内であると判断される場合、Toroでは、十分な注意を払った上で Prop 65 警告を表示することを選択しま

した。これはまた、もし Toro がこうした警告を表示しなかった場合、カリフォルニア州政府や、Prop 65 の施行推進を目指す民間団体などから訴訟を提起される可能性もあるということも視野に入れての判断です。

メモ：

メモ：


TORO